

2 調査結果の分析

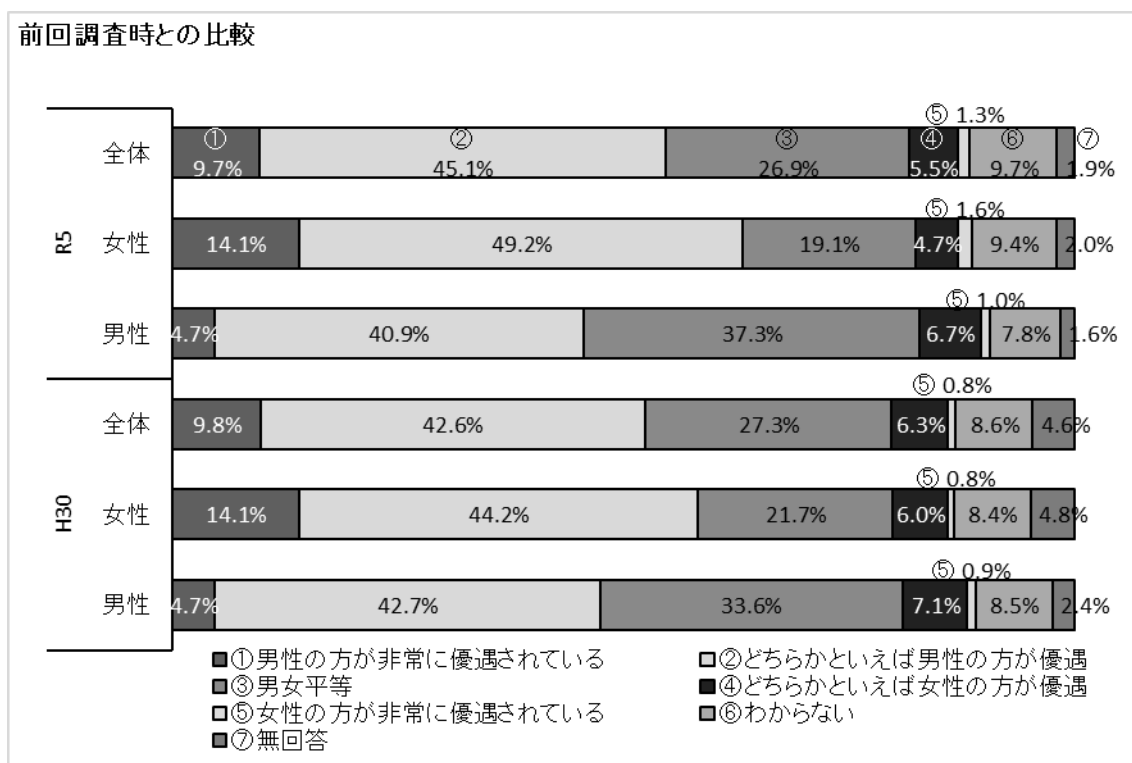
(1) 男女の役割や地位に関する意識について

■ 家庭生活

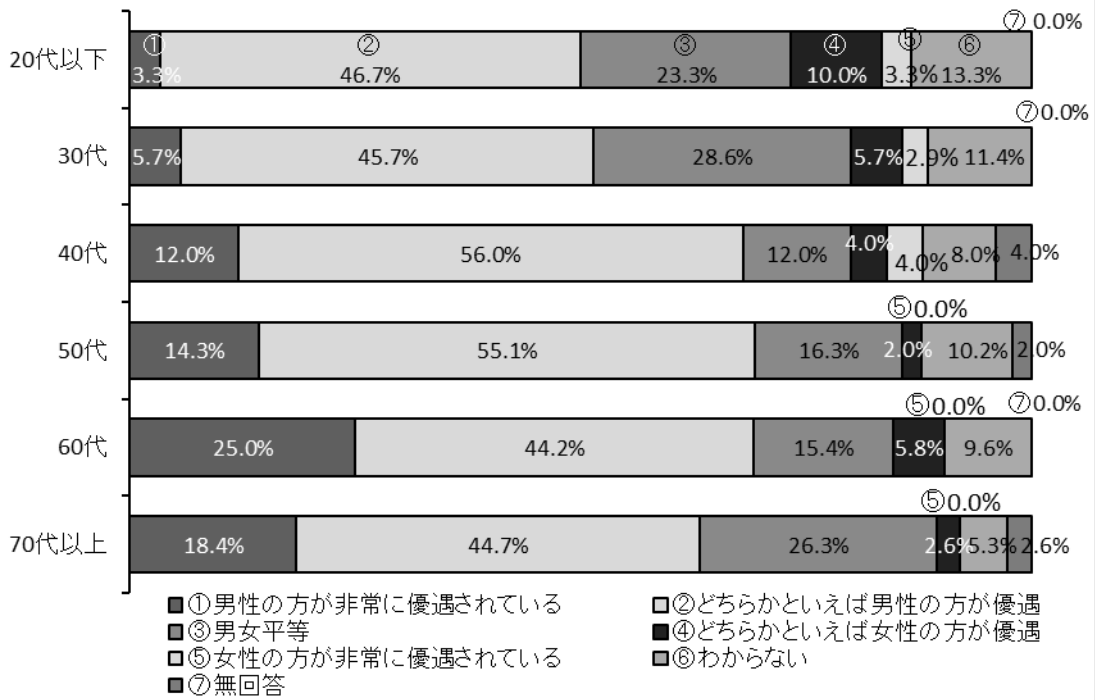
全体では、「男女平等」と回答した人は、26.9%であり、前回(27.3%)から0.4ポイント減っている。性別で見ると、女性は19.1%(前回21.7%)、男性は37.3%(前回33.6%)と前回に比べ、男性では増えているが、女性は減っている。

また、「男性の方が優遇されている」と感じている人が、全体の半数以上いるが、特に女性は多い結果となった。

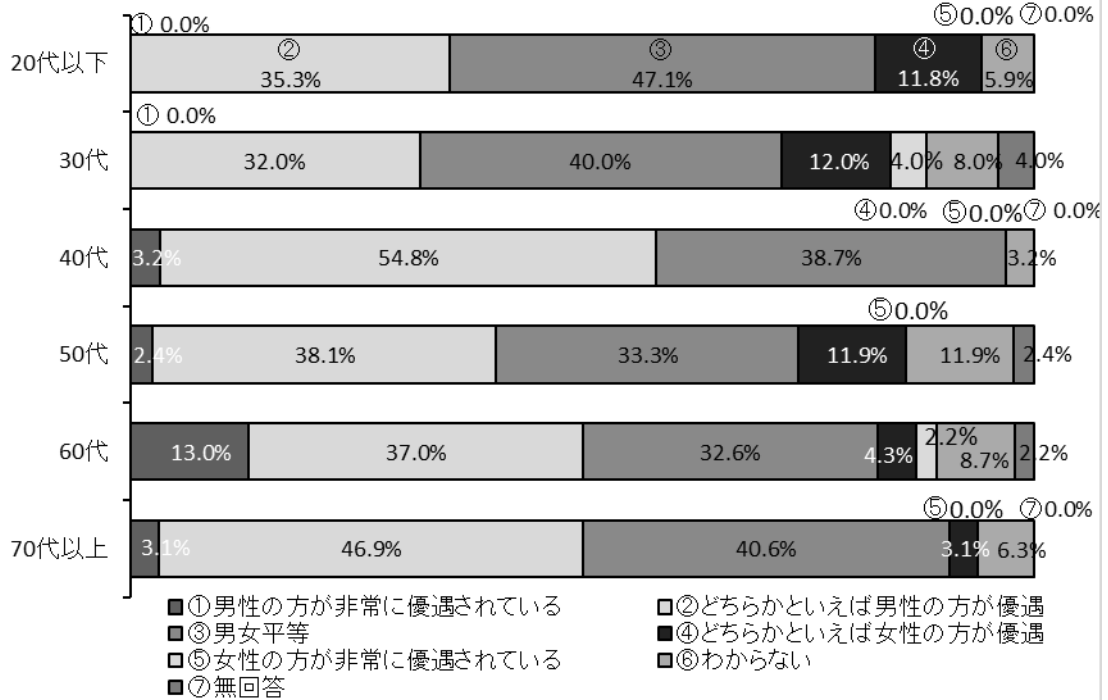
年代別で見ると、女性のすべての年代で「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答している人が5割を超えている。



【女性】



【男性】



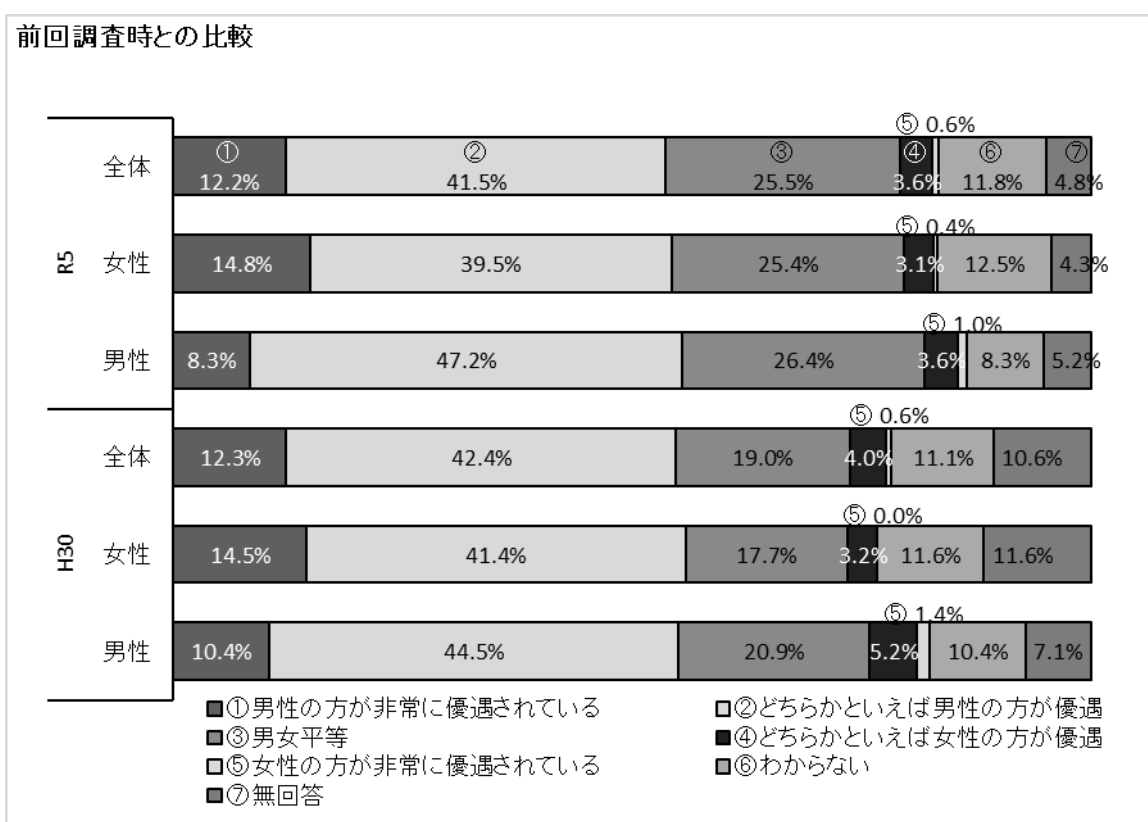
■ 職 場

「男女平等」と回答した人は、男女とも増えて全体で25.5%となり、前回（19.0%）より6.5ポイント増えた。「男女平等」と回答した人が最も多い年代は、女性では30代（37.1%）、男性では60代（34.8%）であった。

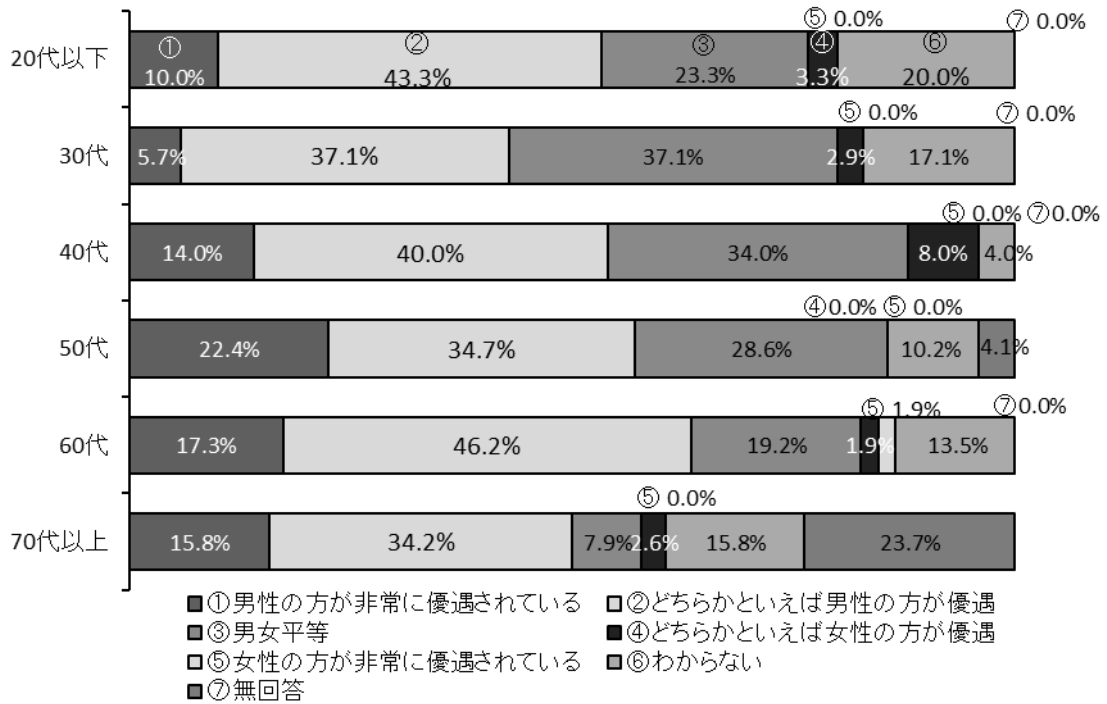
しかし、全体では依然として「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が5割を超え、不平等感がある。

なお、女性の60代、男性の40代、50代で、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が6割を超えている。

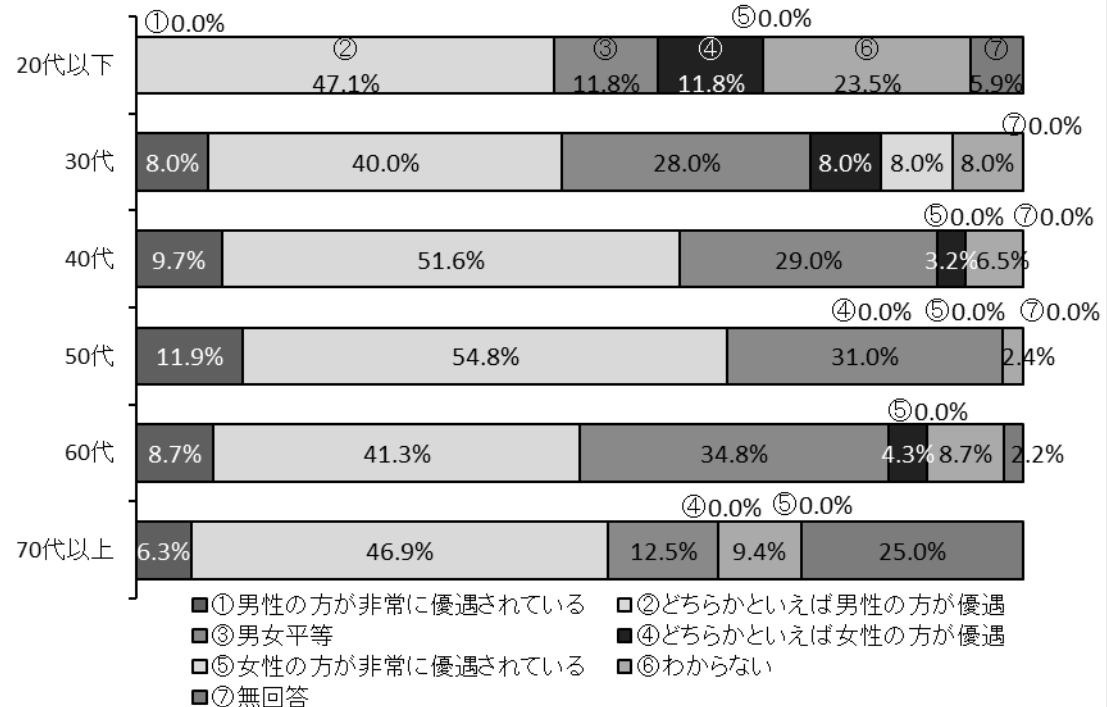
男性の20代では、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人がどの年代よりも多く11.8%となっている。



【女性】



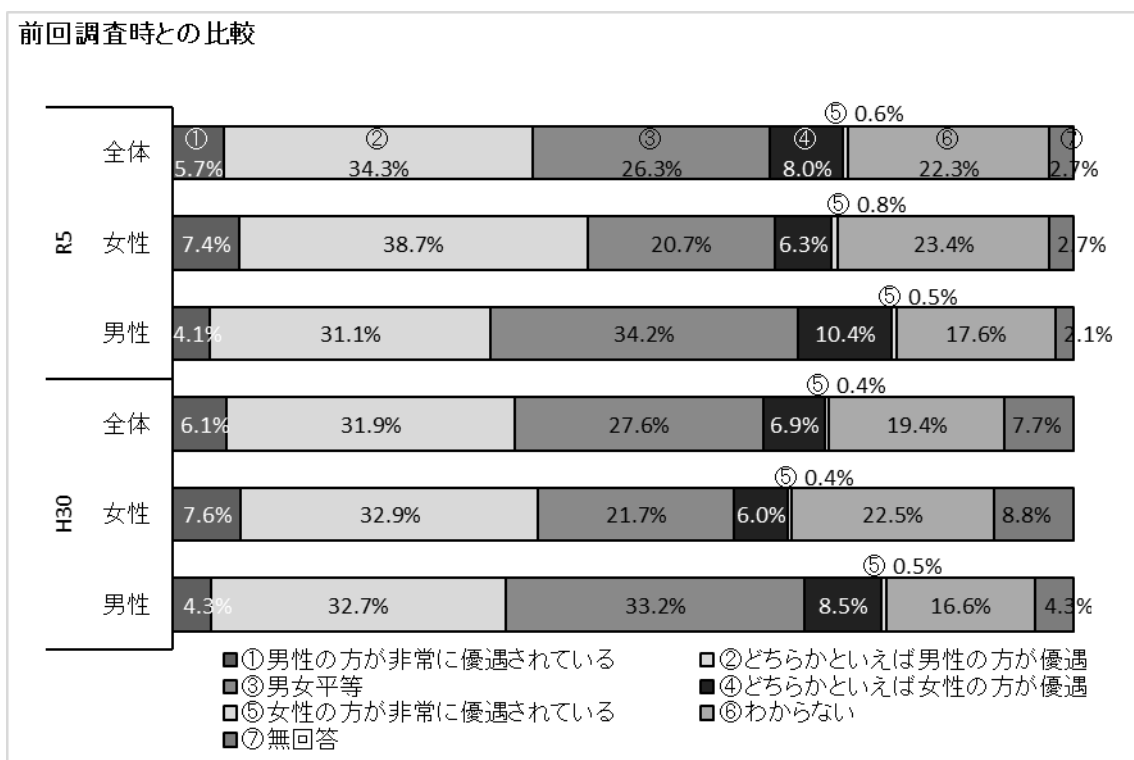
【男性】



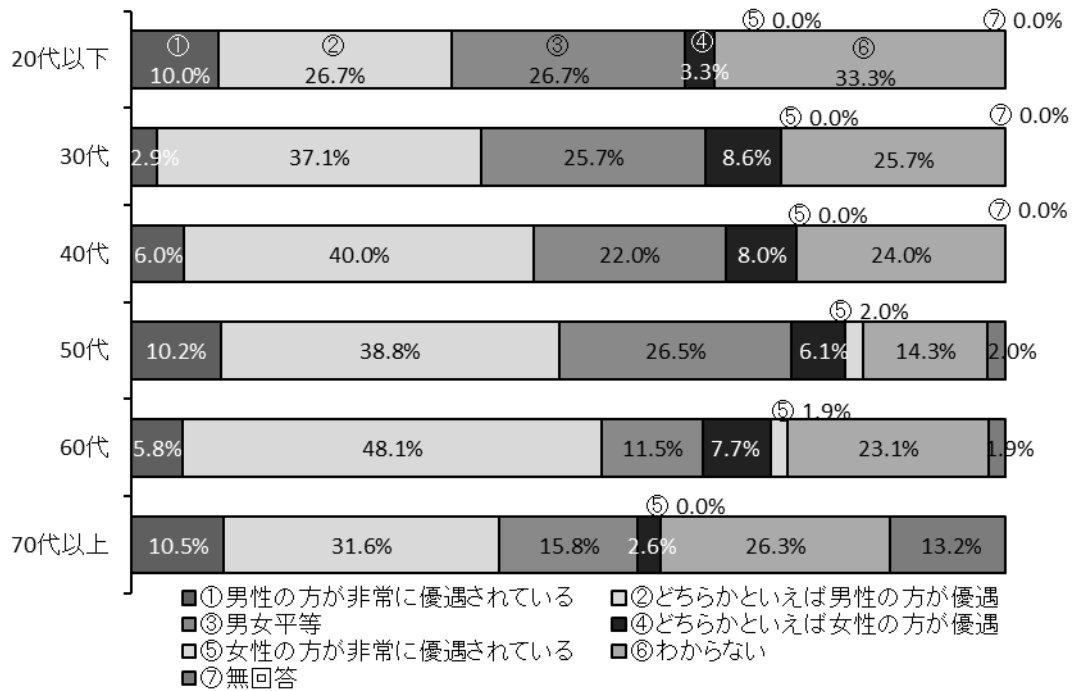
■ 地域活動

全体では、「男女平等」と回答した人は、26.3%であり、前回（27.6%）から1.3ポイント減っている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人は前回と比べて2.0ポイント増えており、依然として不平等感がある。一方で、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方が優遇されている」と回答した人は前回と比べて1.3ポイント増えている。

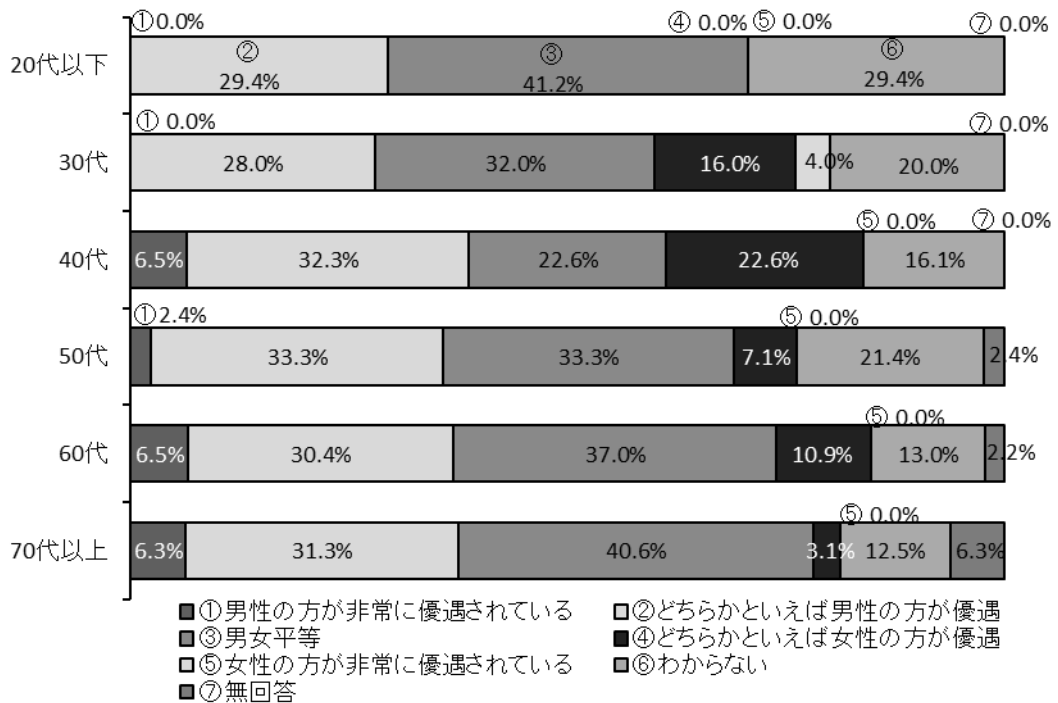
「わからない」と回答した人が、男女とも20代に多く、この年代では、地域とのかかわりが少ない可能性がうかがわれる。



【女性】



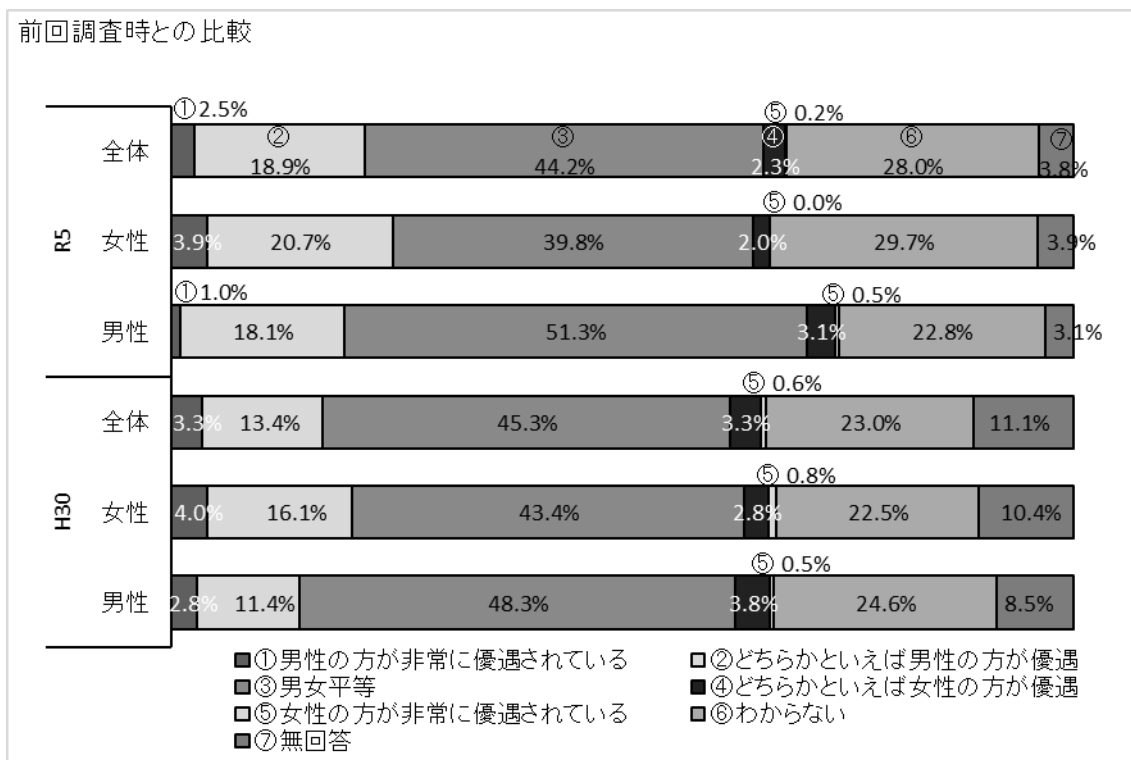
【男性】



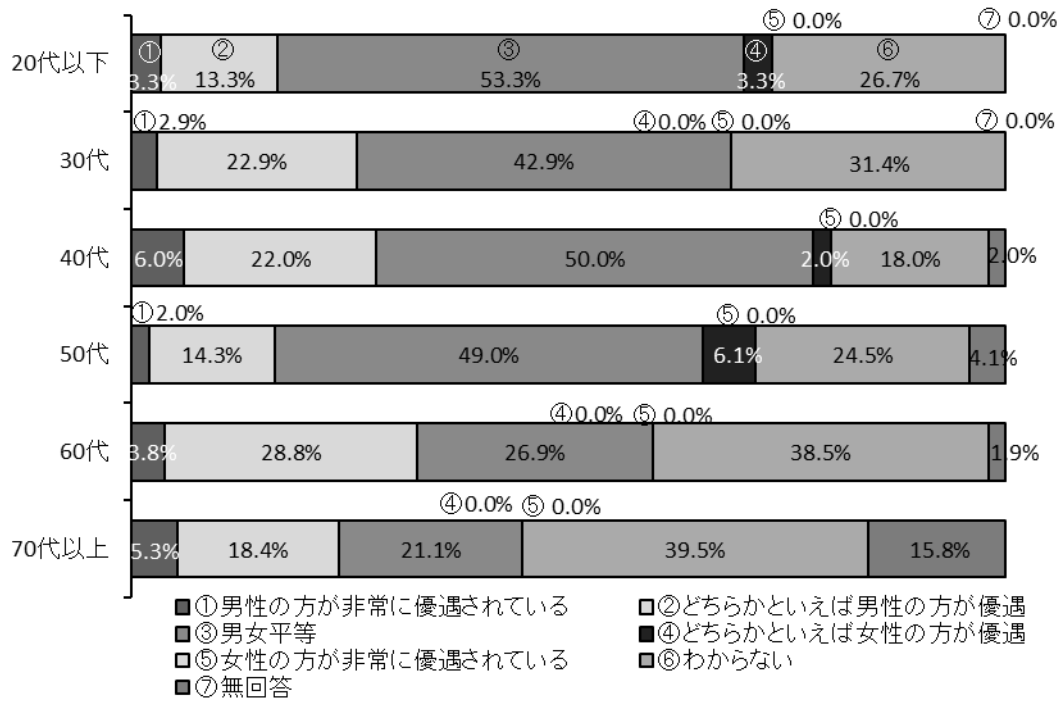
■ 学校教育の場

全体では、「男女平等」と回答した人は44.2%であり、前回（45.3%）から1.1ポイント減っている。特に女性では、「男女平等」と回答した人が3.6ポイント減っているが、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が4.6ポイント増えている。

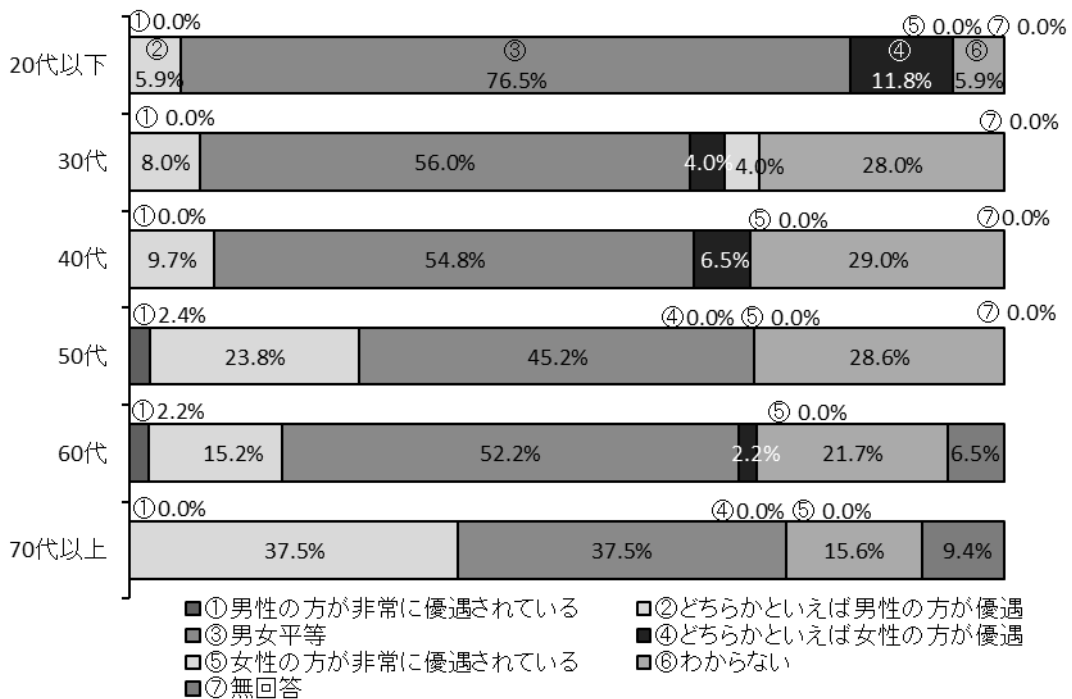
「男女平等」と回答した人が最も多い年代は、男女とも20代（女性53.3%、男性76.5%）であった。



【女性】



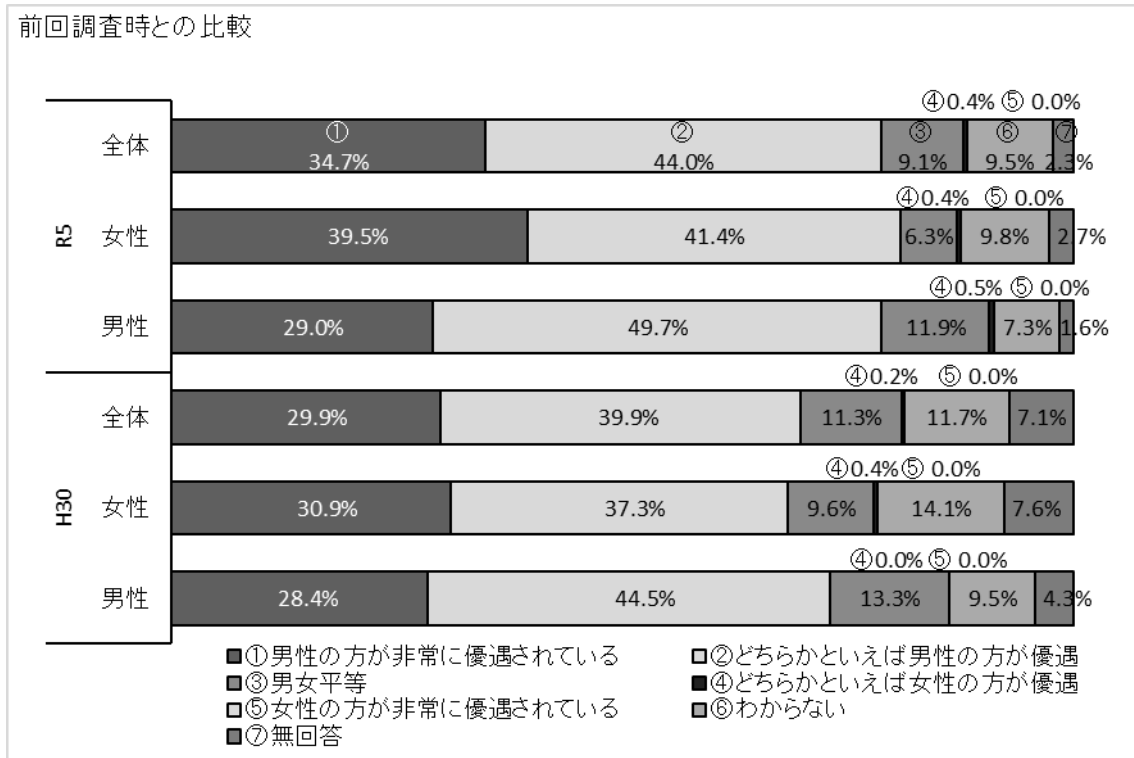
【男性】



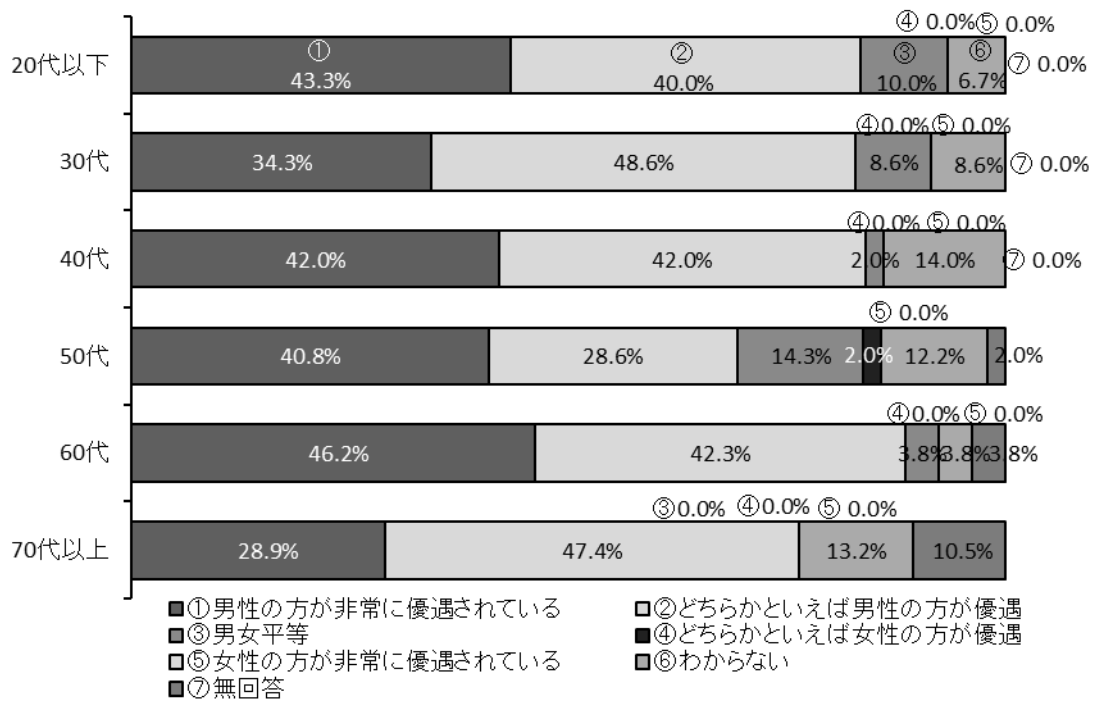
■ 政治の場

全体では、「男女平等」と回答した人は、9.1%と低く、前回（11.3%）より2.2ポイント減っている。特に女性で、3.3ポイント減っている。

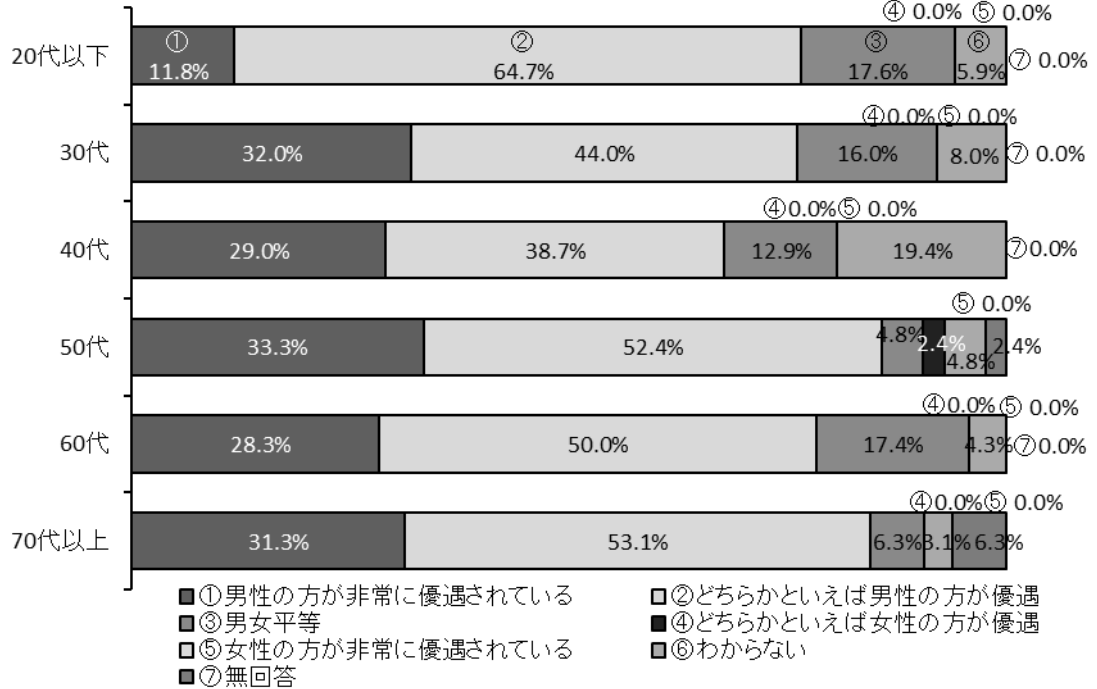
男女とも「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が多く、すべての年代で6割を超えている。



【女性】



【男性】

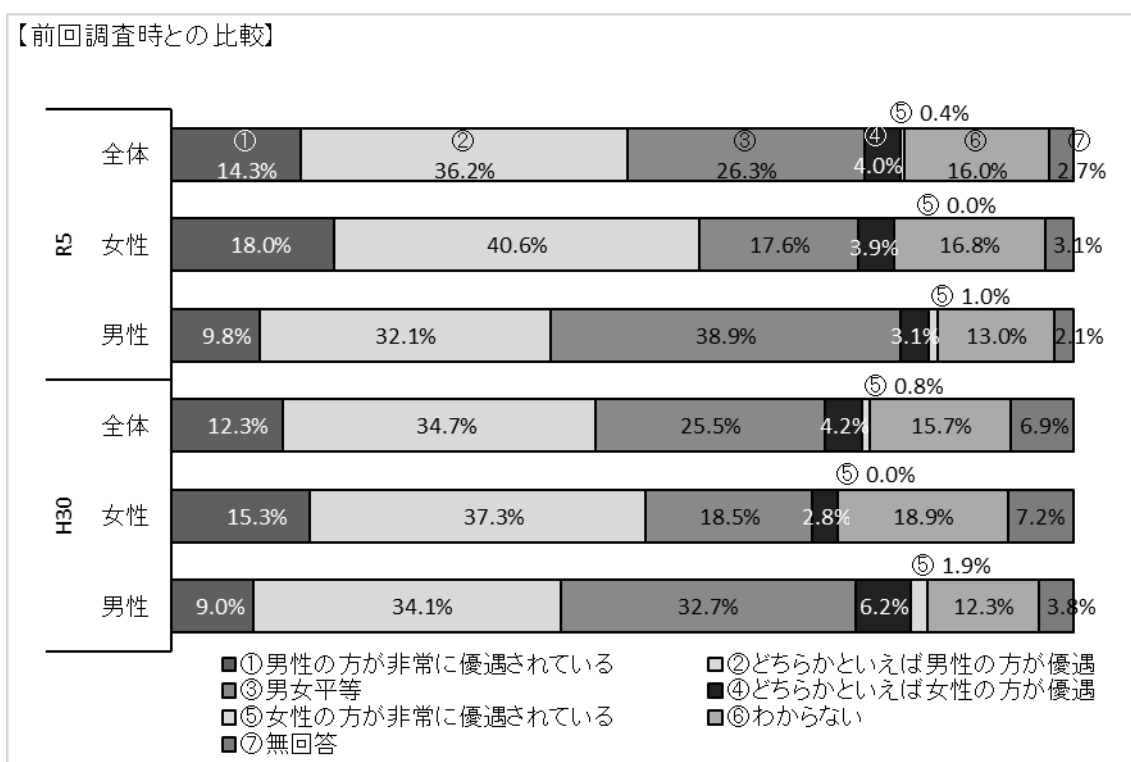


■ 法律や制度上

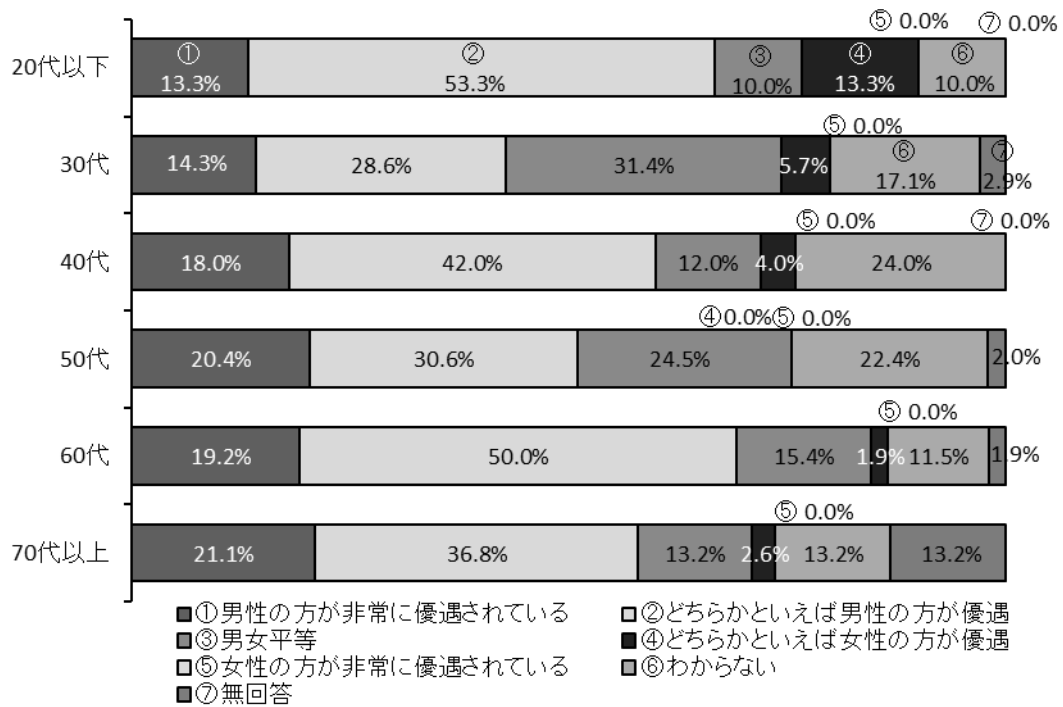
「男女平等」と回答した人は、全体で前回（25.5%）より0.8ポイント増えているが、26.3%と低い。男性が6.2ポイント増えたが、女性は0.9ポイント減っている。

「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると、年代別では、女性の30代以外で5割を超えているのに対して、男性のすべての年代で5割以下となっている。

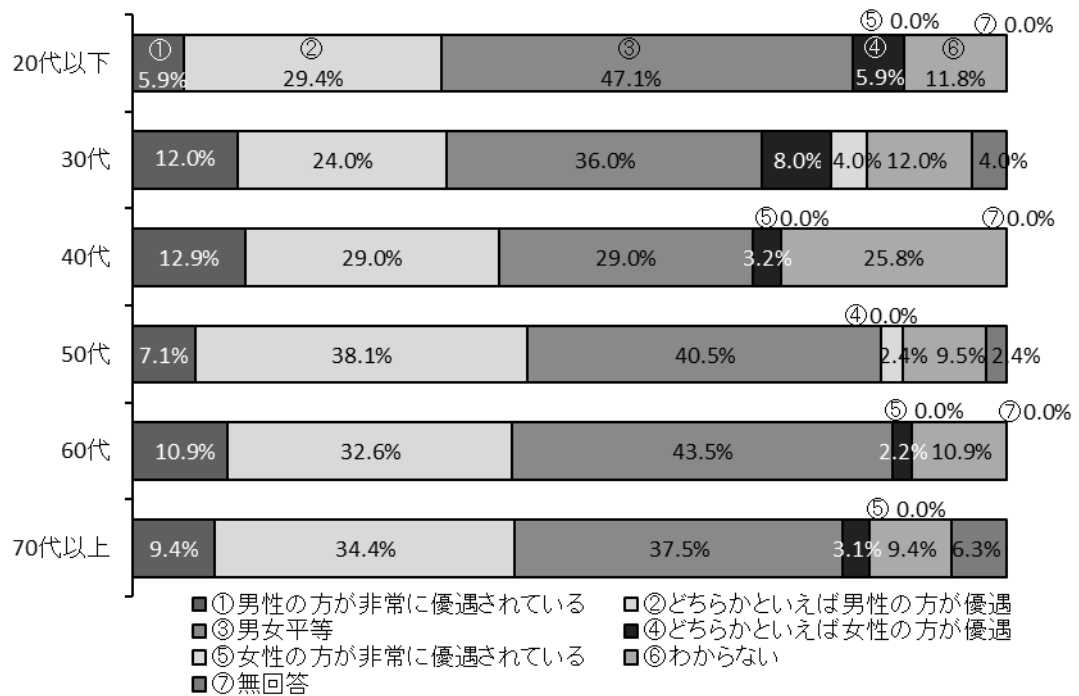
また、女性の20代では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（13.3%）と回答した人が、ほかの年代に比べて多くなっている。



【女性】



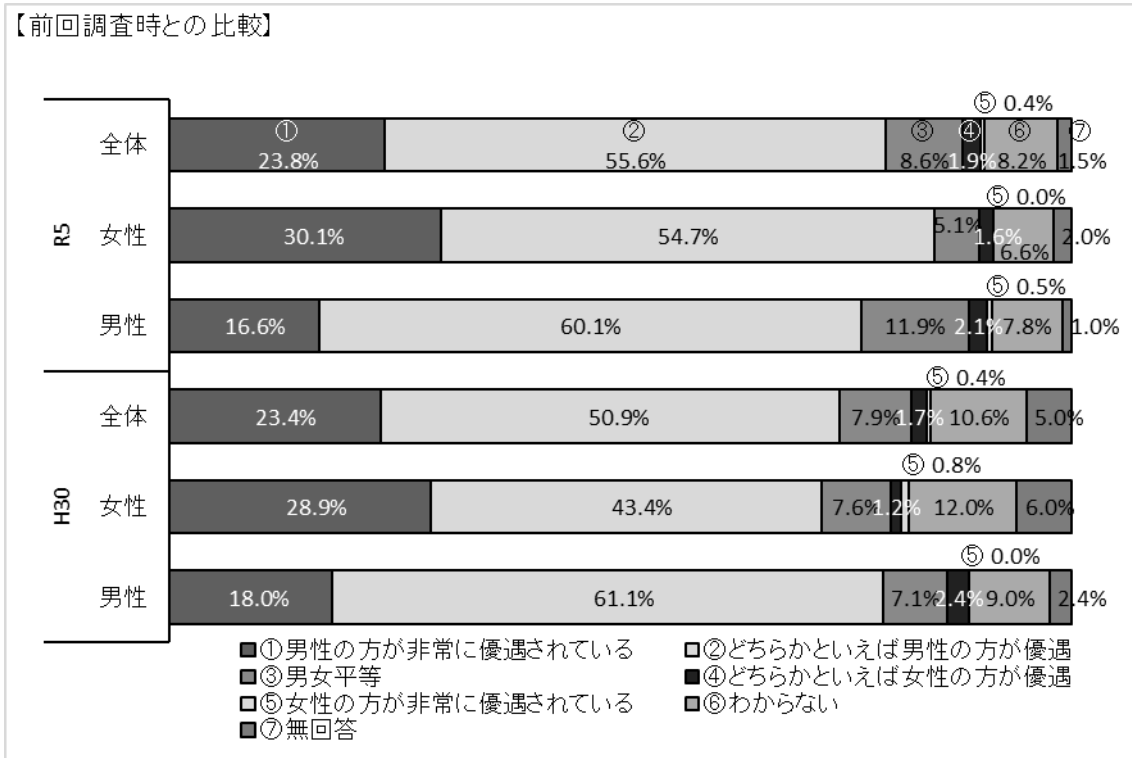
【男性】



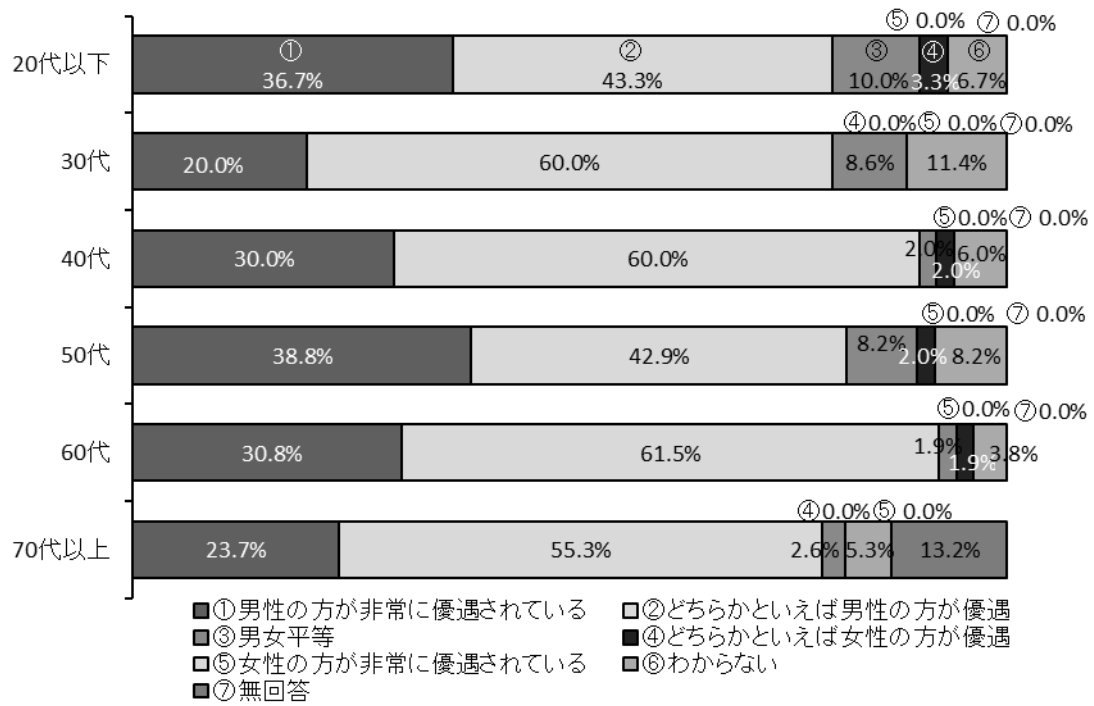
■ 社会通念・慣習・しきたり

「男女平等」と回答した人は、全体で0.7ポイント増えているが、8.6%と低い。
 「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が7割を超え、特に女性で前回より12.5ポイント増えている。

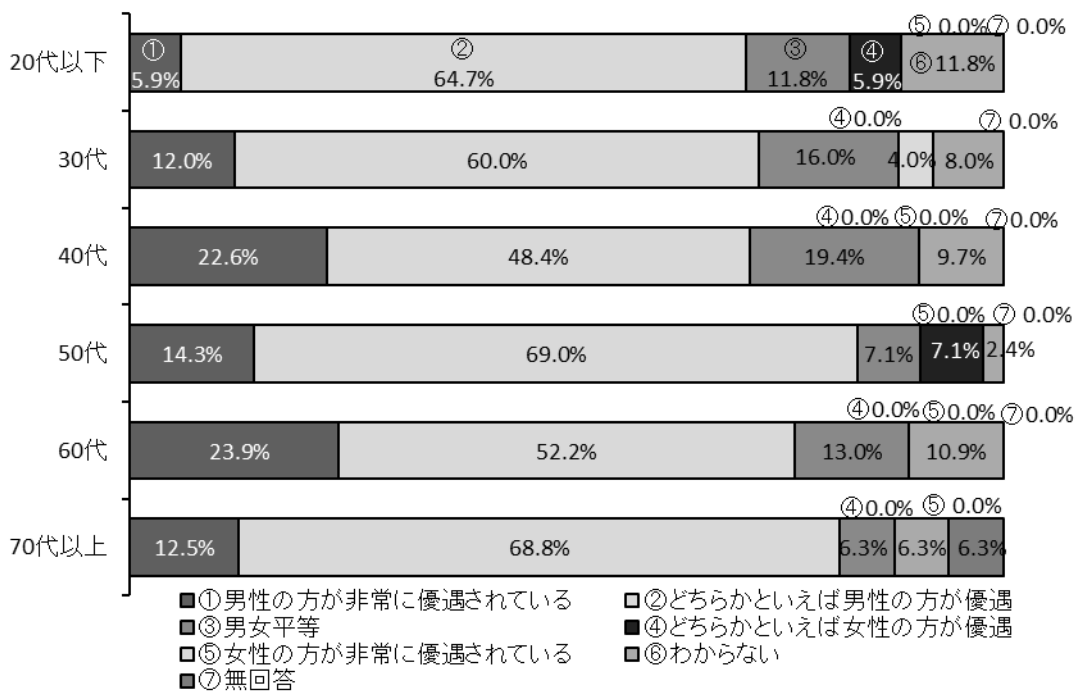
年代別でみると、女性の20代、40代、50代、60代で「男性の方が非常に優遇されている」と回答した人が3割以上となっている。



【女性】



【男性】

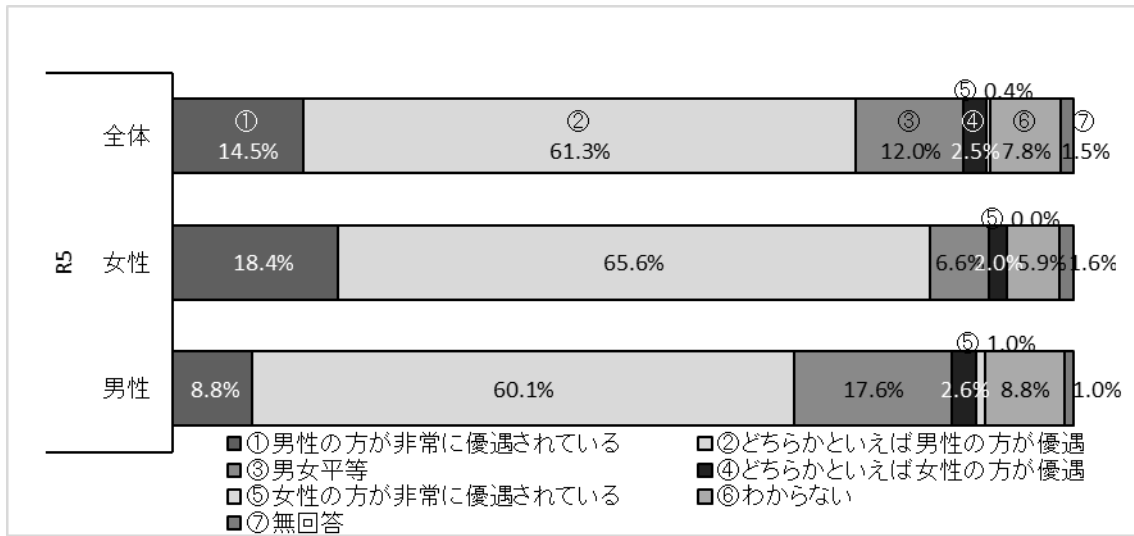


■ 社会全体として

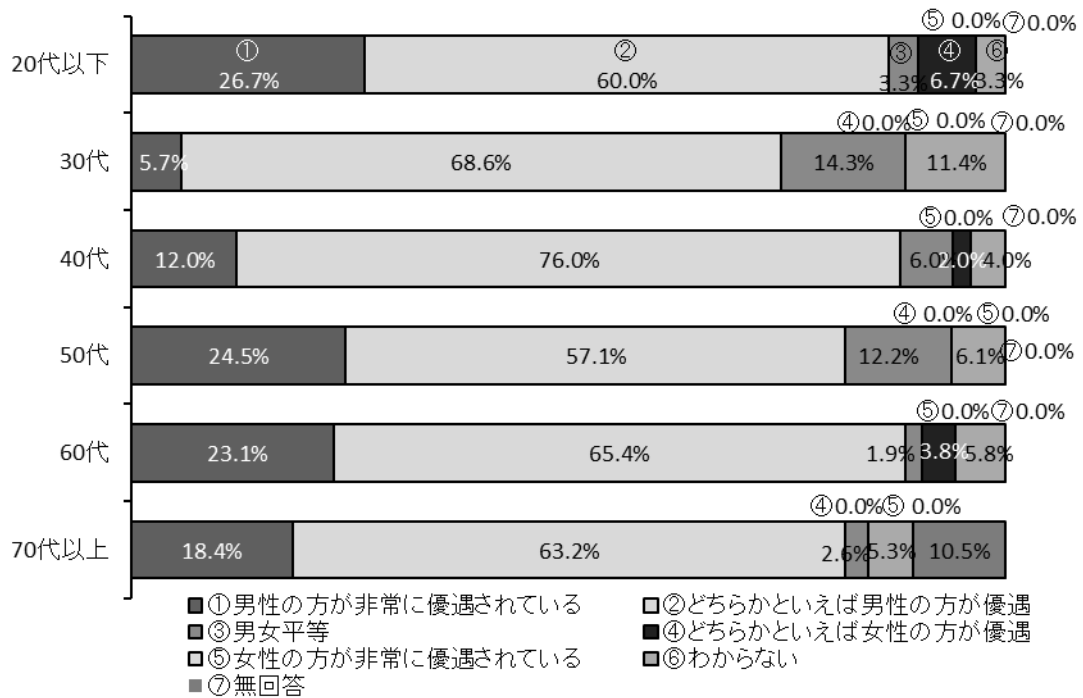
全体では、「男女平等」と回答した人は、12.0%と低い。前出の各分野における意識と比べても、社会通念・慣習・しきたり（8.6%）、政治の場（9.1%）に次いで低い。

年代別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が女性ではすべての年代で7割を超えている。男性の40代以下では「男女平等」と回答した人がいずれも2割台と多い。

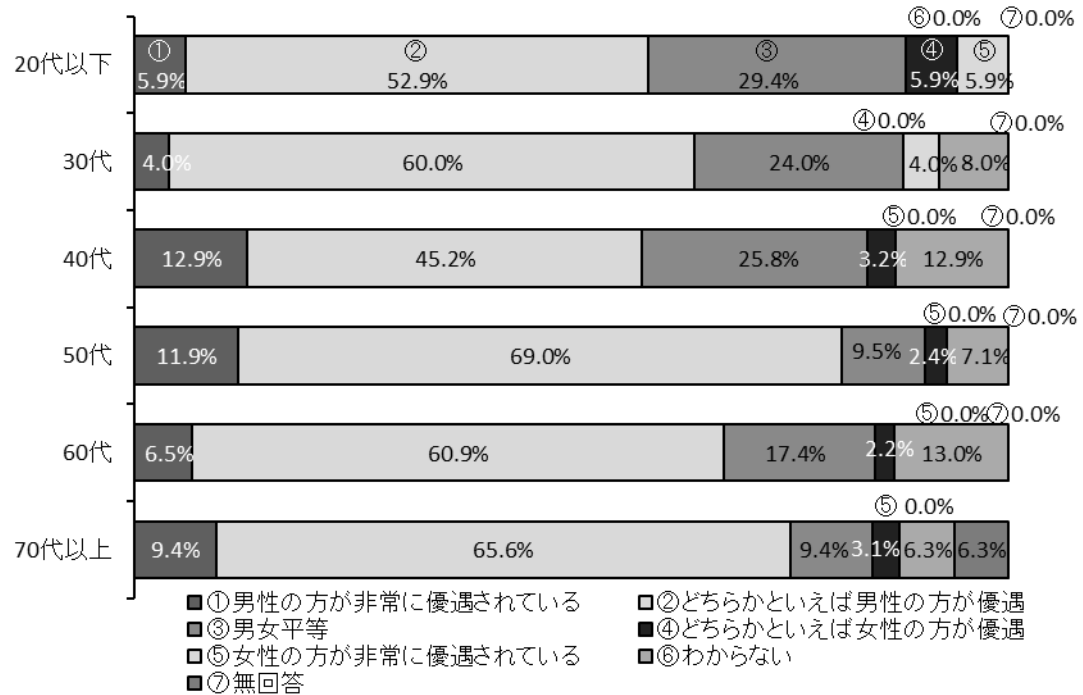
※令和5年度より調査



【女性】



【男性】

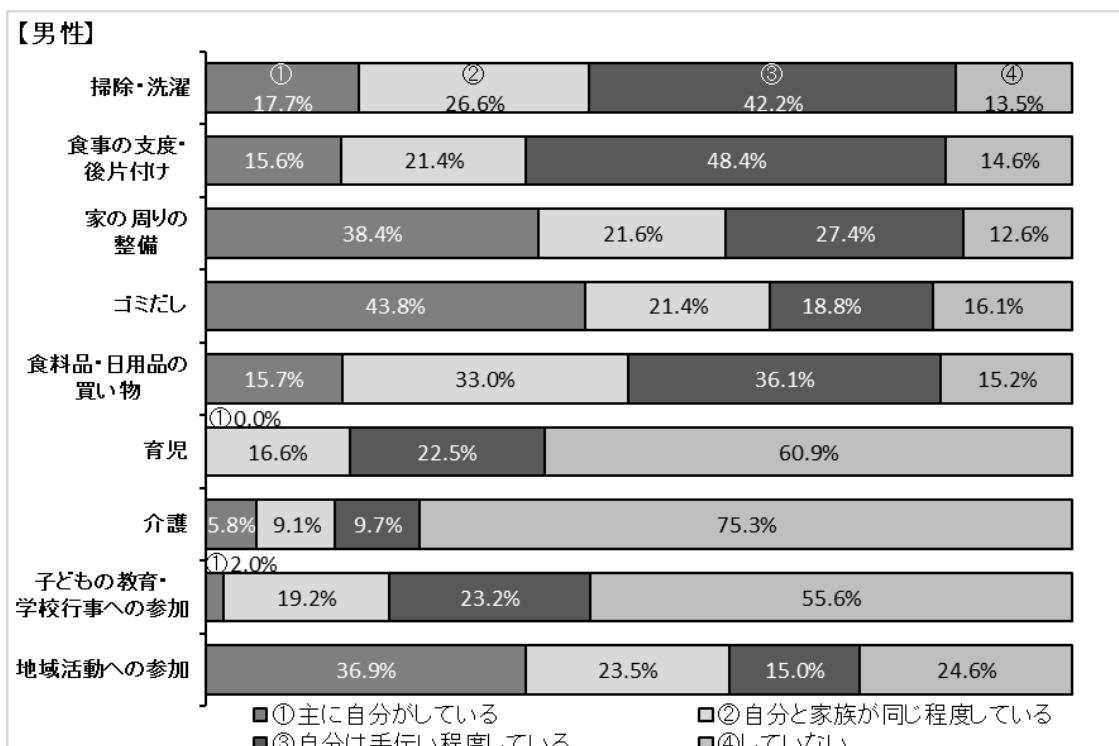
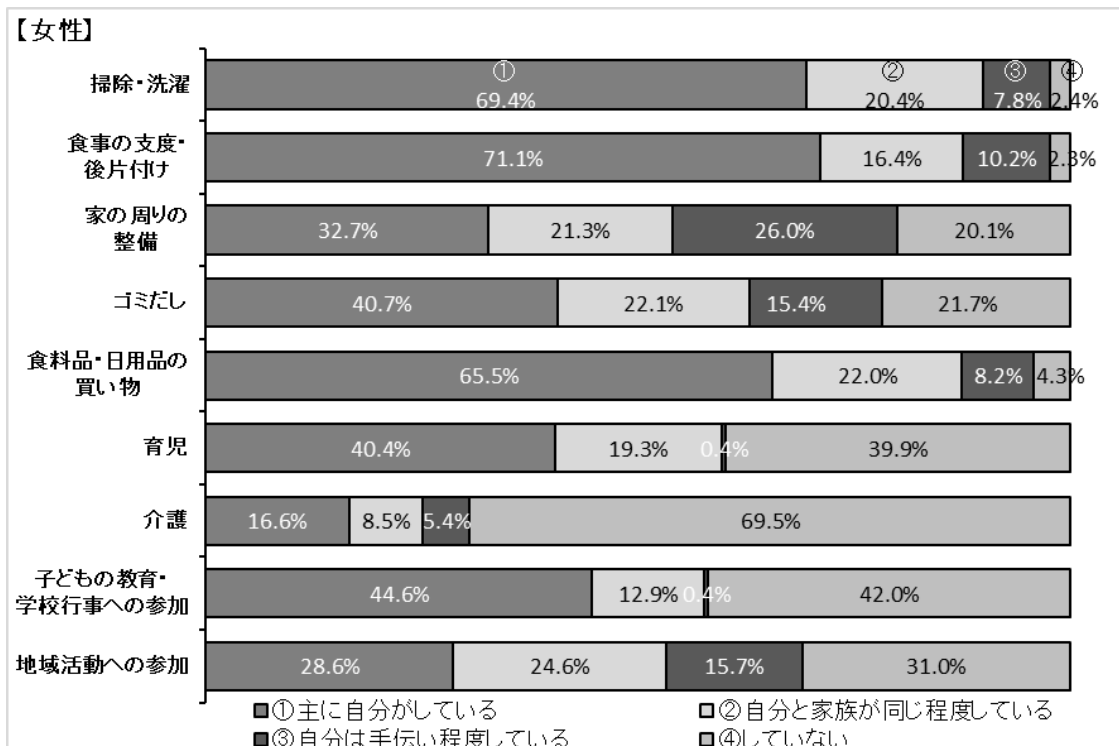


(2) 家庭生活での男女の役割について

① 家庭生活等への参加について

女性では、「掃除・洗濯」、「食事の支度・後片付け」、「食料品・日用品の買い物」などに参加している人が、男性に比べ圧倒的に多くなっている。これら家庭生活について、女性は「主に自分がしている」と認識しているが、男性は「自分は手伝い程度している」という認識にあり、男女間での認識の格差がみえる。

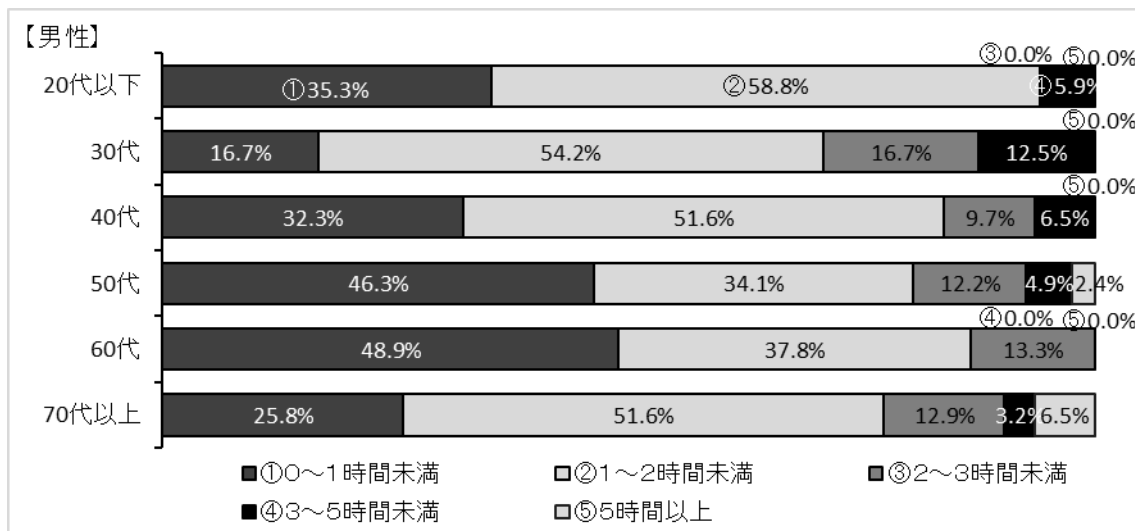
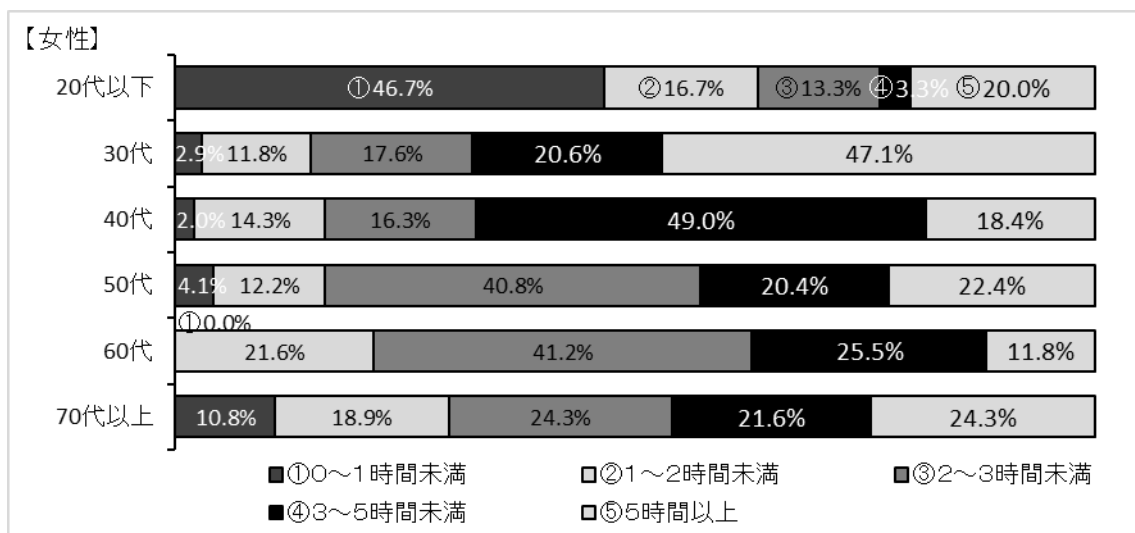
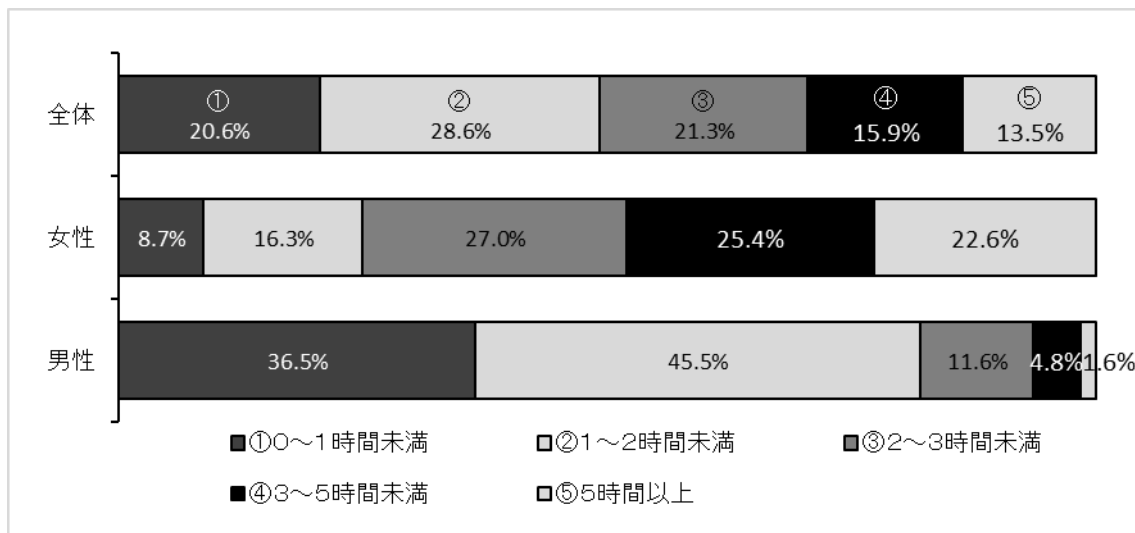
一方、男性では、「家の周りの整備」「ゴミ出し」「地域活動の参加」について「主に自分がしている」と回答した人が、女性に比べて多くなっている。



② 1日あたりの家事従事時間

男性では、家事従事時間が0～2時間未満が82.0%を占めており、女性では、2時間以上が75.0%を占めている。男女間において、家事従事時間に大きな差がある。

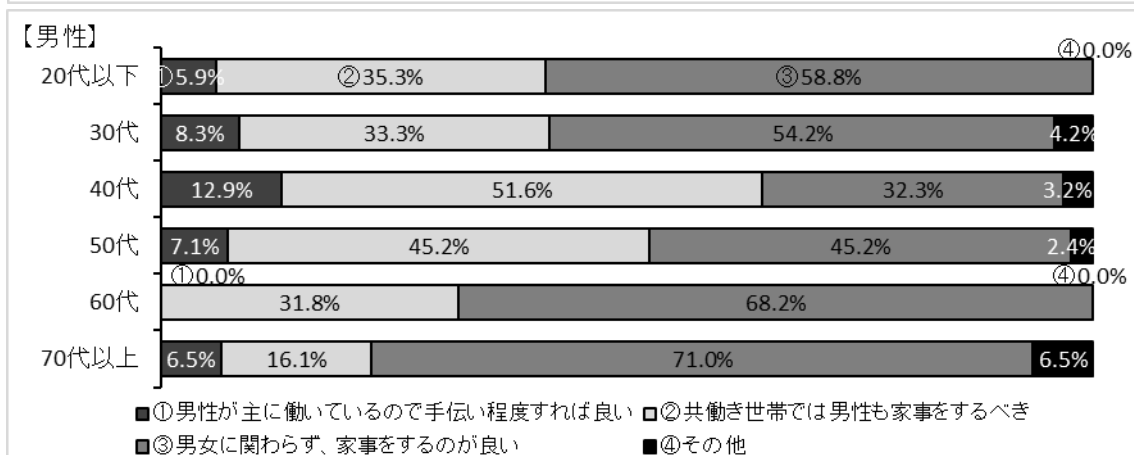
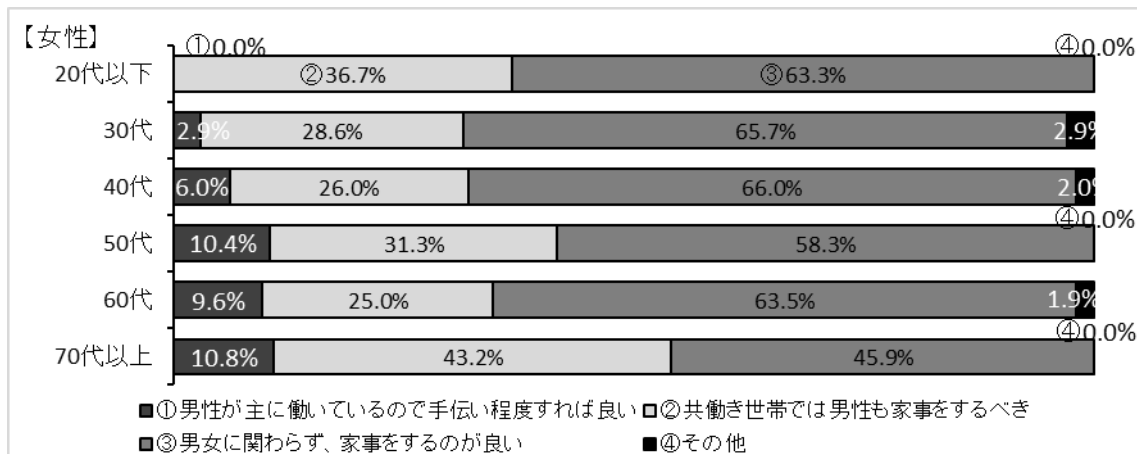
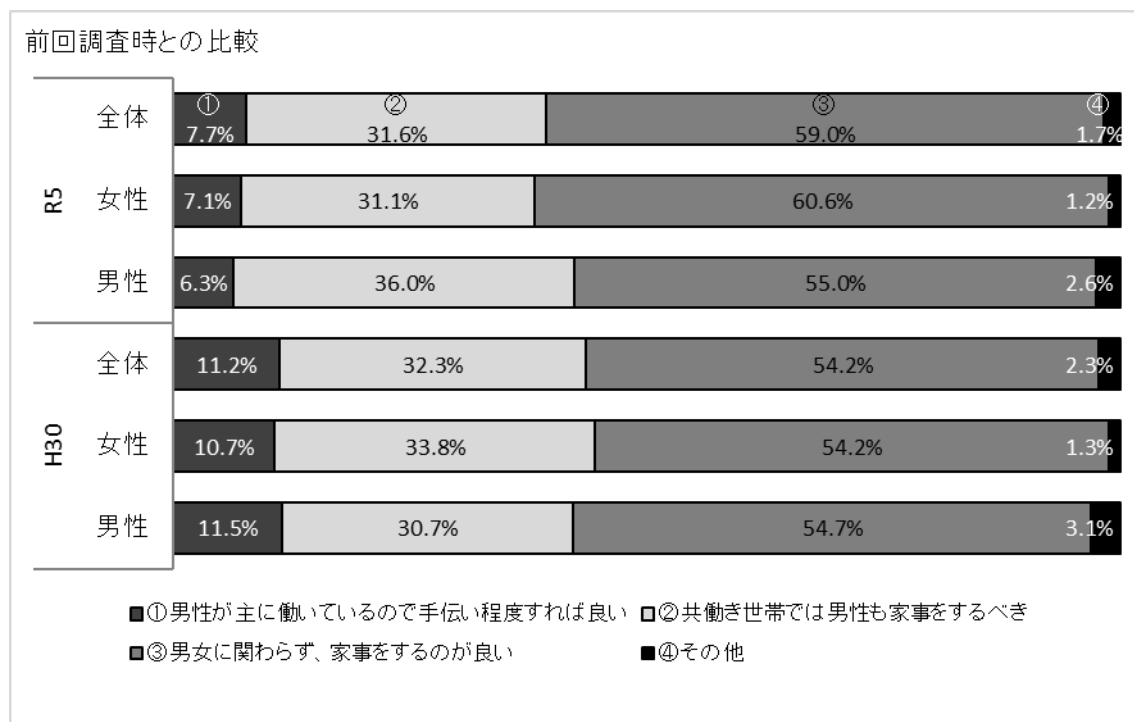
※令和5年度より調査



③ 男性が家事をすることについての意識

全体では、「共働き世帯では男性も家事をするべき」（31.6%）または「男女に関わらず、家事をするのがよい」（59.0%）と9割以上が回答している。前回に比べ全体では4.1ポイント増えており、男女ともにそういった意識が強くなっている。

ただし、女性の50代以上、男性の40代では、「男性が主に働いているので手伝い程度すれば良い」と回答した人が1割程度いる。

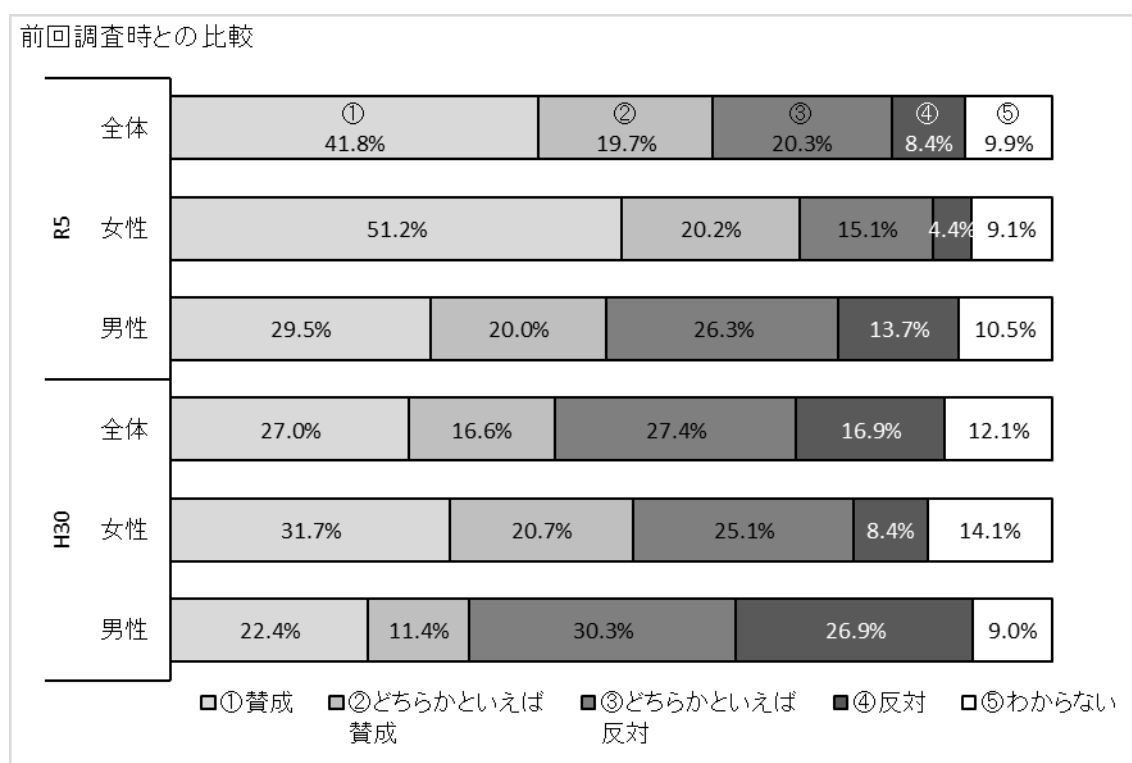


(3) 結婚・家庭に対する意識について

① 結婚・家庭に対する意識

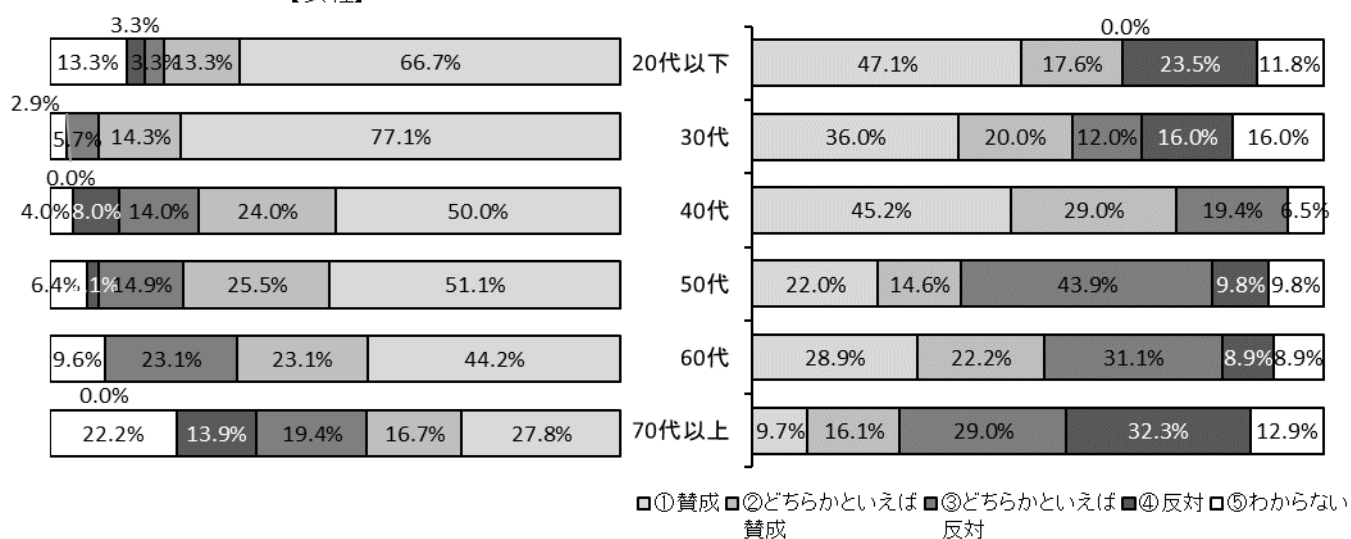
■結婚してもしなくてもどちらでもよい

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人が61.5%であり、前回（43.6%）に比べて17.9ポイントと大きく増えている。特に女性では51.2%が「賛成」している。年代別では、男女とも20代、30代で「賛成」とする傾向があり、特に女性の20代、30代では7割近くが「賛成」としている。



【女性】

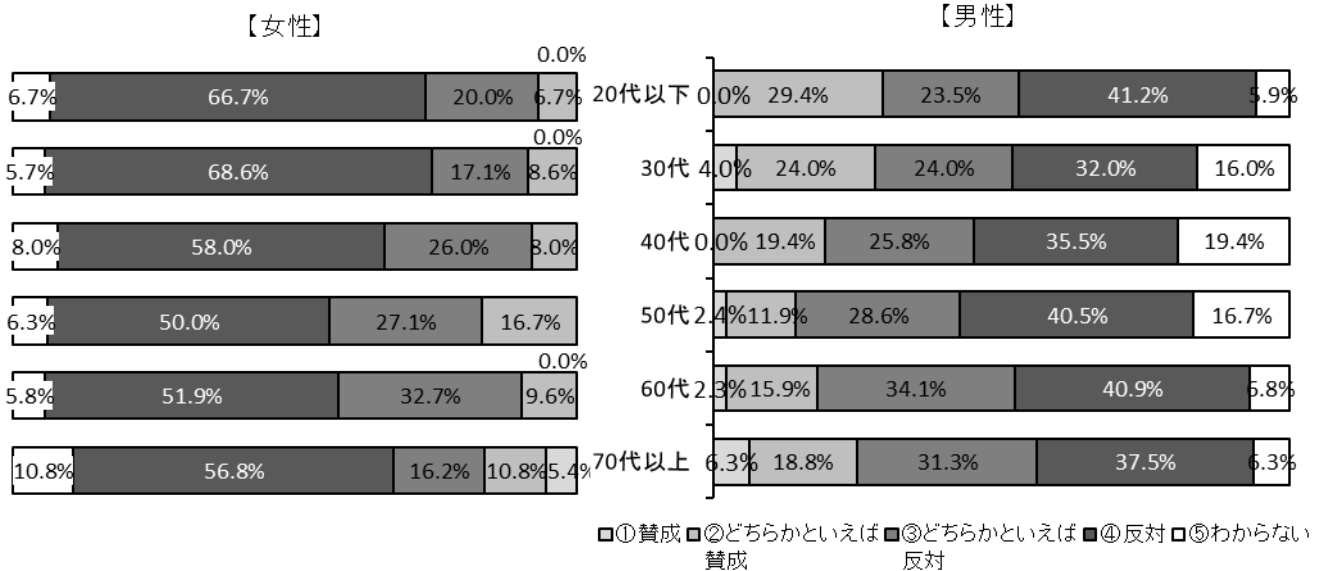
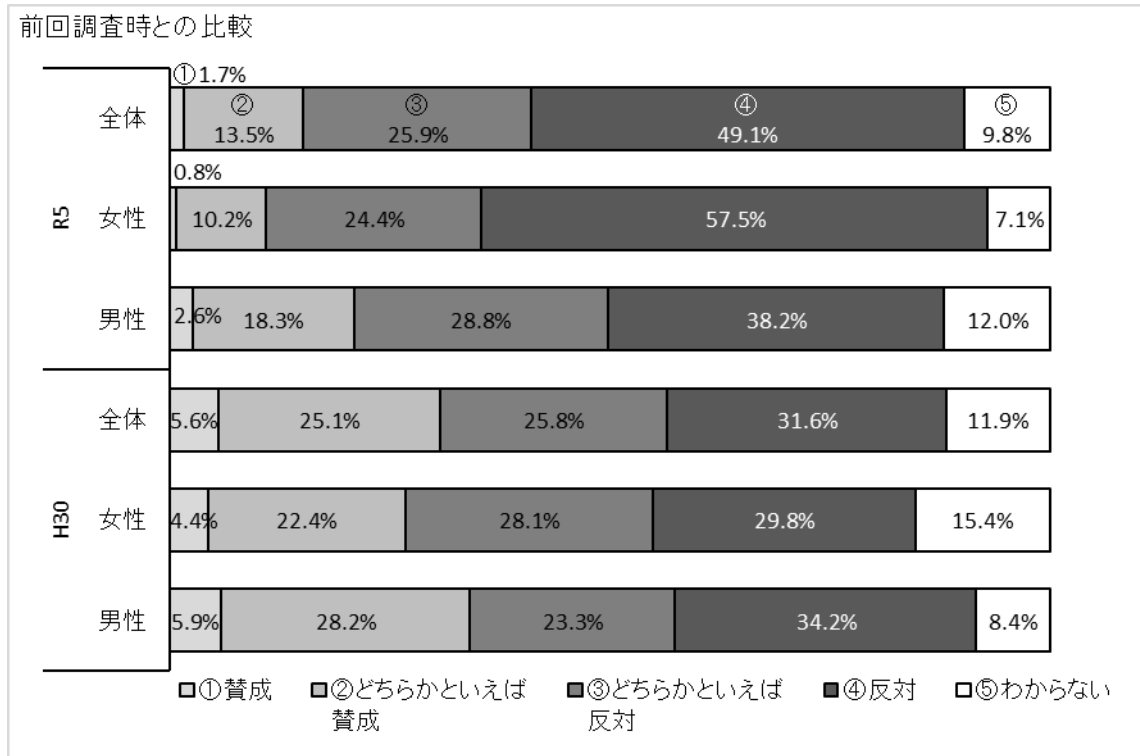
【男性】



■男性は仕事をし、女性は家庭を守るべきである

全体では、「どちらかといえば反対」、「反対」と回答した人は、75.0%であり、前回（57.4%）と比べて17.6ポイントと大きく増えている。

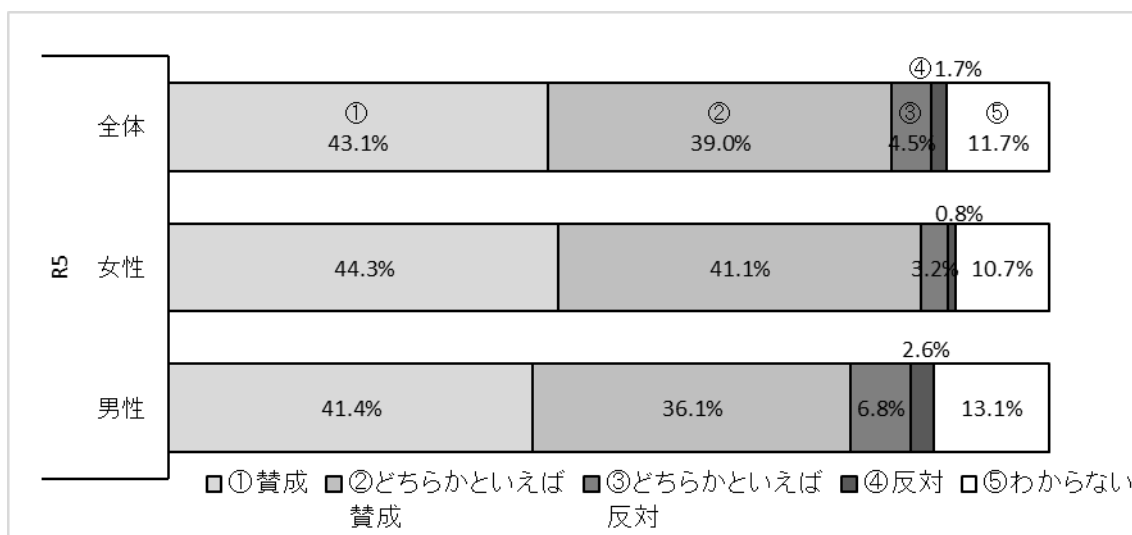
男性の20代、30代で「どちらかといえば賛成」がほかの年代よりも多い。



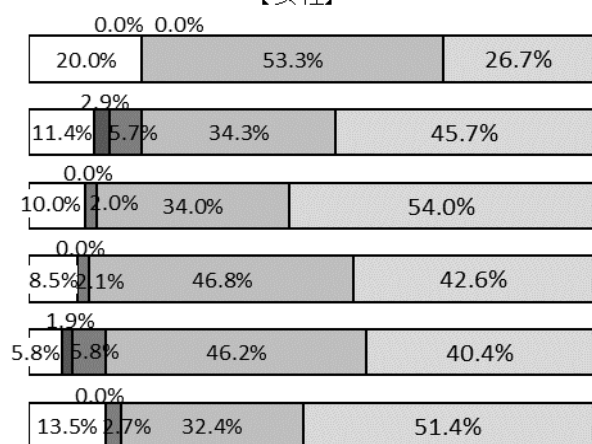
■男女とも仕事に就いた方がよい

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、82.1%と多くを占めている。女性の40代、70代以上、男性の70代以上で5割以上が「賛成」しており、ほかの年代よりも多い。

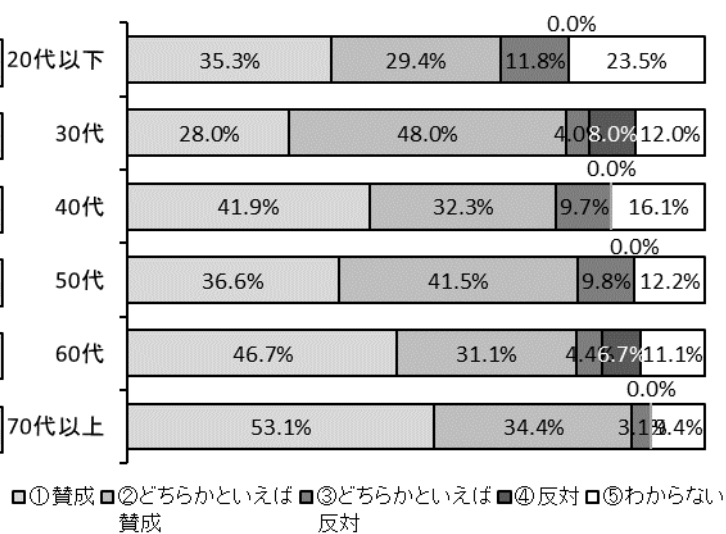
令和5年度より調査



【女性】



【男性】

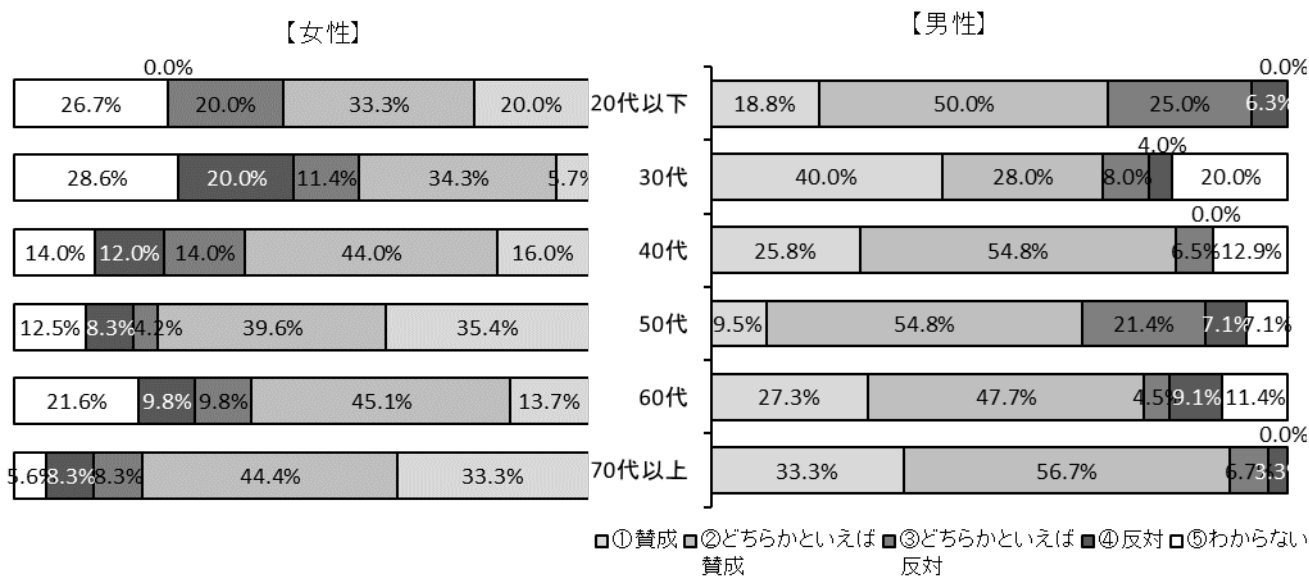
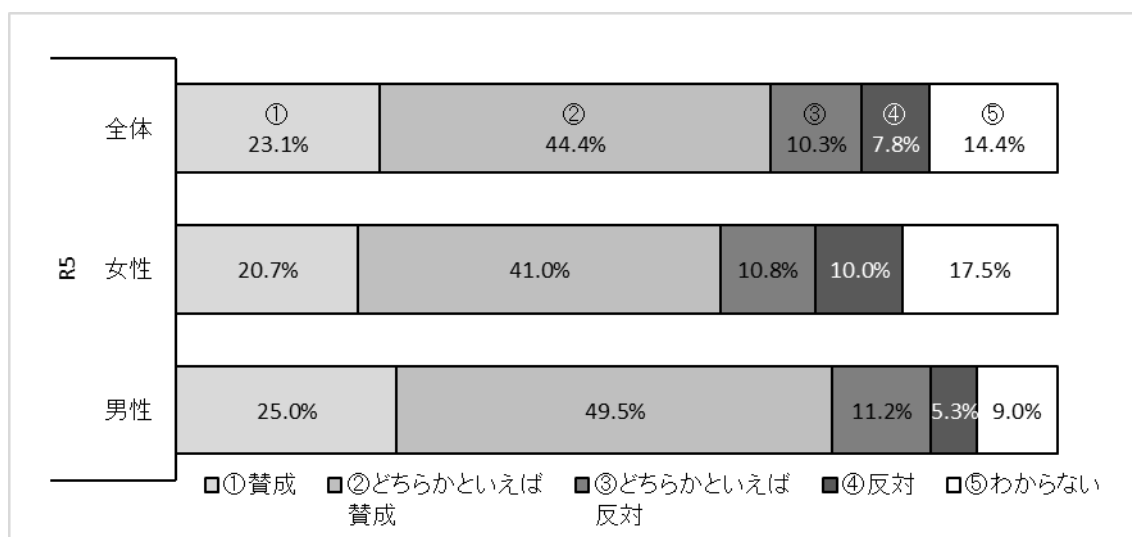


■子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、67.5%と多くを占めている。特に女性の50代、70代以上、男性の40代、60代以上では7割を超えている。

一方で、女性の30代、男性の20代では「どちらかといえば反対」「反対」と回答した人が3割以上おり、ほかの年代よりも多い。

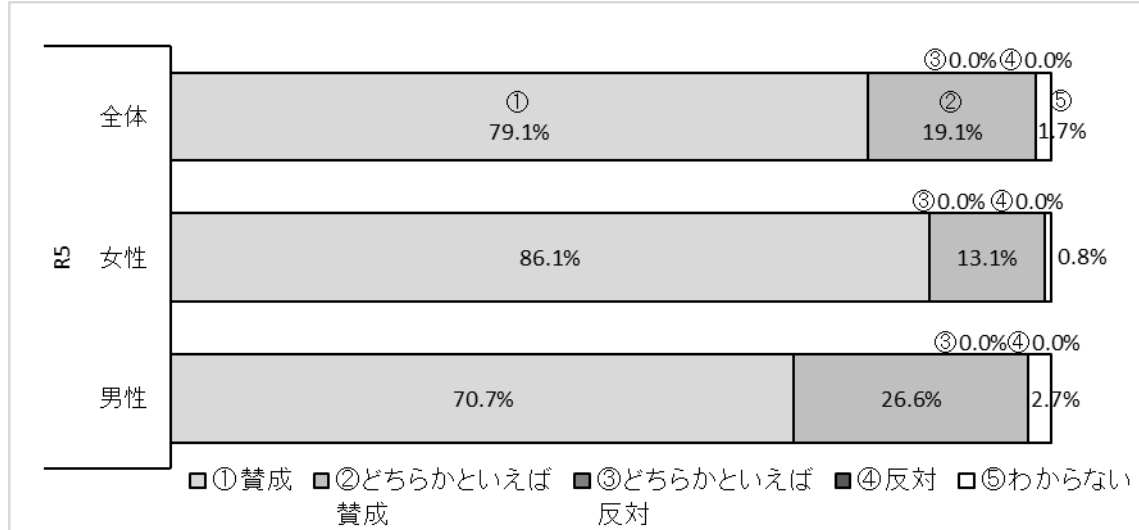
※令和5年度より調査



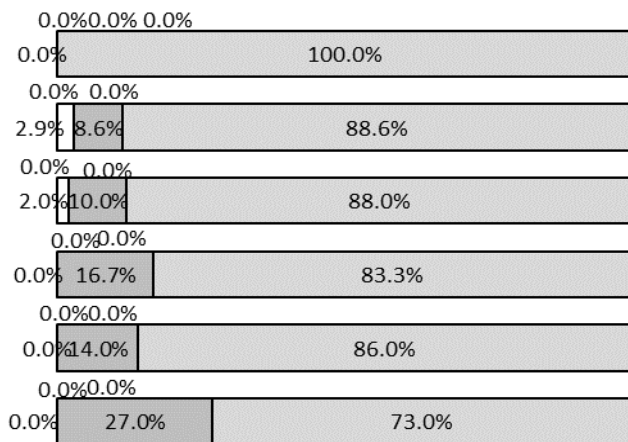
■家事・子育て・介護は男女が協力してやるべきだ

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、98.2%と圧倒的に多くを占めている。男女ともに年代が若くなるほどそう思う傾向が強い。

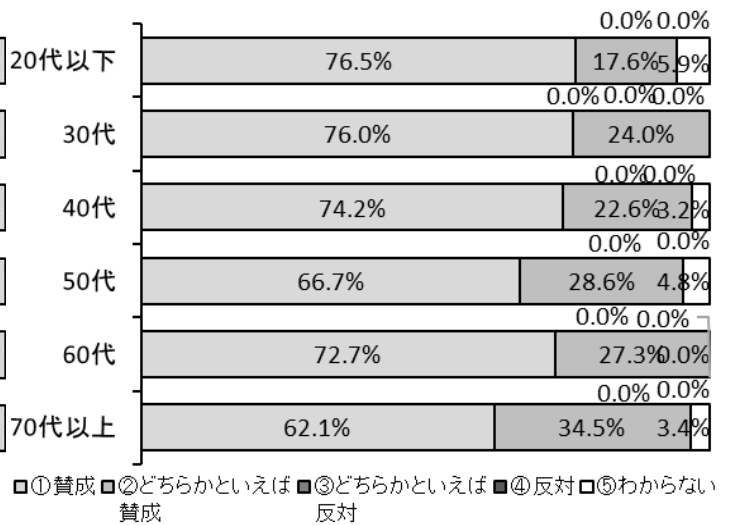
※令和5年度より調査



【女性】

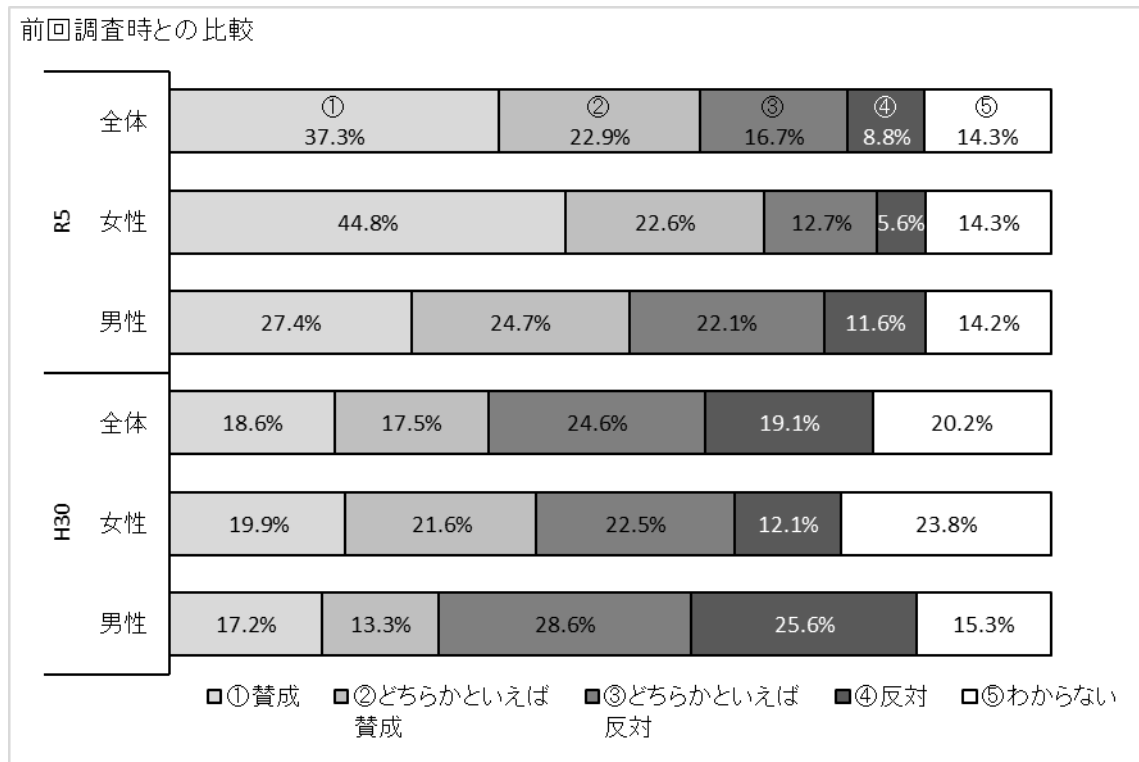


【男性】



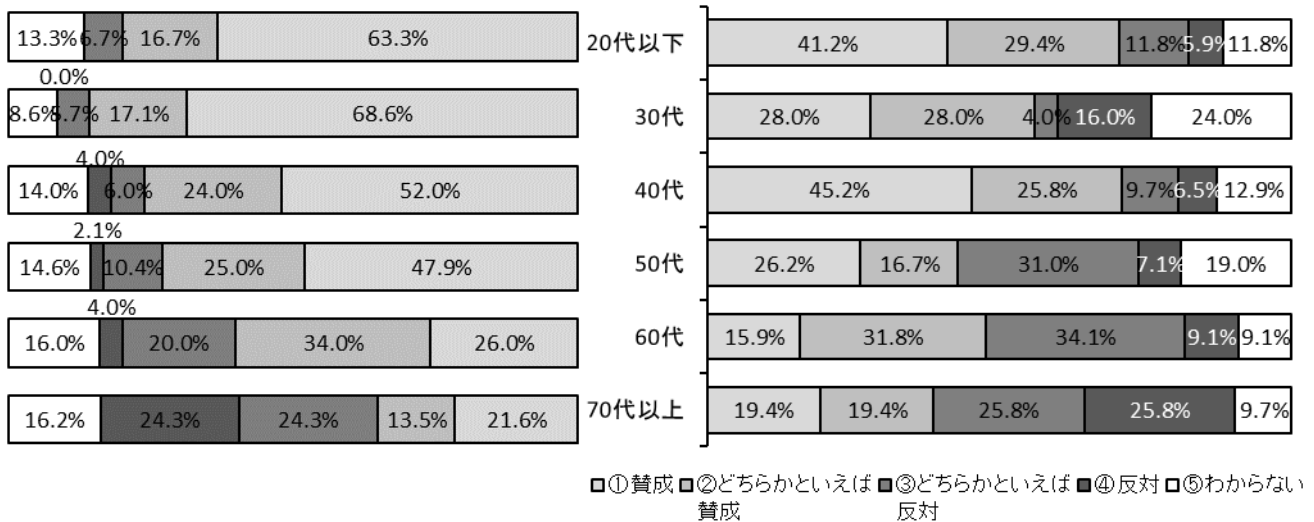
■結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、60.2%であり、前回（36.1%）と比べて24.1ポイント増えている。必ずしも子どもを持つ必要はないと考える人が増えている。特に男女とも20代、30代、40代に多く、女性は5割を超えている。



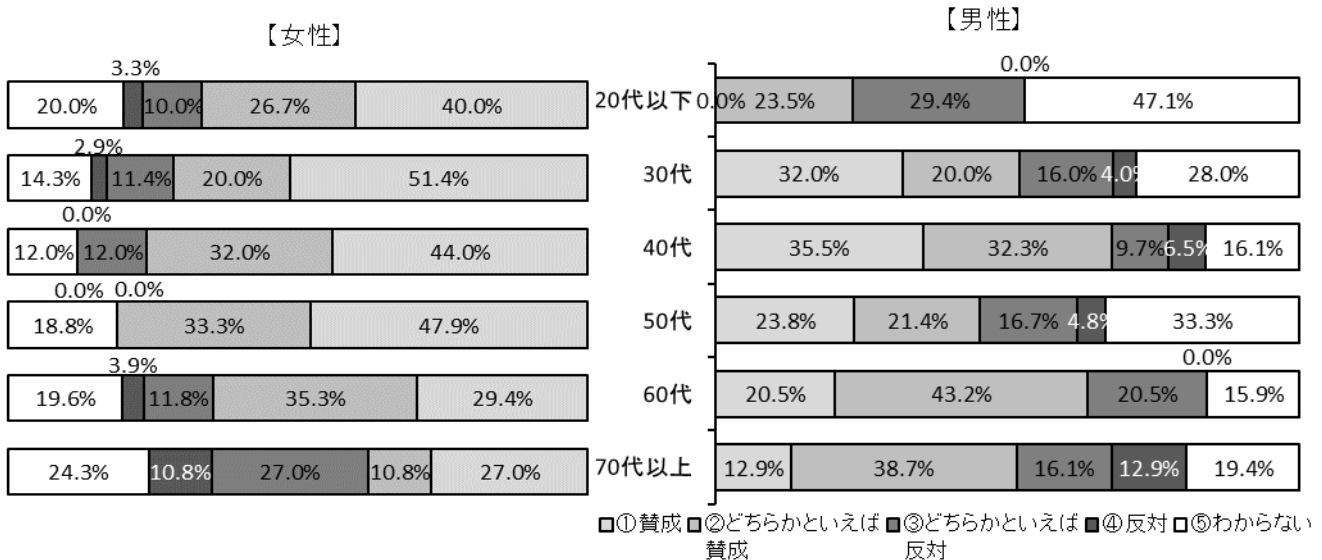
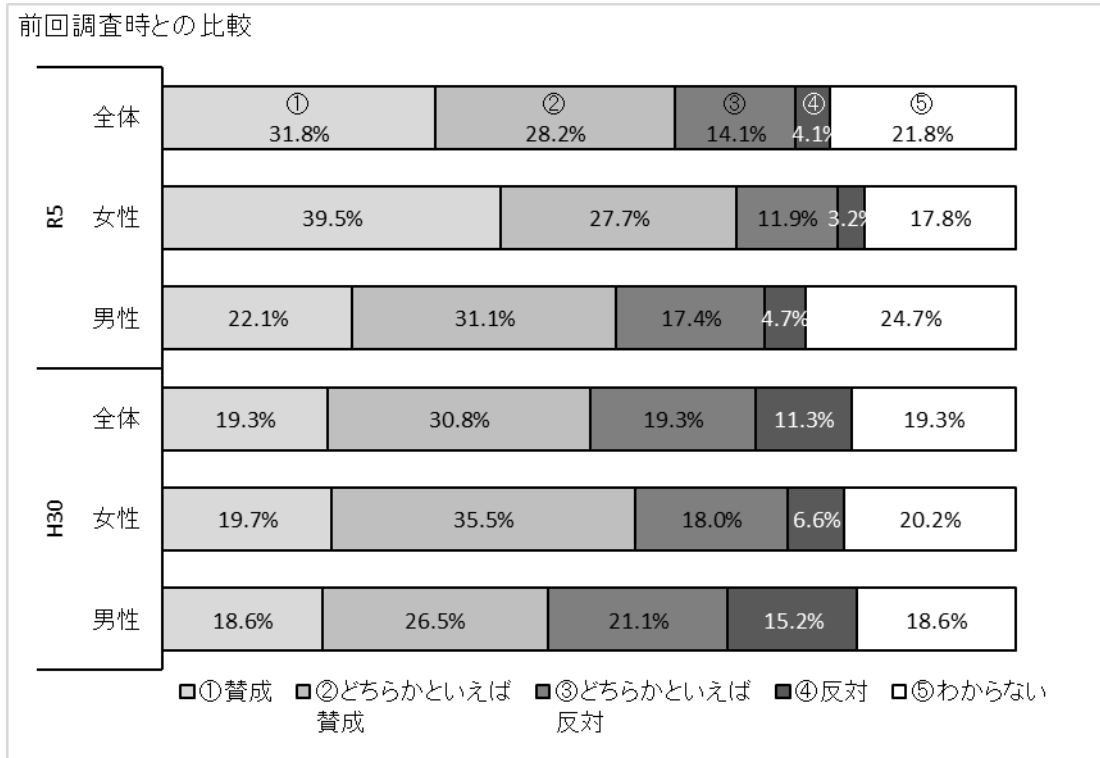
【女性】

【男性】



■結婚して相手に満足できなければ離婚してもかまわない

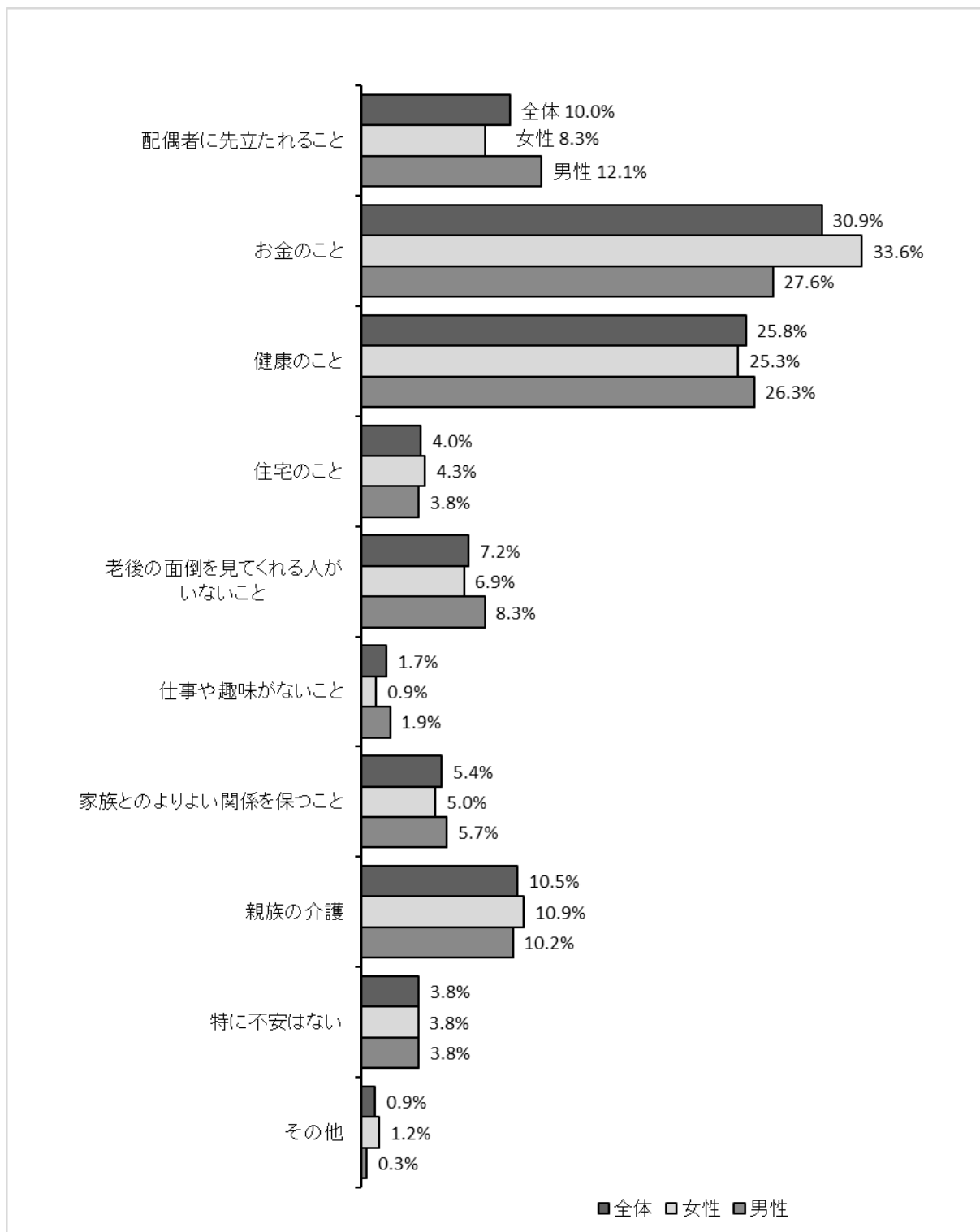
全体では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせると、60.0%の人が離婚してもかまわないと回答している。前回（50.1%）と比べて9.9ポイント増えている。特に女性で多く、女性の30代、40代、50代では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせると7割を超えている。



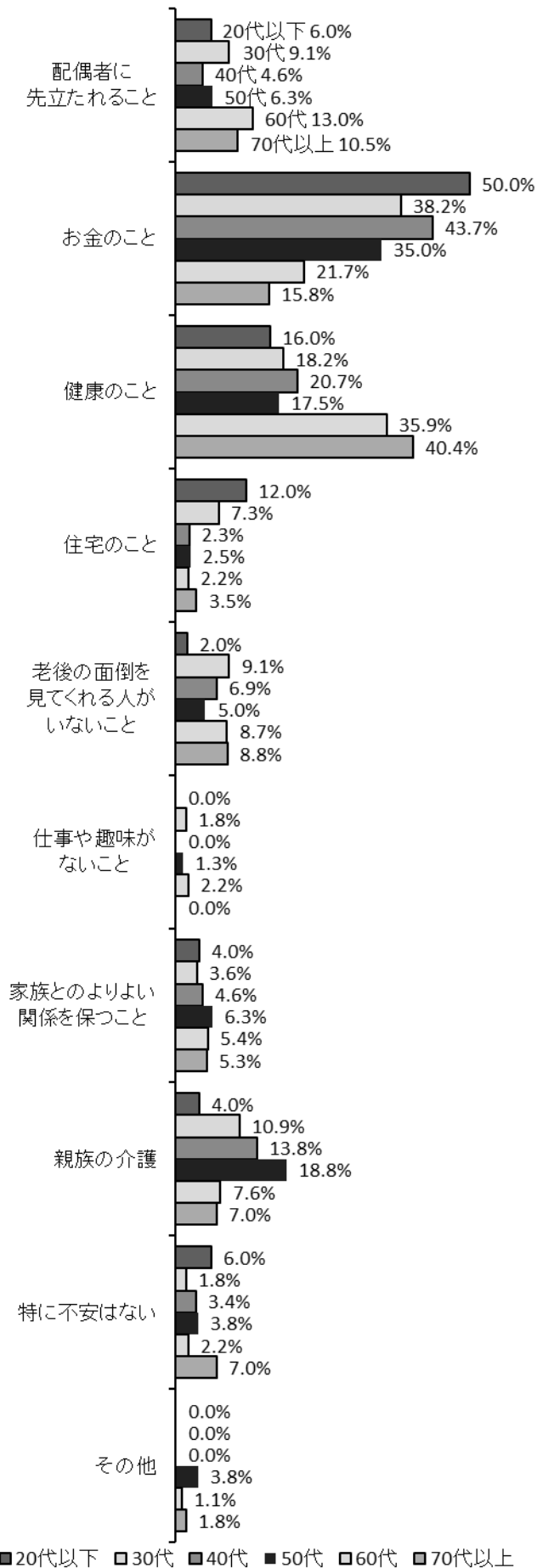
② 自身の生活において不安なこと

全体では、「お金のこと」(30.9%)、「健康のこと」(25.8%)と回答した人が多い。特に男女とも20代で「お金のこと」と回答する人が5割前後いる。

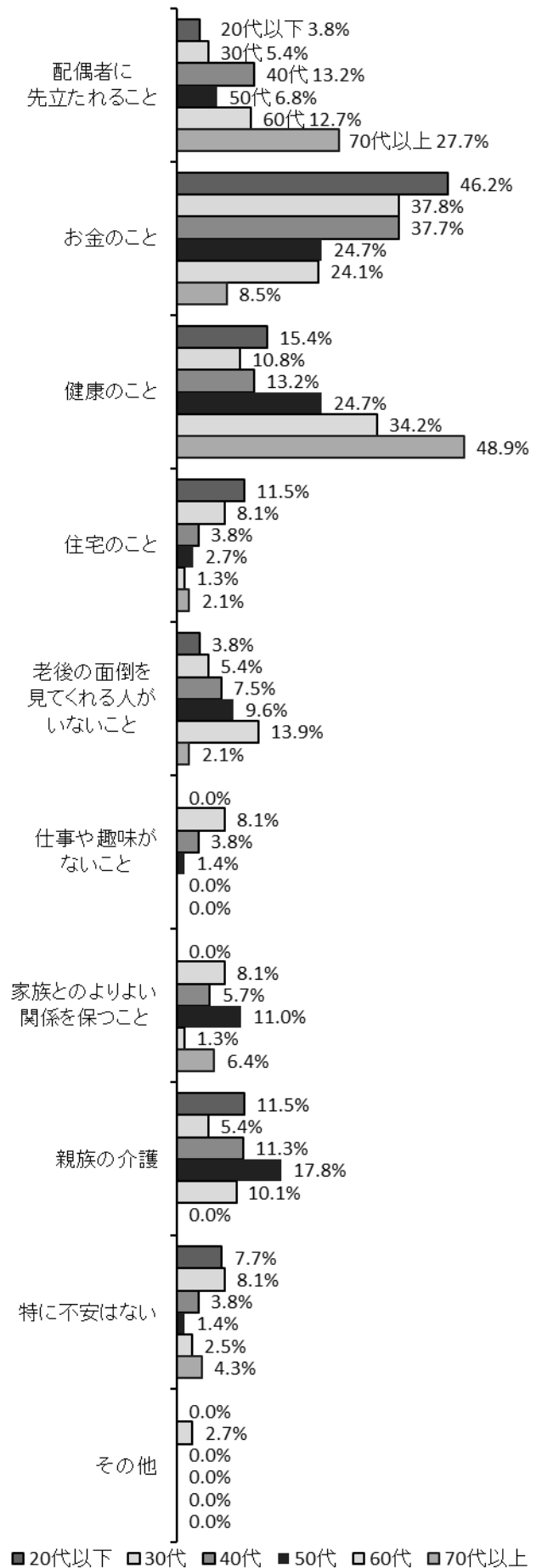
男性の70代以上で、「配偶者に先立たれること」と回答した人が、ほかの年代に比べて少し多くなっている。



【女性】



【男性】

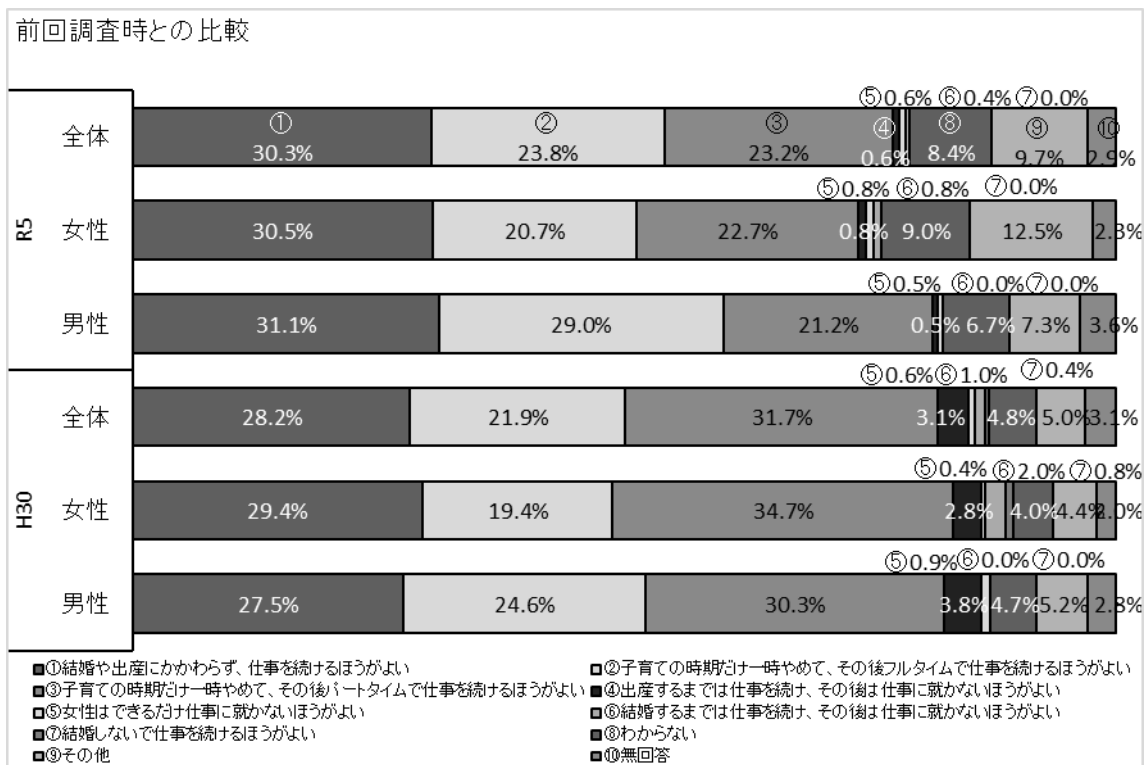


(4) 女性が仕事をすることに関する男女の意識について

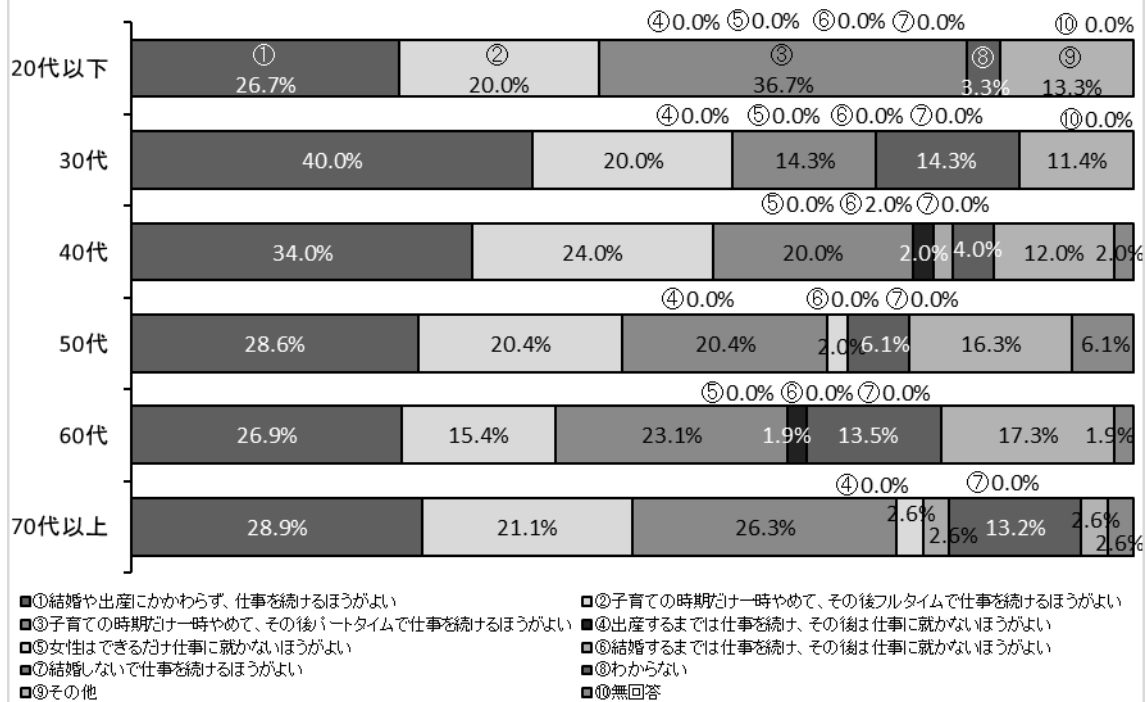
① 女性の就労のあり方

全体では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」と回答した人が30.3%に達し、前回一番多かった「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けるほうがよい」と逆転した。特に女性の30代で、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」と回答した人が40.0%と多くなっている。

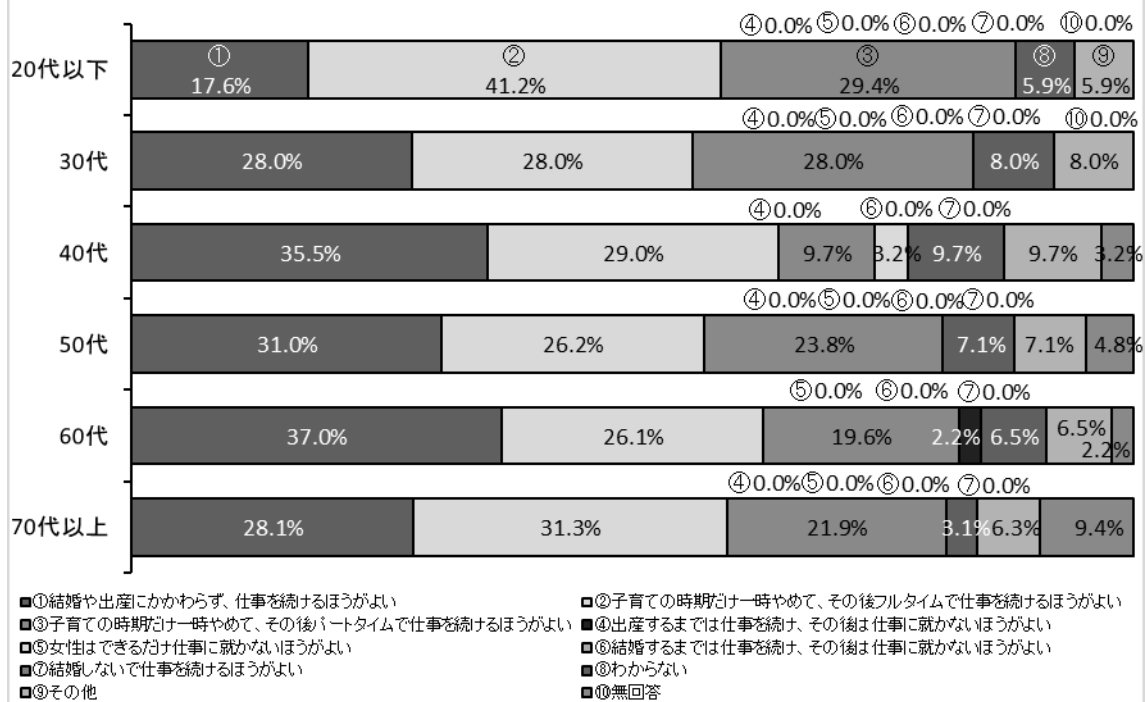
また、20代では、「子育ての時期だけ一時やめて、その後フルタイムで仕事を続けるほうがよい」、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けるほうがよい」と回答した人も加えると女性では83.4%、男性では88.2%となり、共働きを意識している様子がうかがわれる。



【女性】



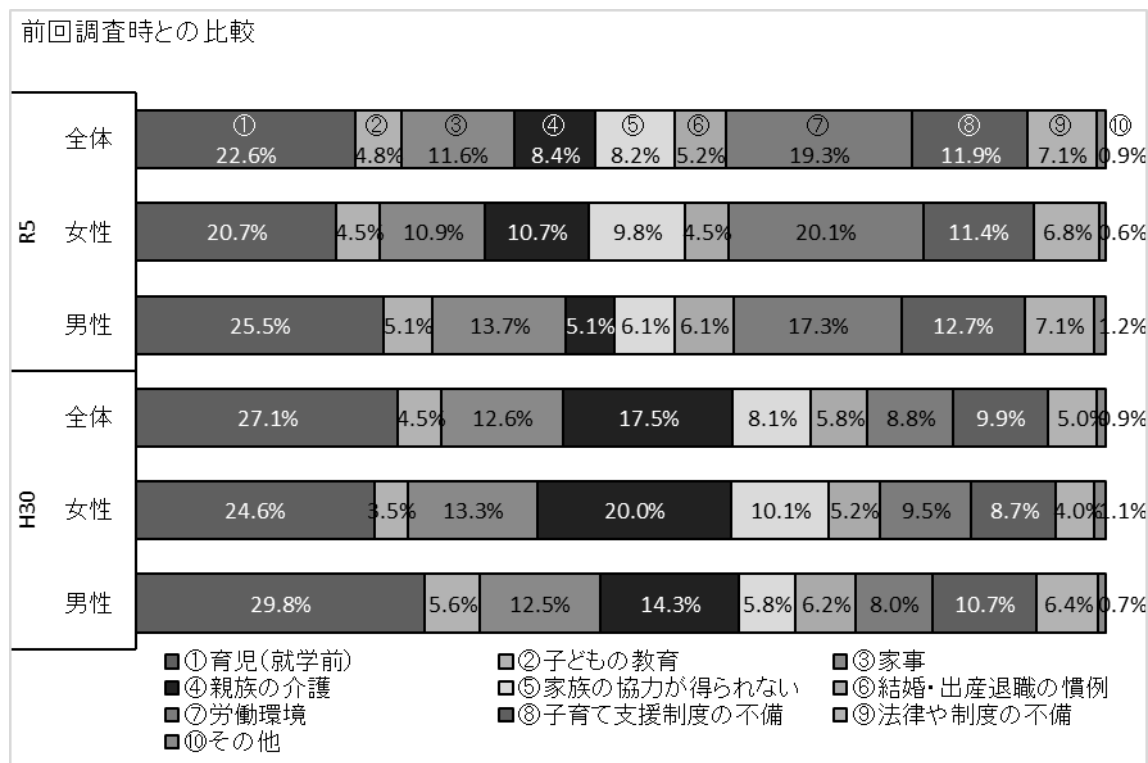
【男性】

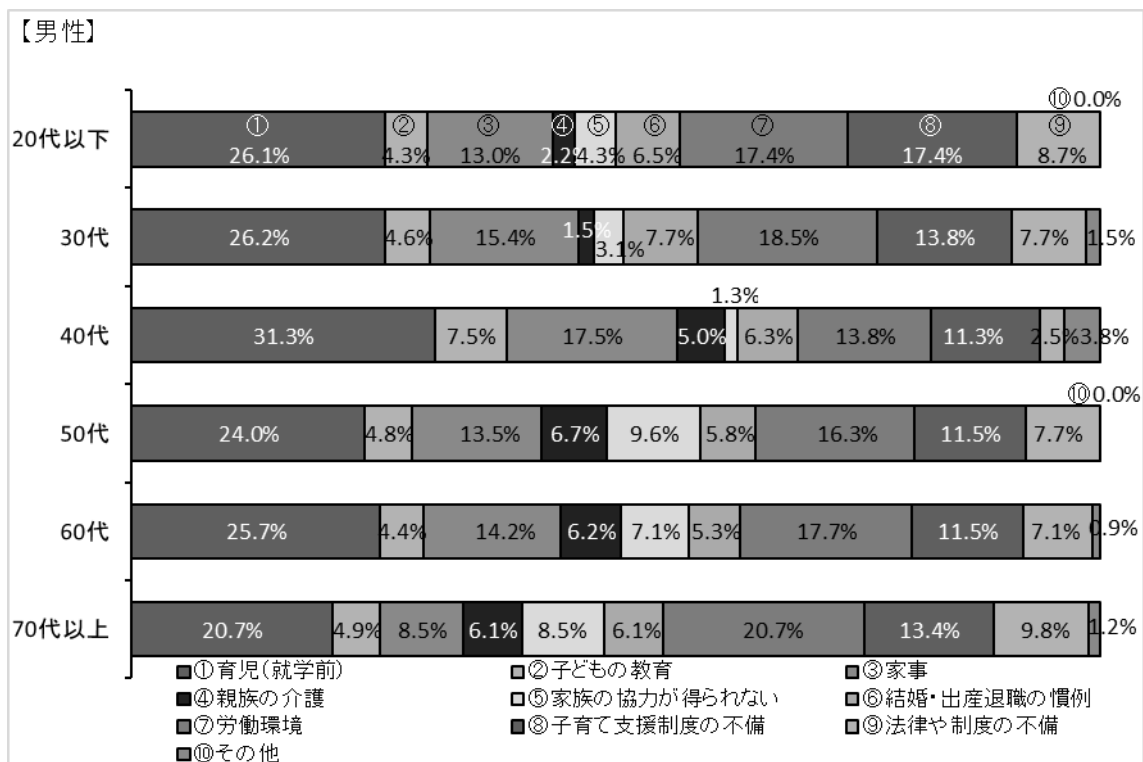
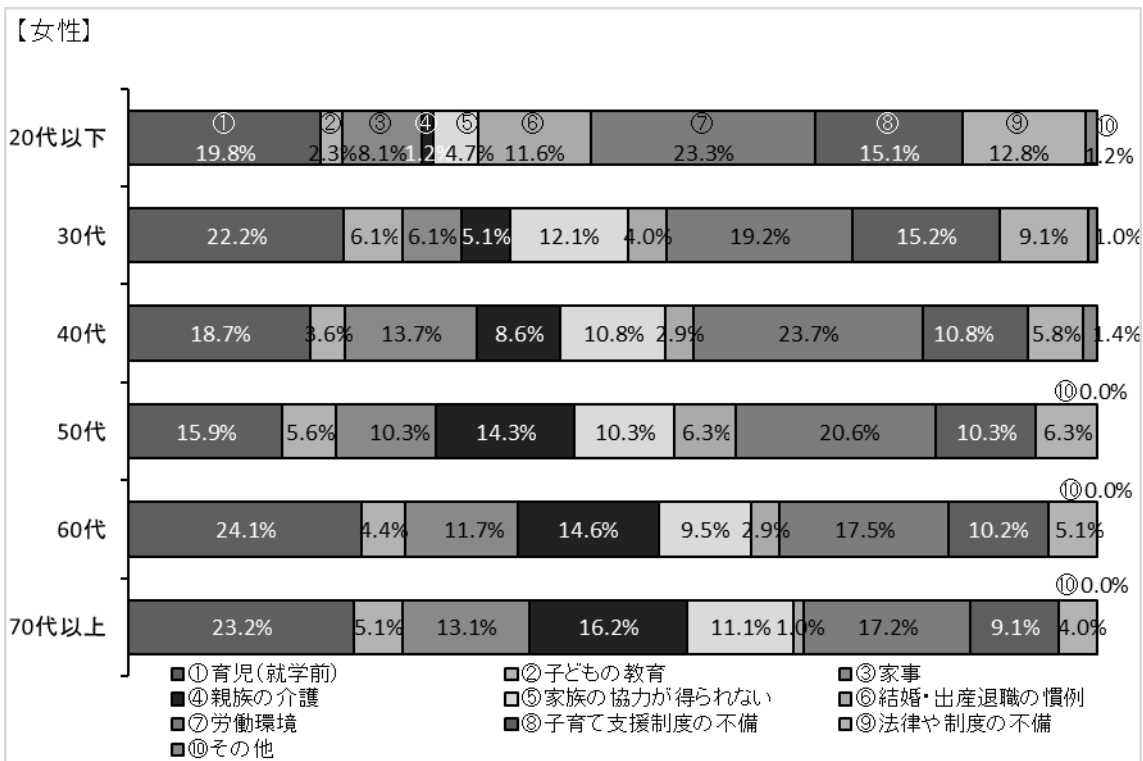


② 女性が意欲を持って働き続けるための課題

全体では、「育児」と回答した人（22.6%）が一番多く、次に「労働環境」（19.3%）、
「子育て支援制度の不備」（11.9%）となっている。なお、前回に比べて「親族の介護」
が9.1ポイント減ったが、「労働環境」は10.5ポイント増えた。

年代別では、男女とも40代で「家事」をあげている人が多い。また、年代が上がるほど
「親族の介護」をあげており、特に女性の50代以上でその傾向が顕著である。

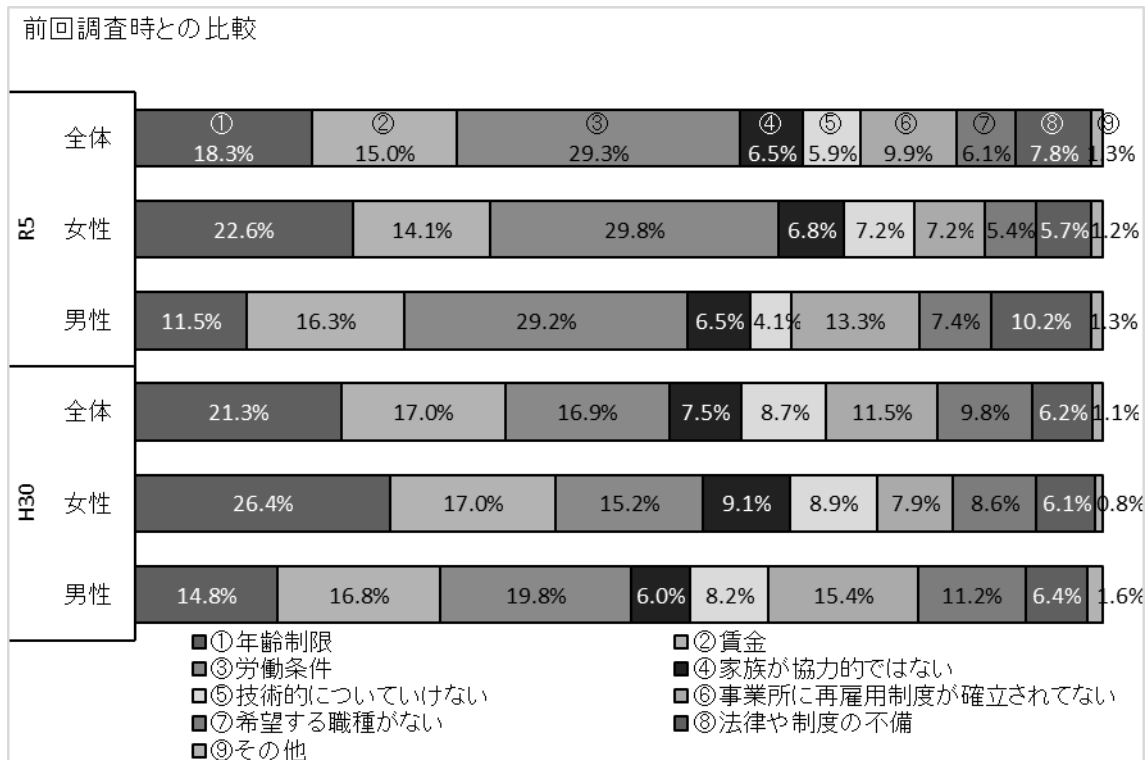


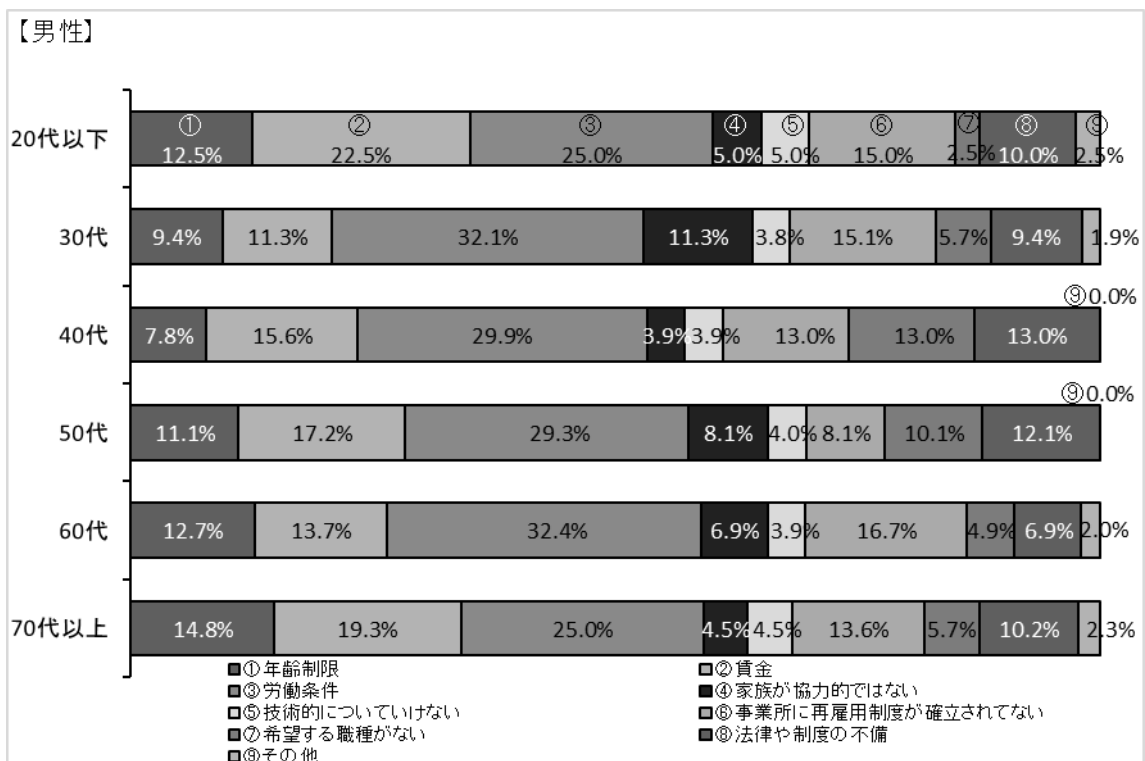
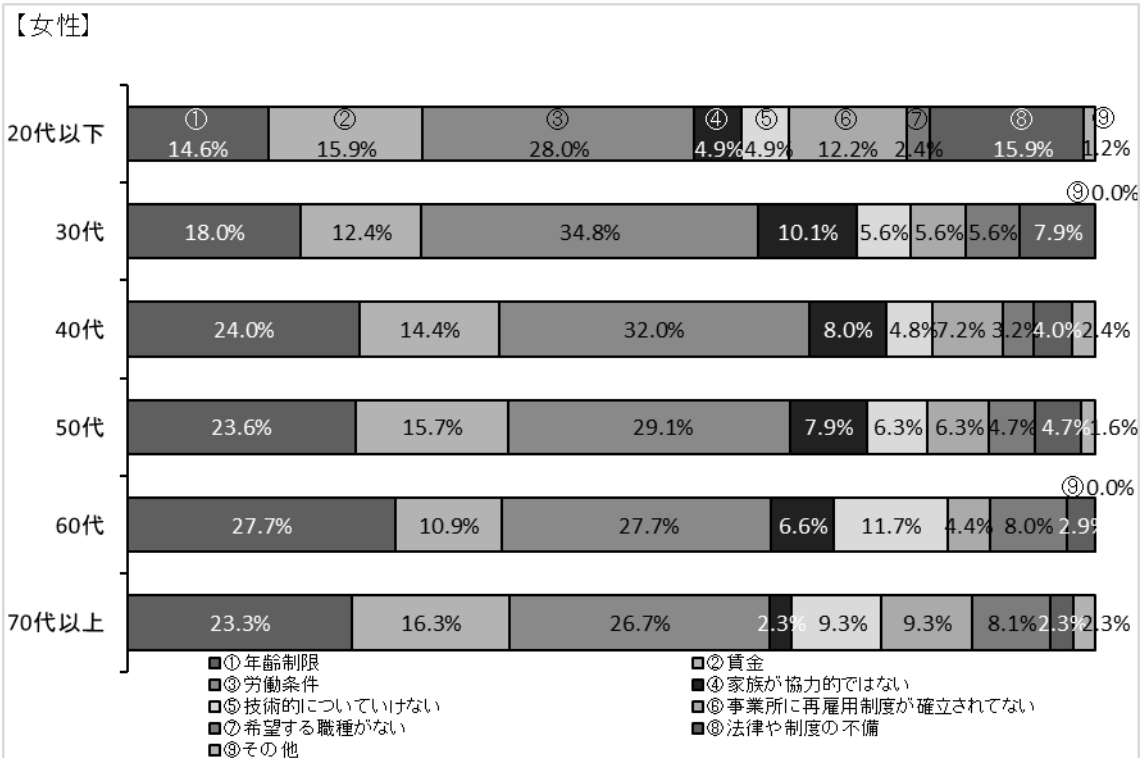


③ 女性が再就職しようとする場合の課題

全体では、「労働条件」と回答した人（29.3%）が多く、2番目に「年齢制限」（18.3%）、3番目に「賃金」（15.0%）としている。「労働条件」は前回（16.9%）に比べて12.4ポイントと大きく増えている。女性では「年齢制限」と回答した人が男性よりも多い。

年代別で見ると、男女とも30代で上位3項目以外では「家族が協力的でない」と回答した人が多くなっている。

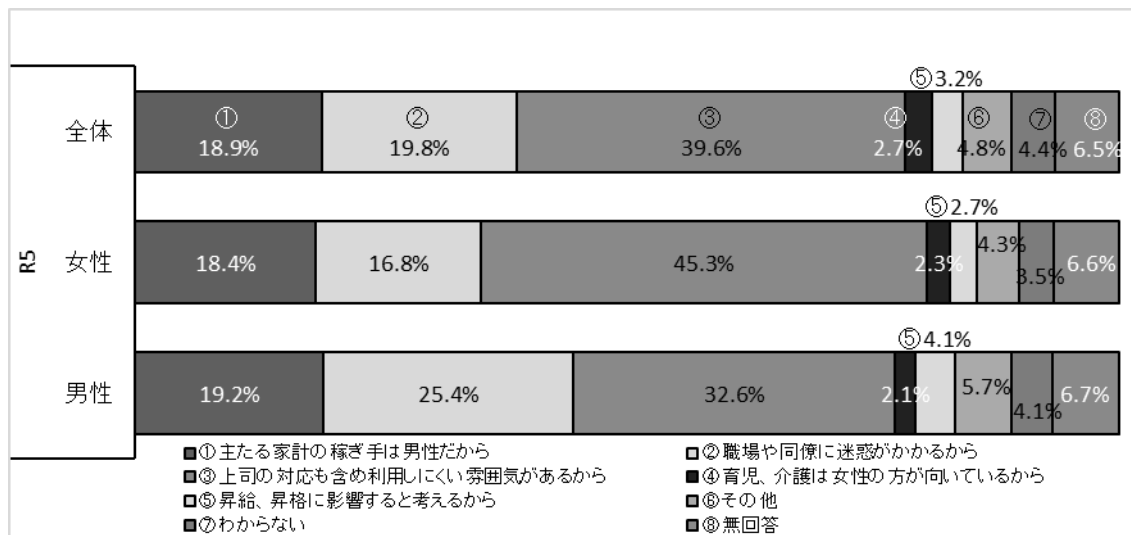


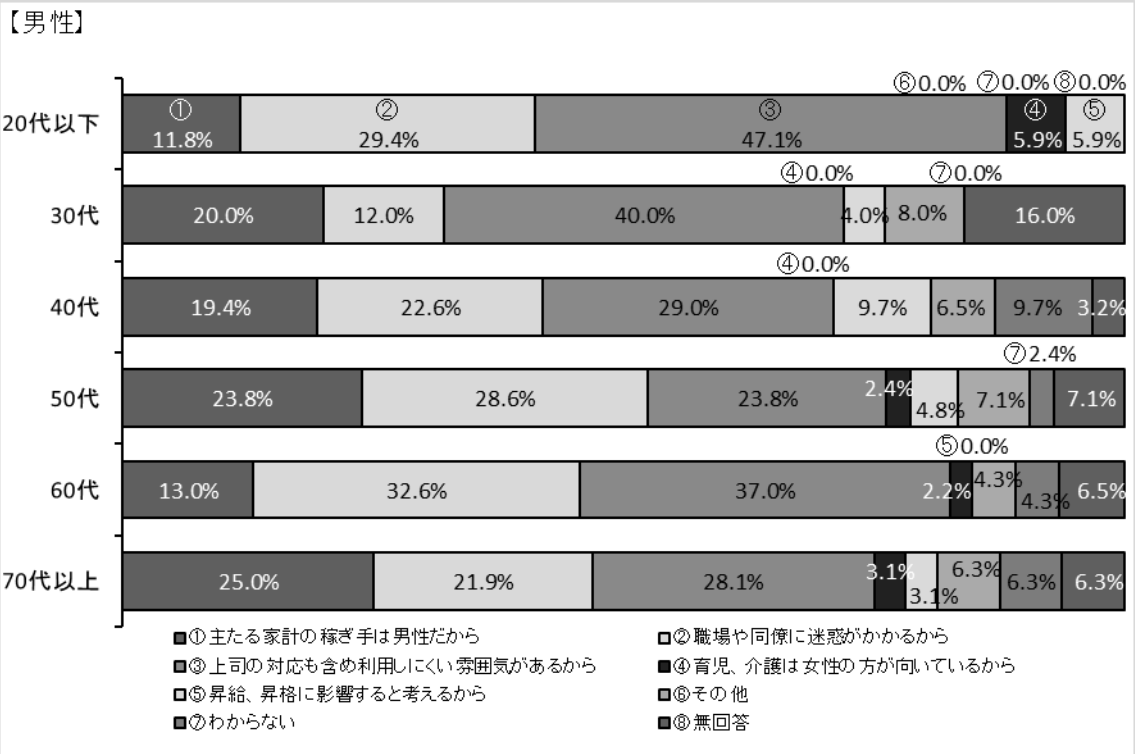
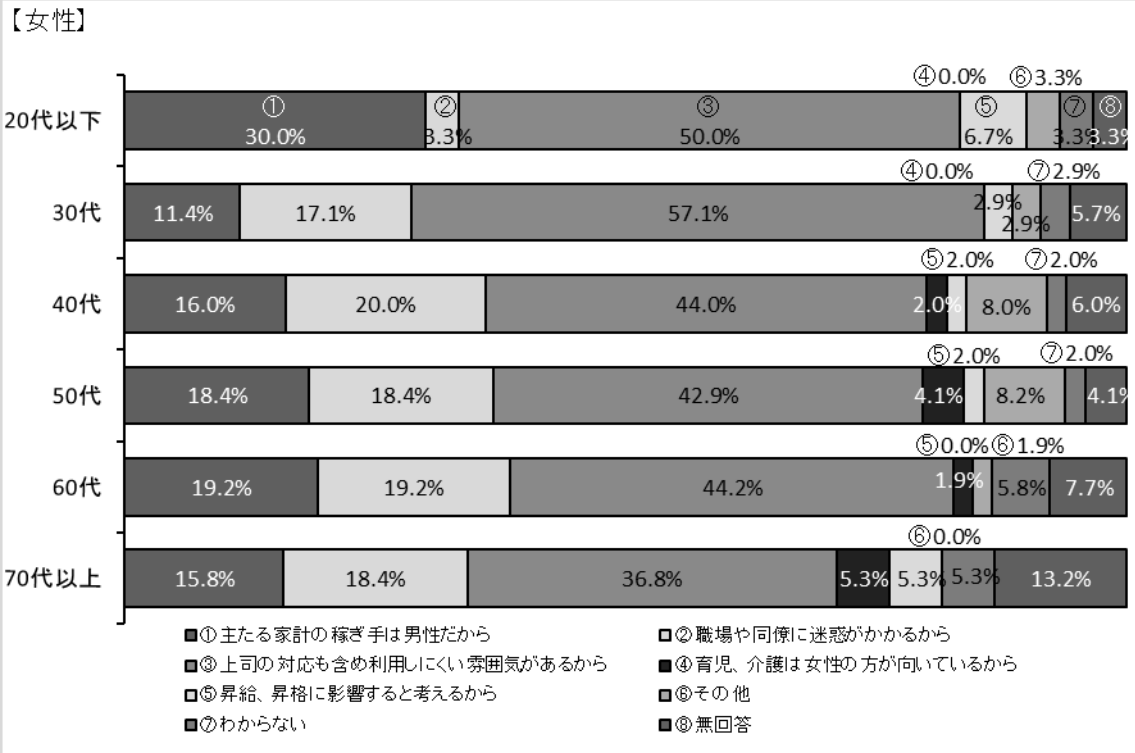


④ 男性の「育児・介護休業制度」の利用が進まない理由

全体では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」と回答した人が39.6%と多い。次いで「職場や同僚に迷惑がかかるから」が19.8%であった。特に男女とも20代、30代がその傾向が強い。

※令和5年度より調査

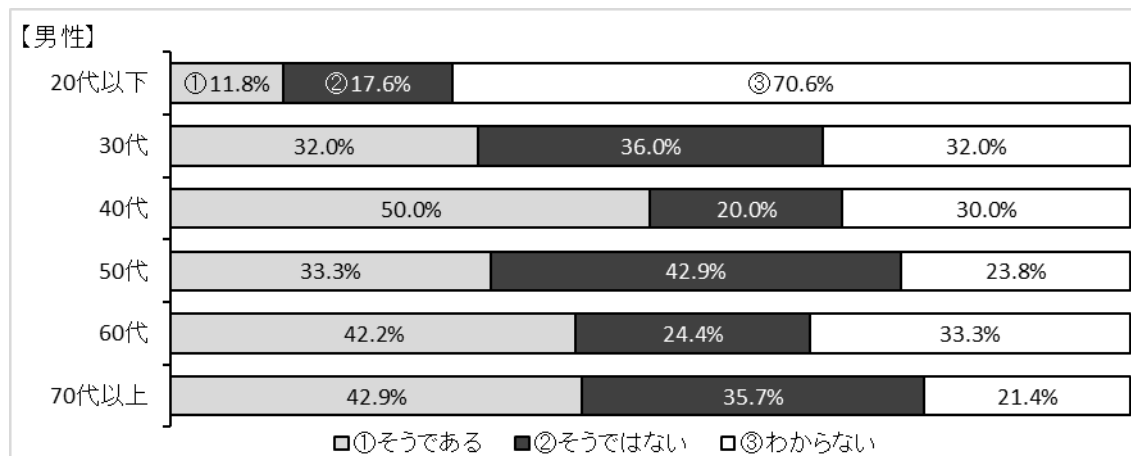
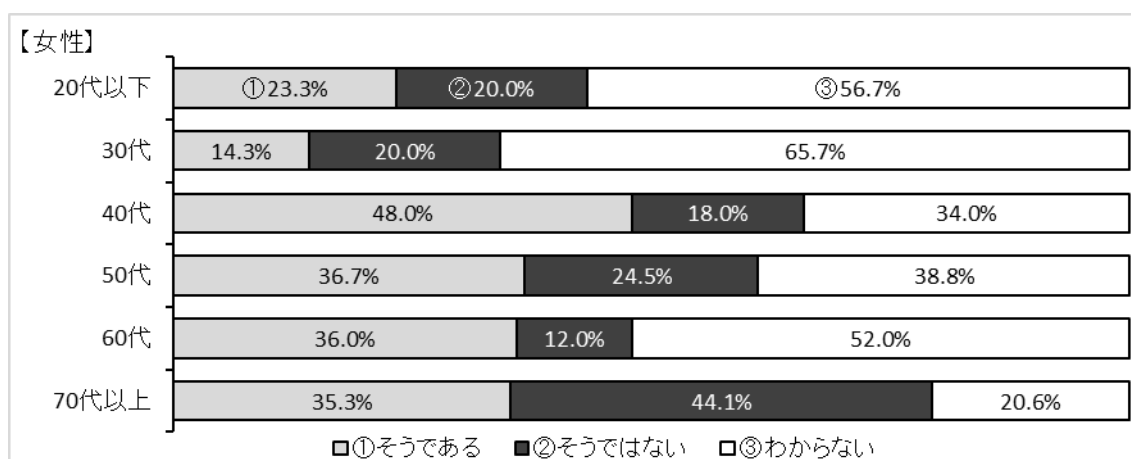
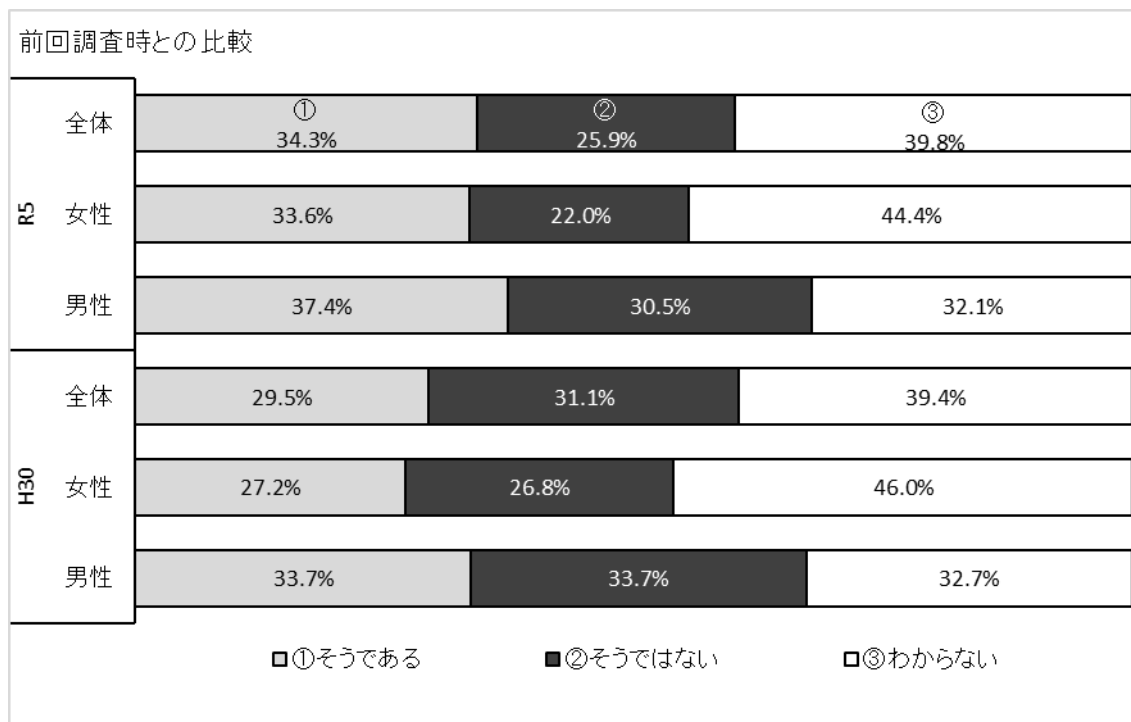




(5) 地域活動における男女共同参画の状況について

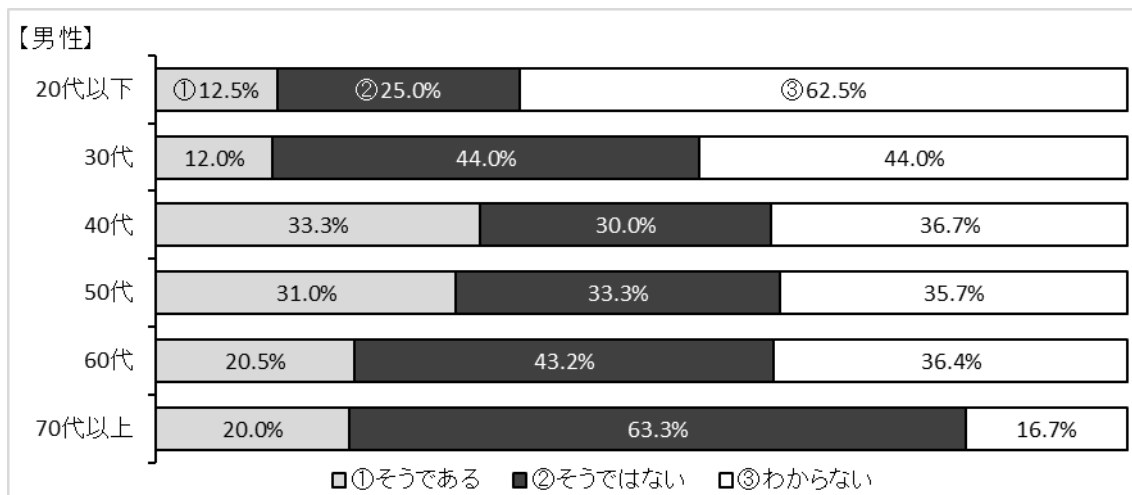
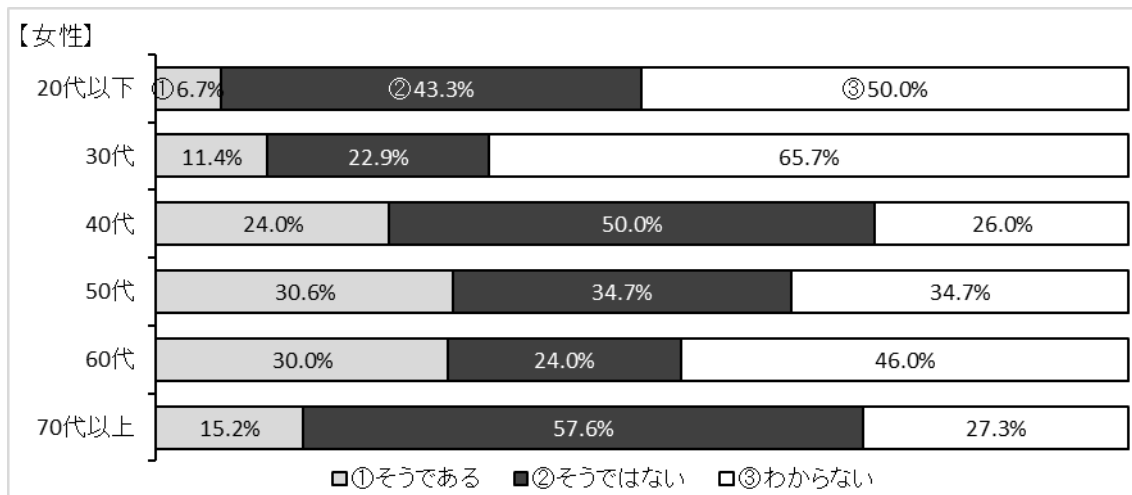
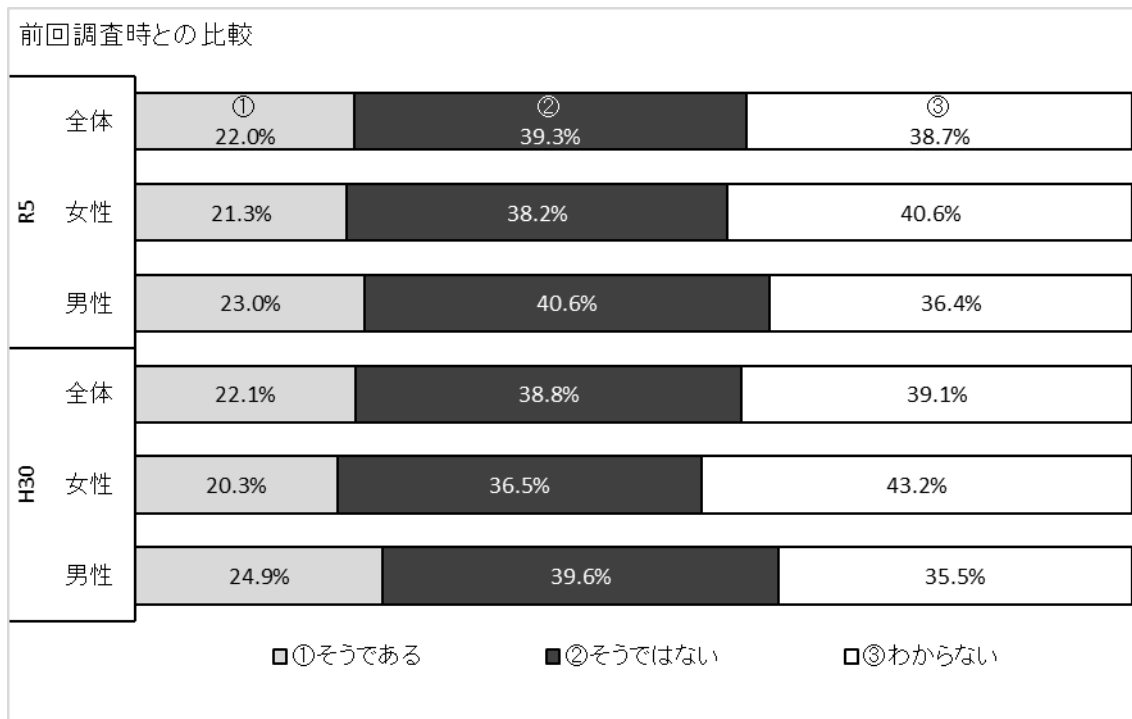
① 力仕事は男性、接待は女性と決まっている

全体では、34.3%が「そうである」と回答しており、前回(29.5%)に比べて4.8ポイント増えている。年代別でみると、男女とも40代で「そうである」が多く、女性の70代以上、男性の50代では「そうではない」が多い。



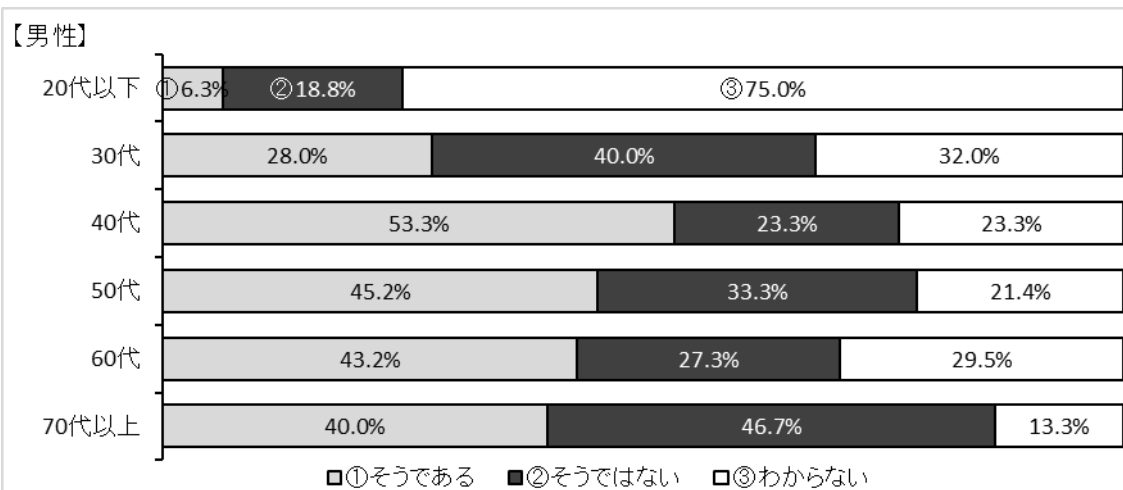
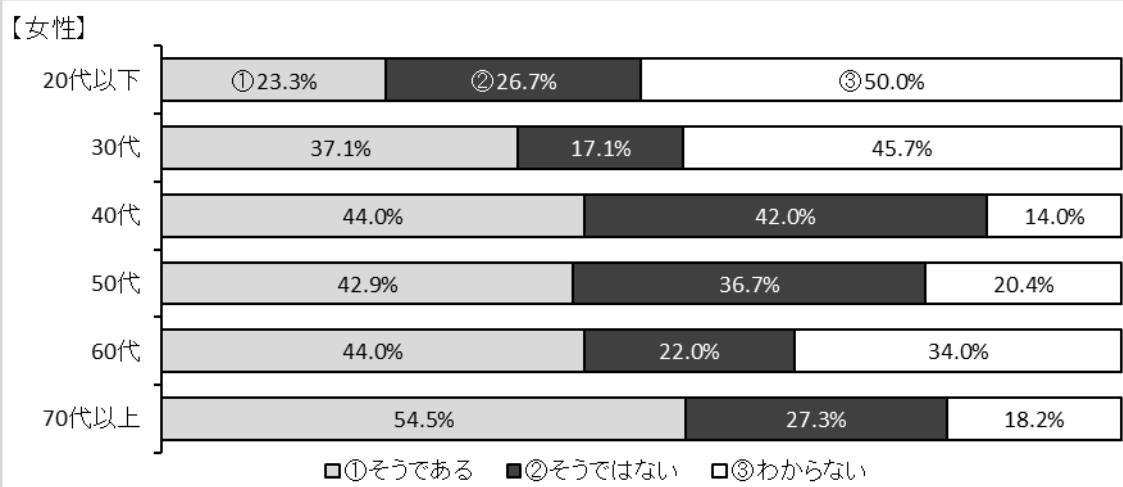
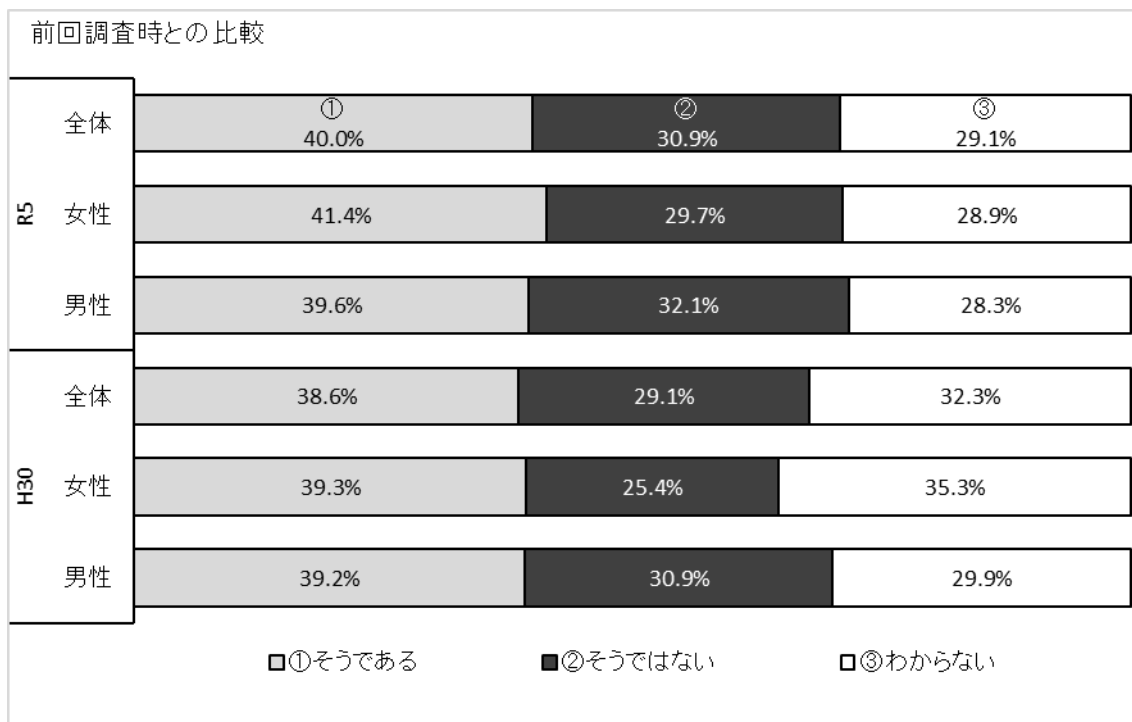
② 自治会やPTA会長は男性と決まっている

全体では39.3%が「そうではない」と回答しており、前回（38.8%）と比較して大きな変化は無い。年代別では、男女とも70代以上で6割前後が「そうではない」と回答しており、多い状況である。一方「そうである」と回答した人をみると、女性の50代、60代、男性の40代、50代が3割程いる。



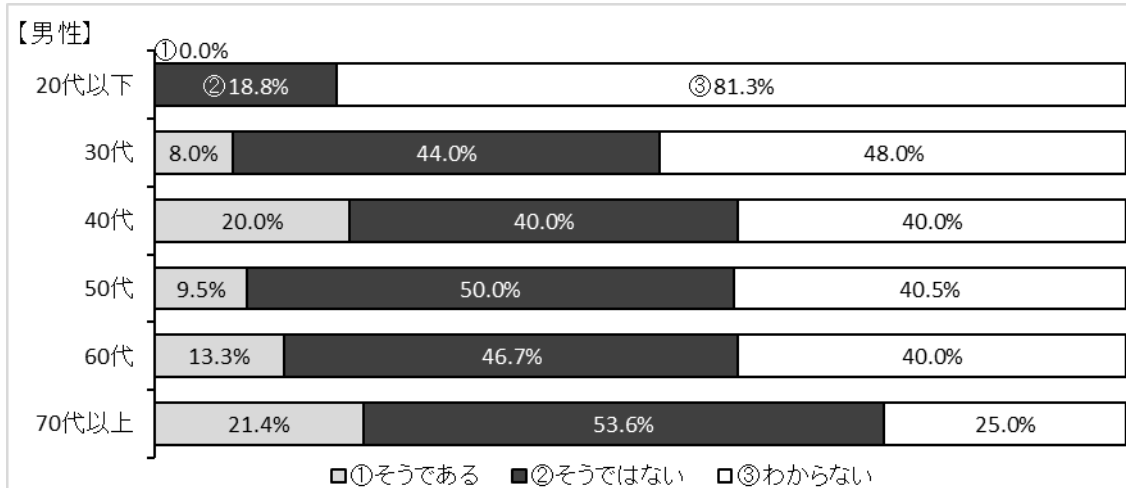
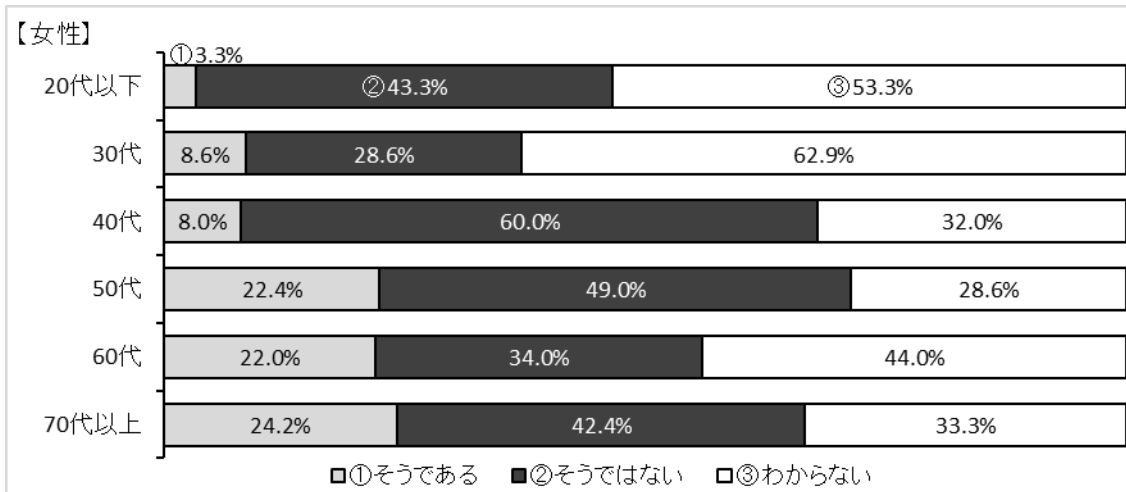
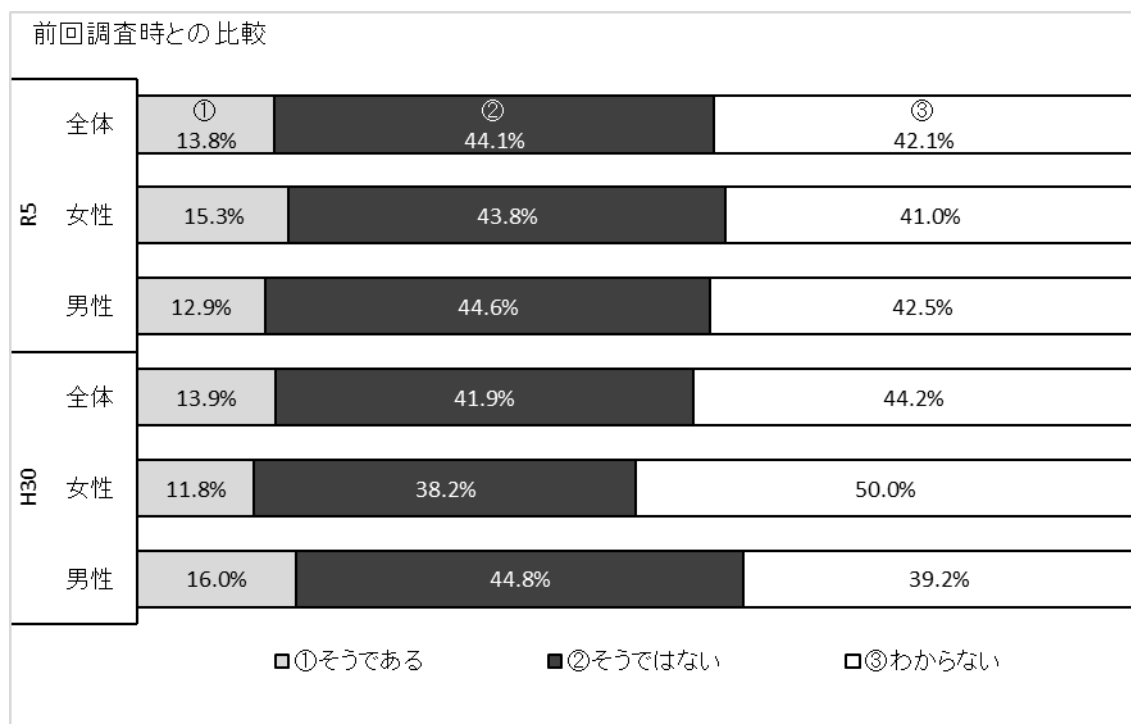
③ 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

全体では40.0%の人が「そうである」と回答しており、前回（38.6%）と比べて1.4ポイント増えている。男女とも40代以上では「そうである」と回答した人が4割を超えている。



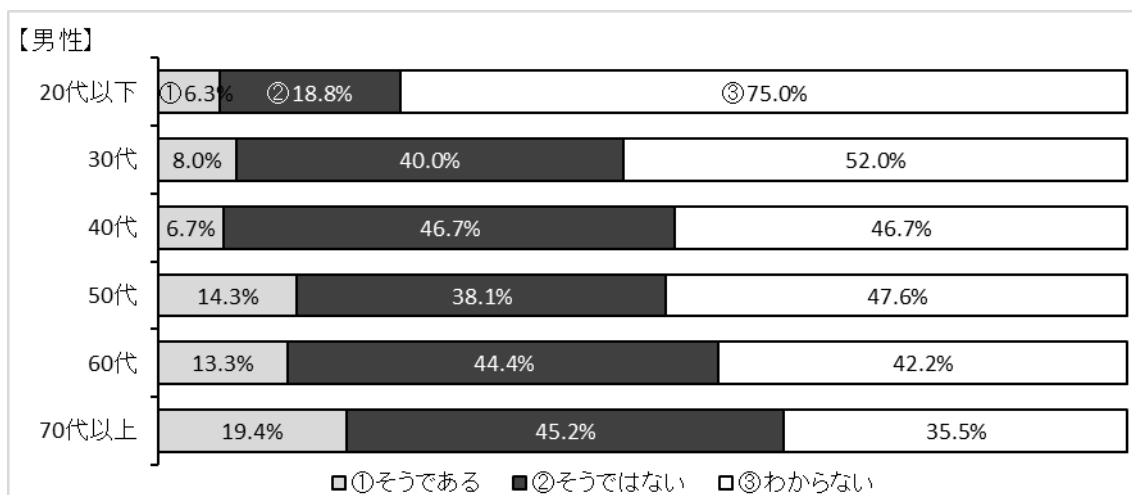
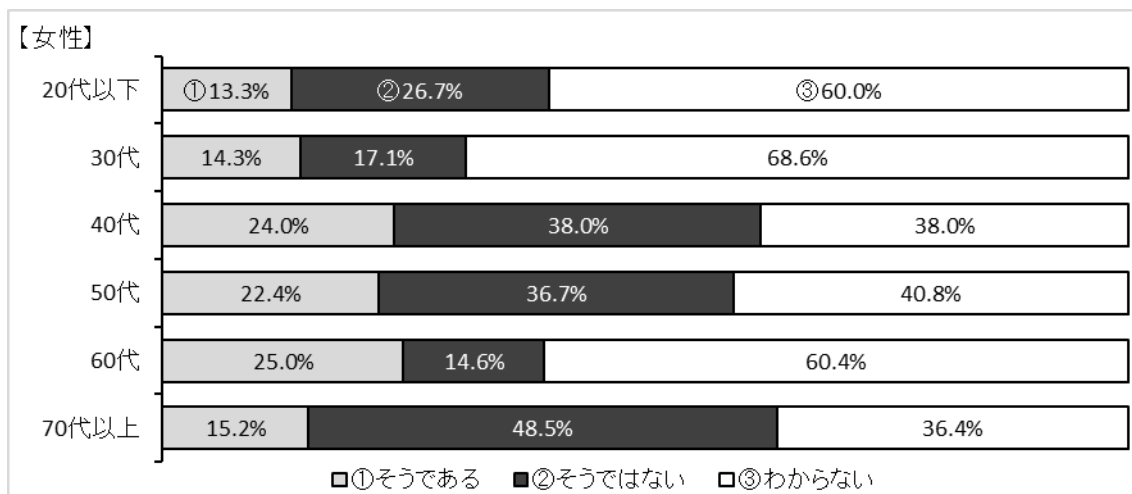
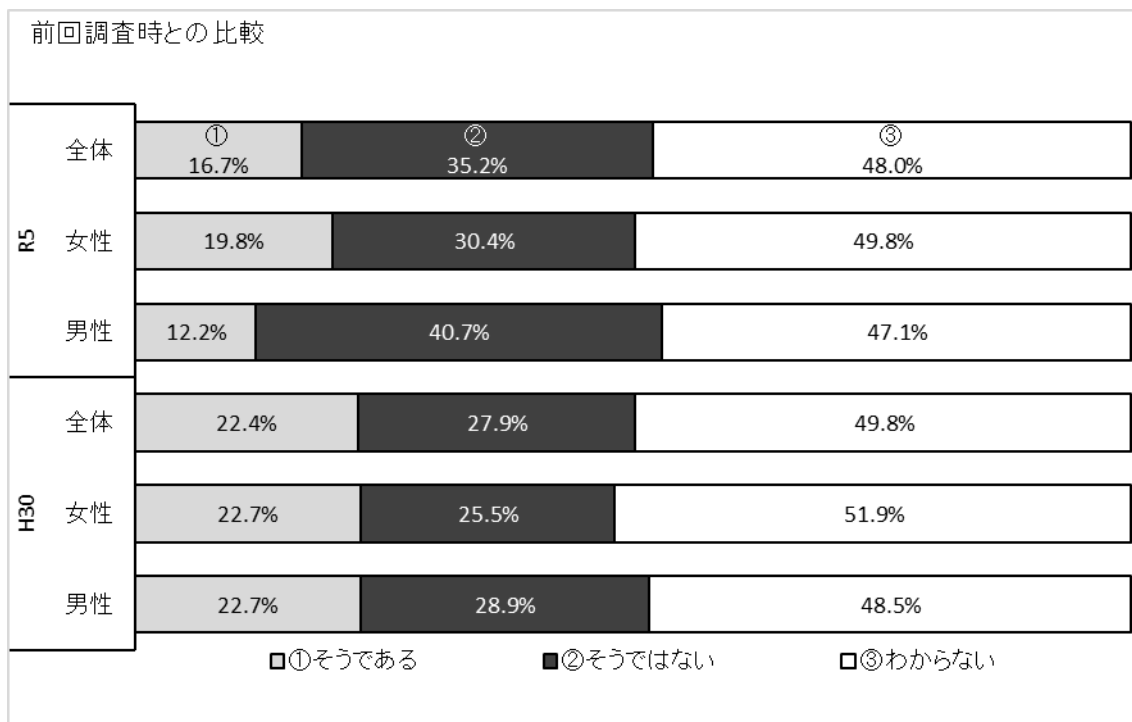
④ 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

全体では、44.1%が「そうではない」と回答しており、前回（41.9%）に比べて2.2ポイント増えている。なお、男女とも20代から30代において、わからないと回答した人が多く、地域活動にかかわりが少ないのではないかとと思われる状況がうかがわれる。



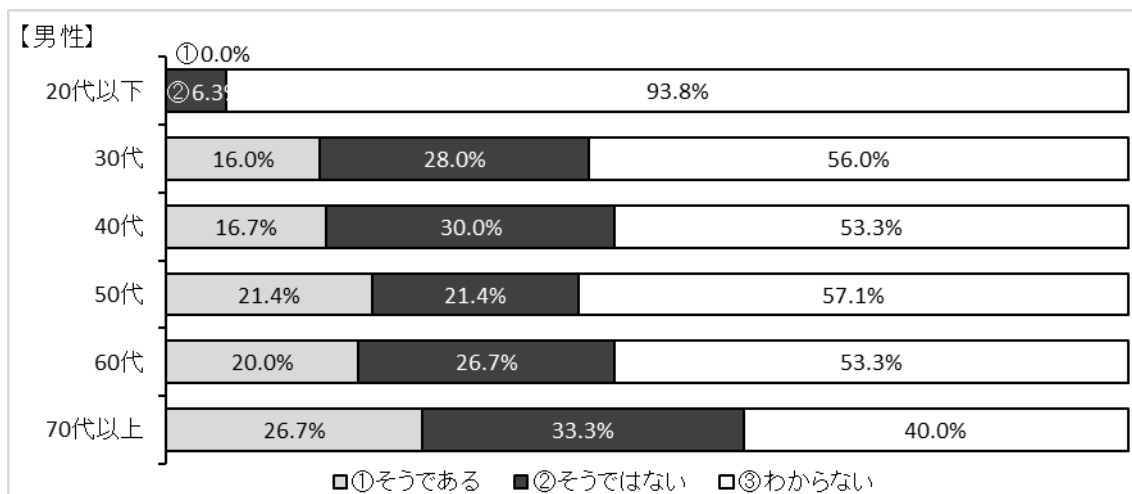
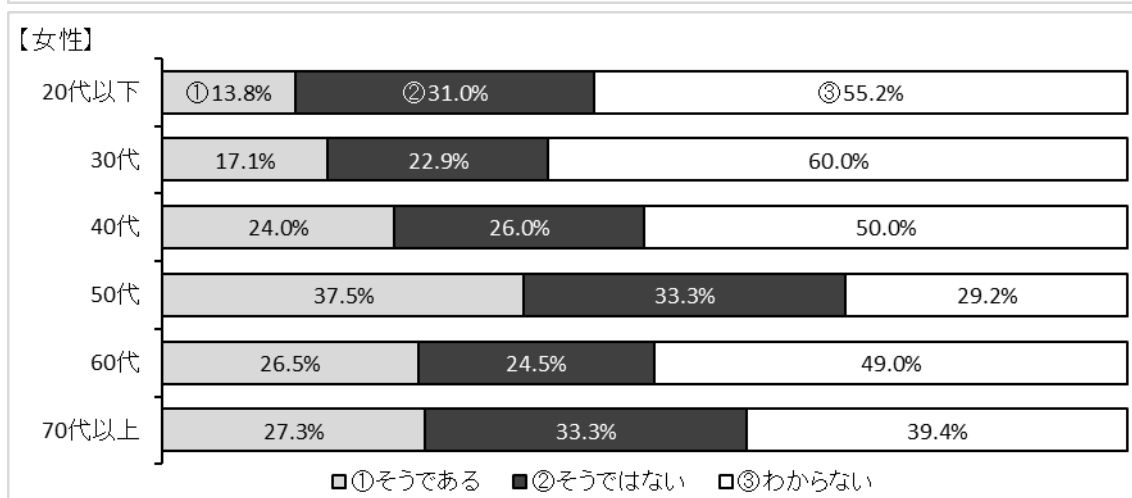
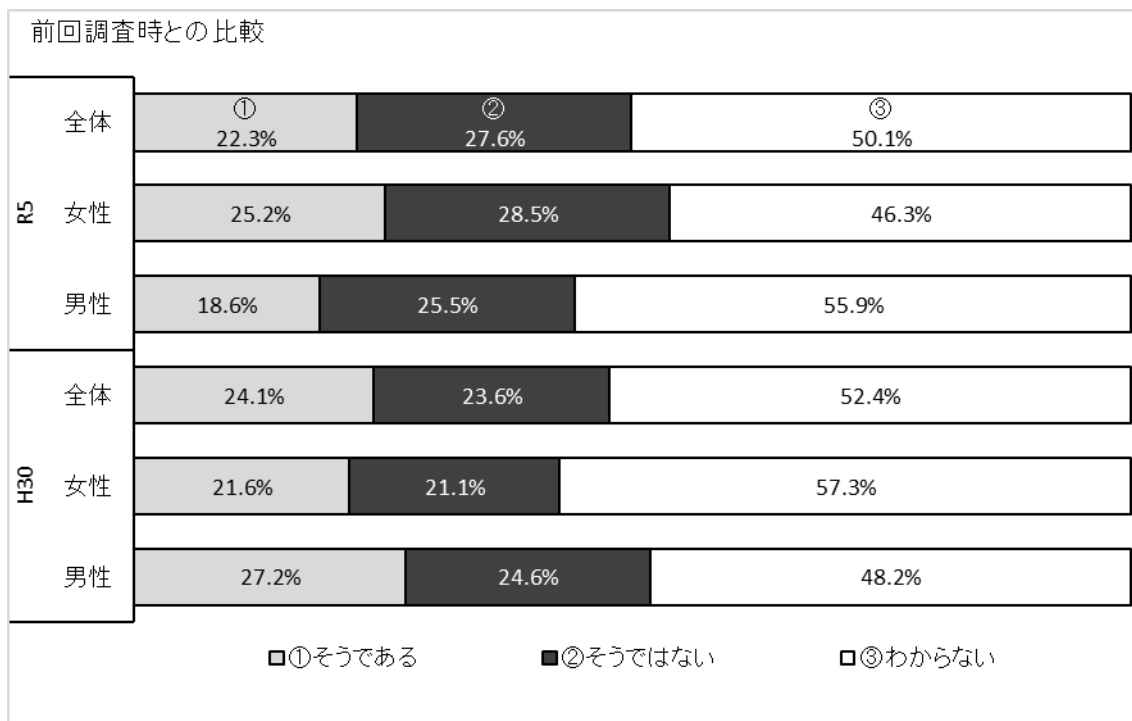
⑤ 実際の仕事は女性がしているのに、名義は男性になっている

全体では、35.2%が「そうではない」と回答しており、前回（27.9%）に比べて7.3ポイント増えている。



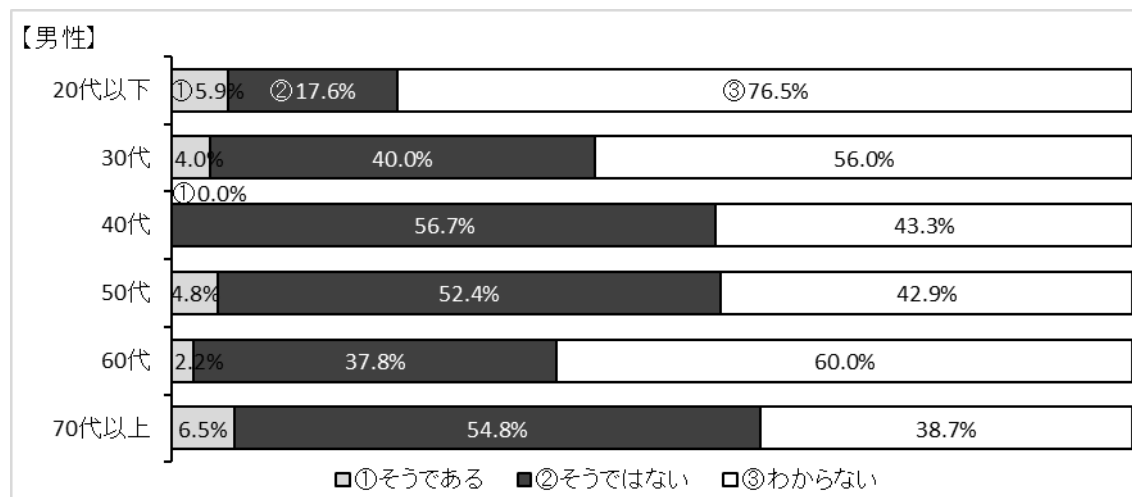
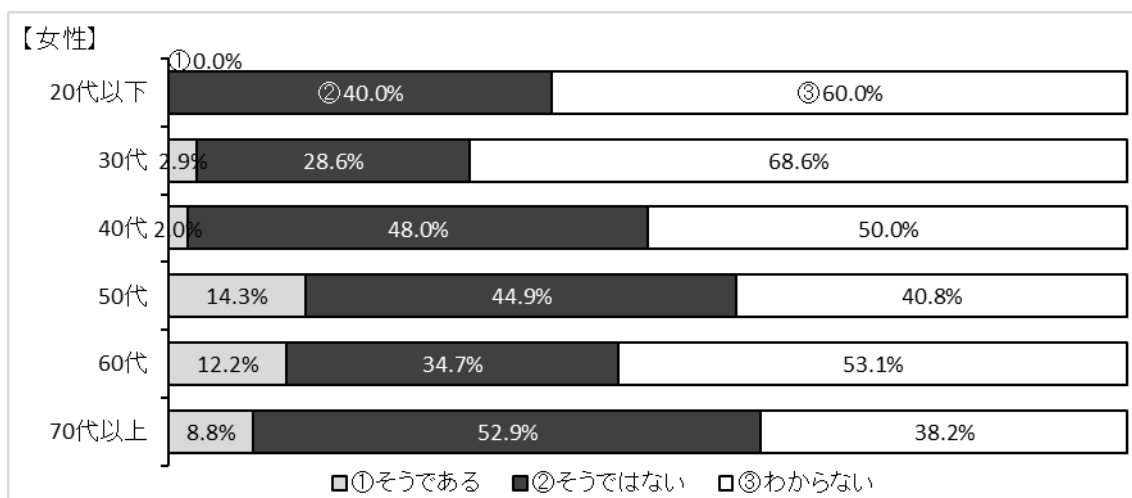
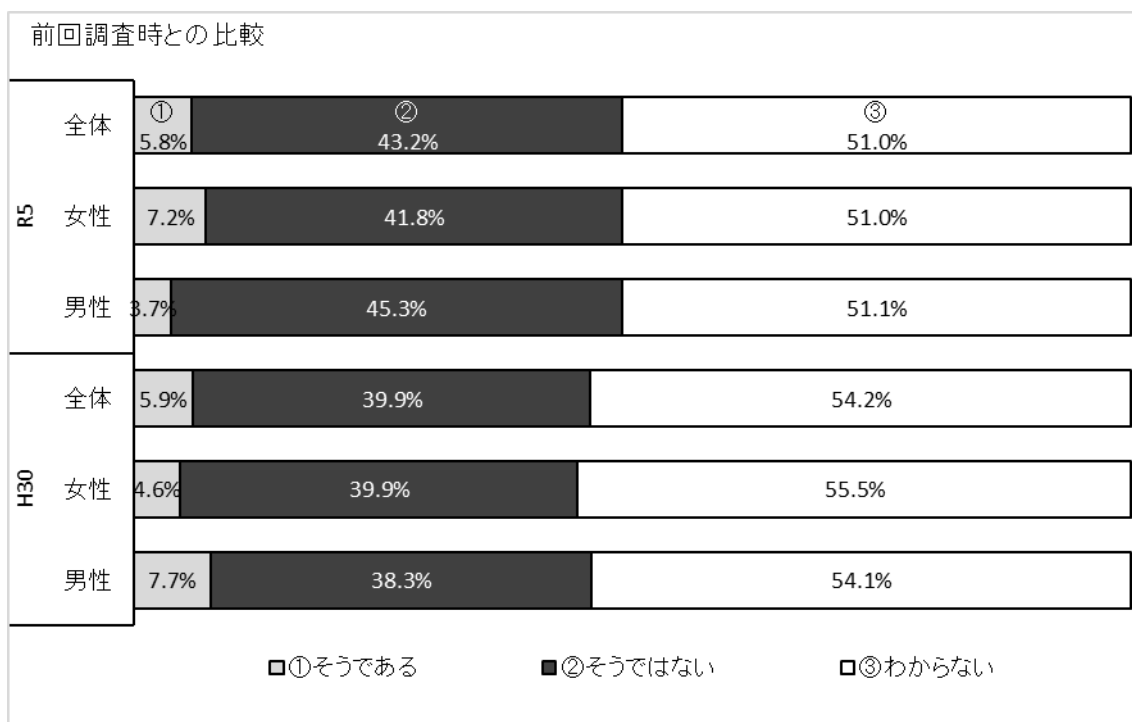
⑥ 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

全体では、27.6%が「そうではない」と回答しており、前回（23.6%）に比べて4.0ポイント増えている。ほかの設問に比べて「そうである」（22.3%）と「そうではない」（27.6%）が拮抗している。なお、女性の50代では「そうである」と回答した人が37.5%と多かった。



⑦ 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

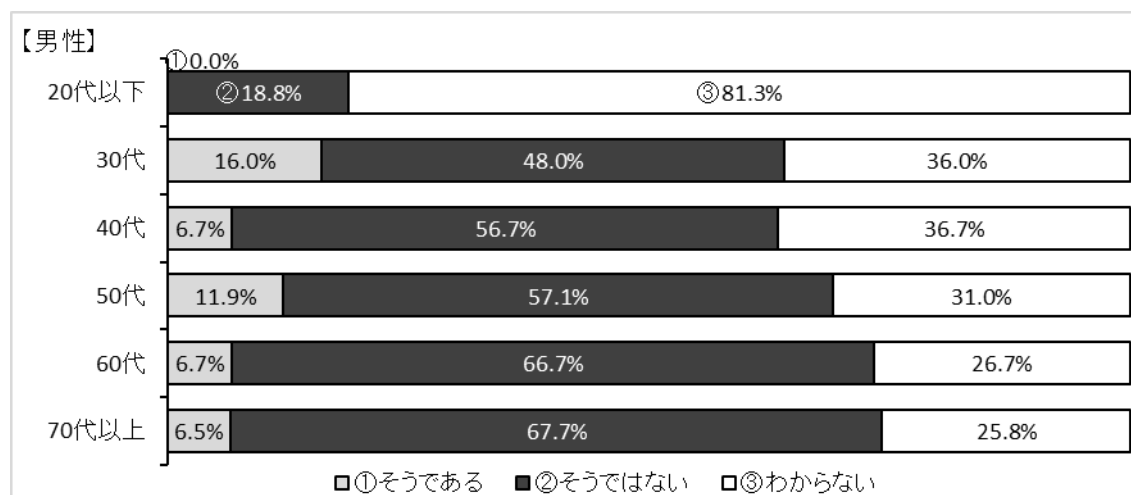
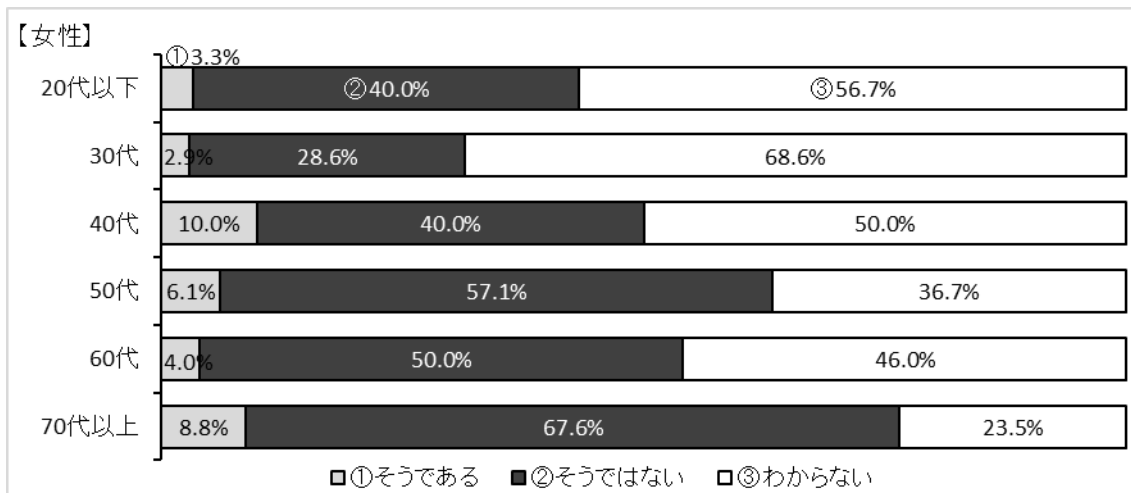
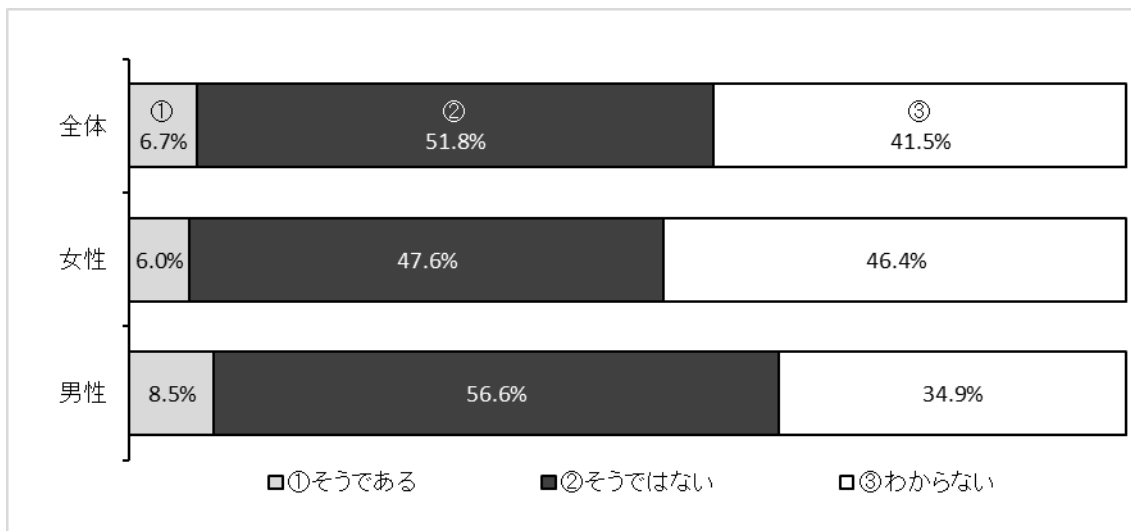
全体では、43.2%が「そうではない」と回答しており、前回（39.9%）に比べて3.3ポイント増えている。一方、「そうである」と回答した人もわずかであるが、未だ役割分担意識が強く残っていることがうかがわれる。



⑧ 防災や災害時での活動は男性だけで行っている

全体では、51.8%が「そうではない」と回答している。一方、「わからない」と回答した人が全体的に女性に多いことから、防災や災害時にかかわりが少ない様子が見られる。

※令和5年度より調査

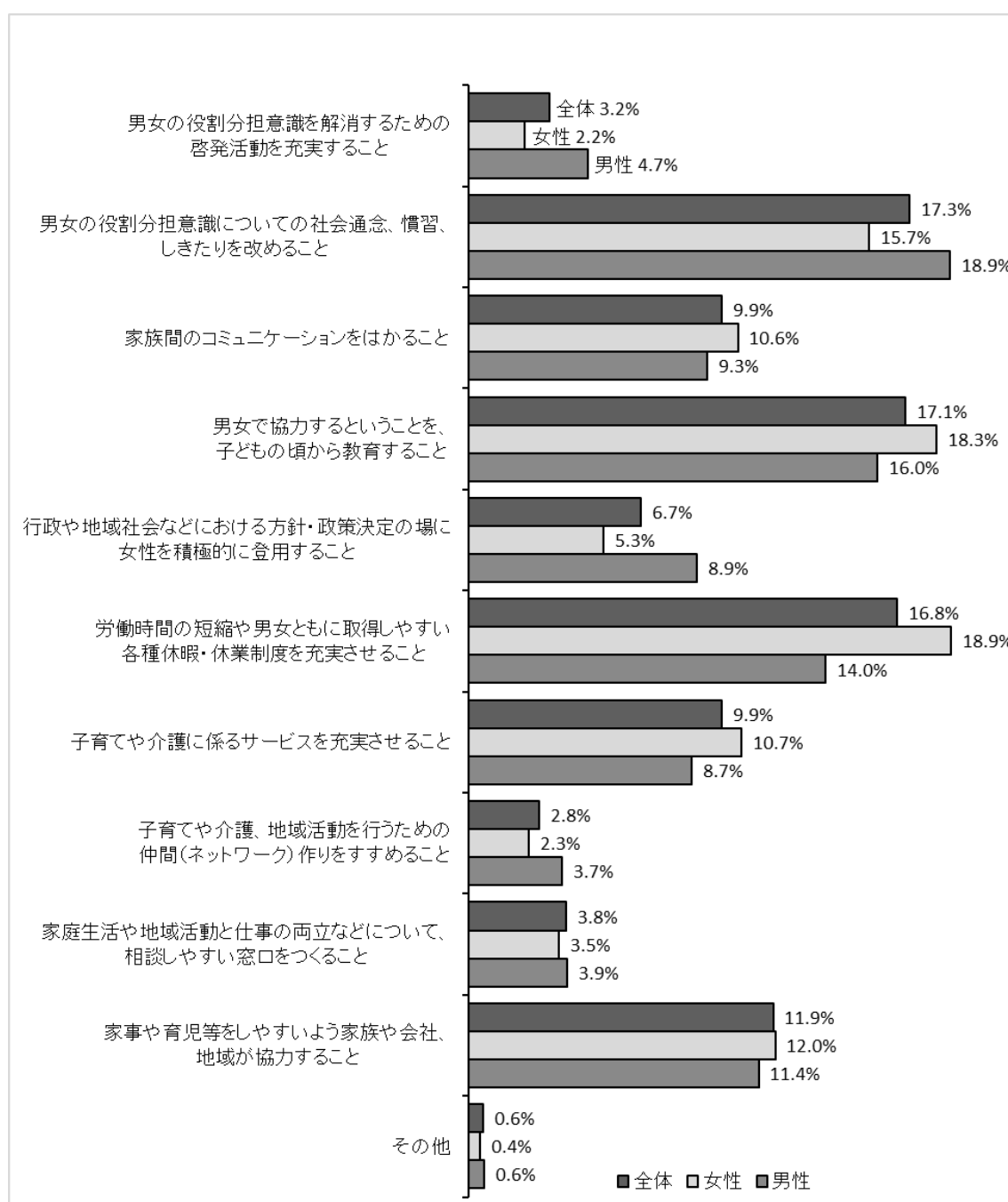


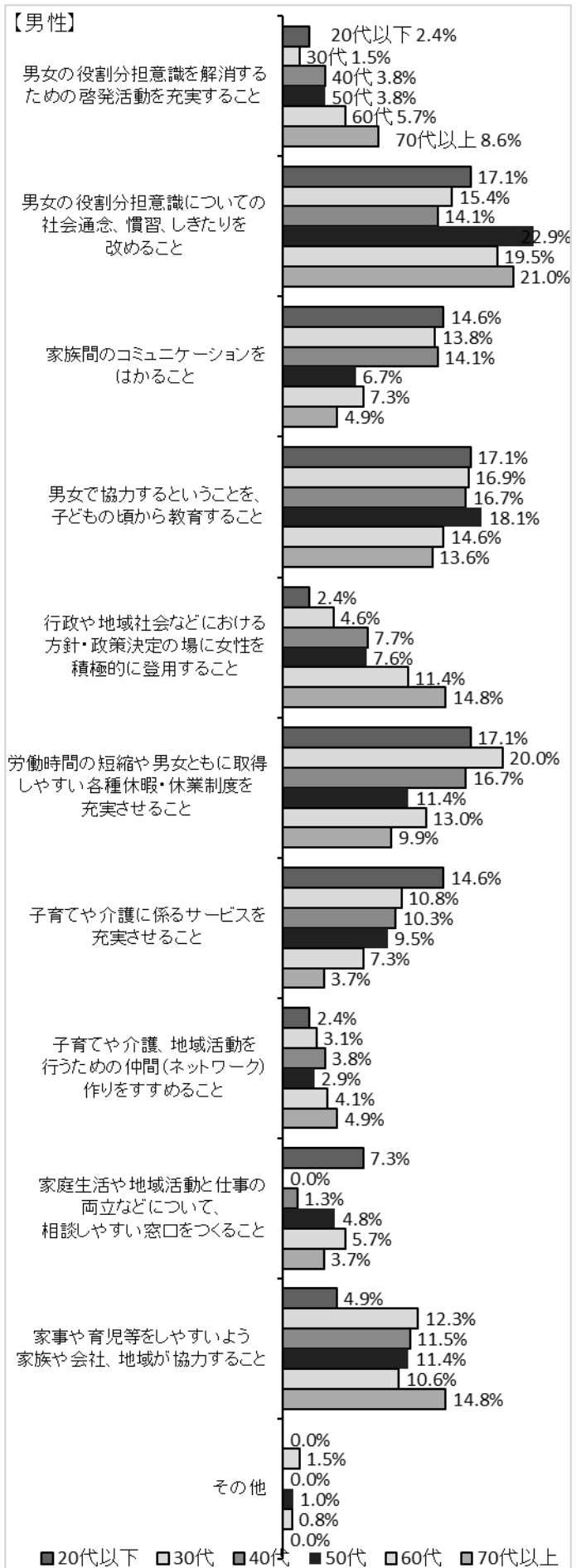
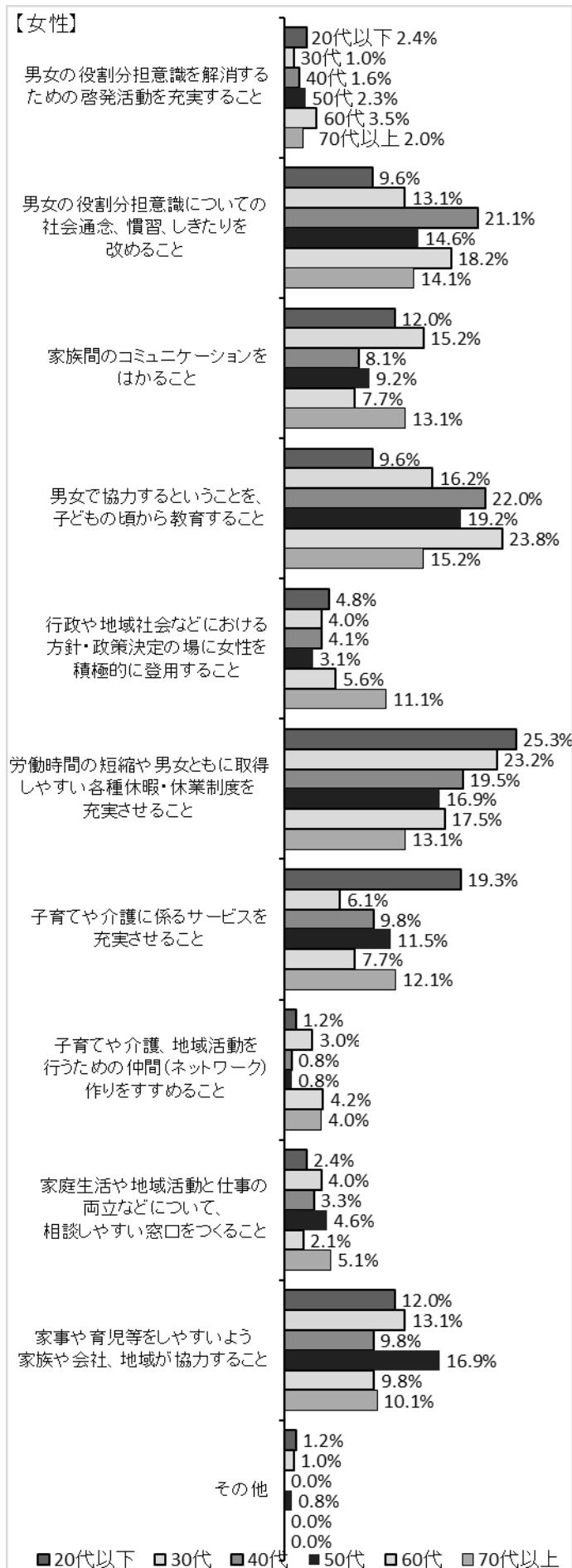
(6) 男女がともに社会に参加するために重要なこと

全体では、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(17.3%)、「男女で協力するということ、子どもの頃から教育すること」(17.1%)、「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい各種休暇・休業制度を充実させること」(16.8%)と回答した人が多い。

女性では「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい各種休暇・休業制度を充実させること」(18.9%)が一番多く、中でも20代で最も多かった。男性では、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(18.9%)が最も多い。

■男性と女性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動へ参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。





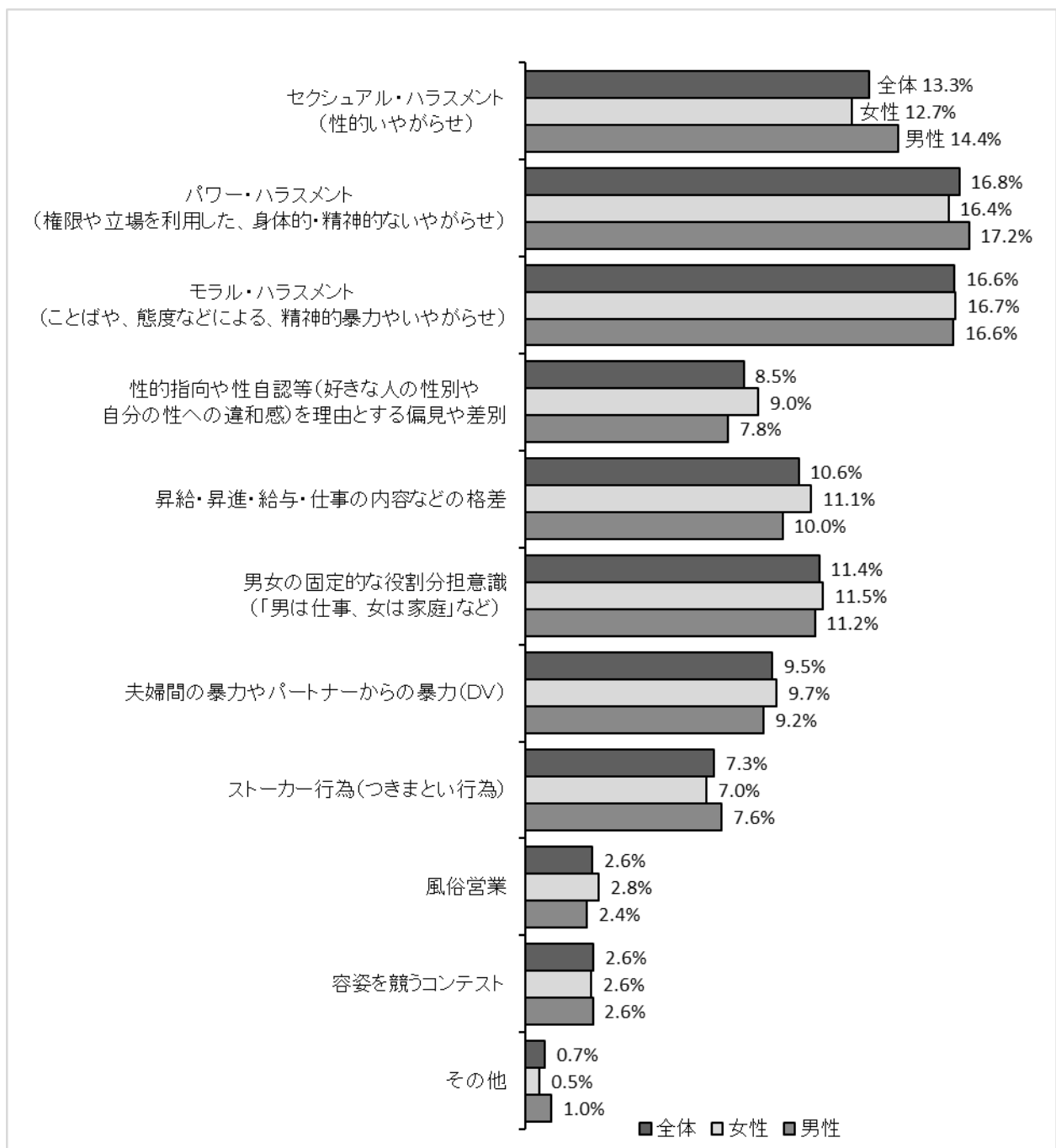
(7) 男女の人権について

① 男女の人権が尊重されていないと感じること

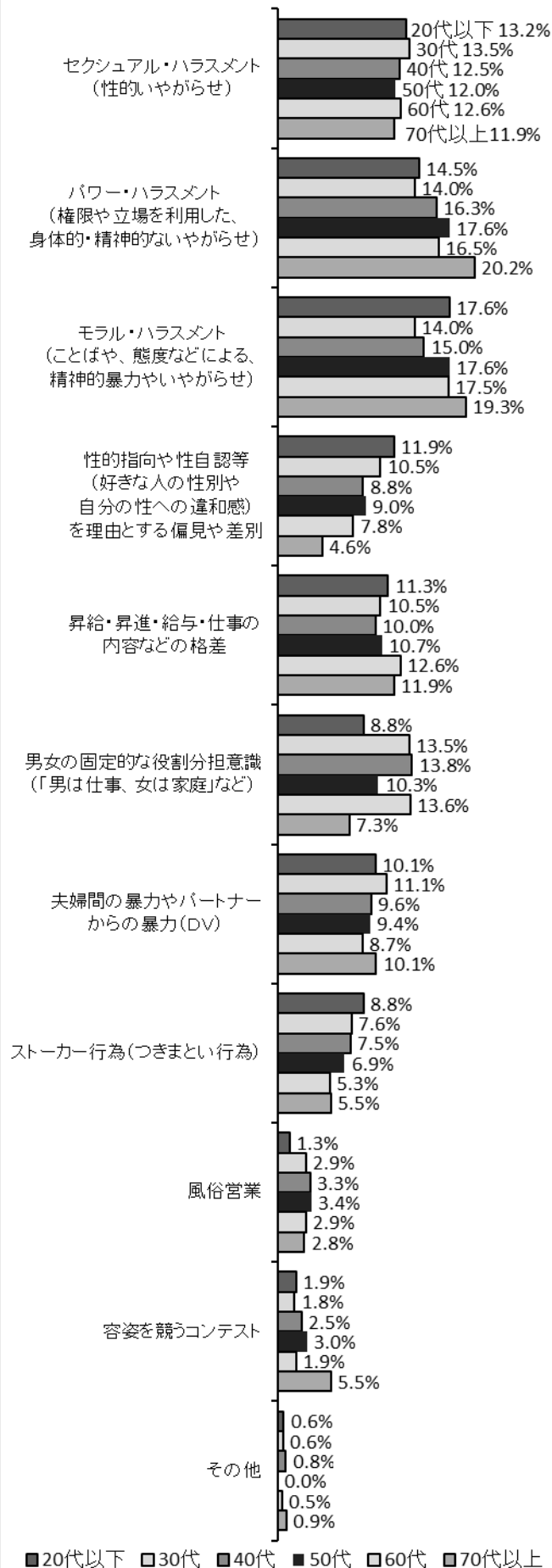
全体では、「パワー・ハラスメント（権限や立場を利用した、身体的・精神的ないやがらせ）」（16.8%）、「モラル・ハラスメント（ことばや、態度などによる、精神的暴力的いやがらせ）」（16.6%）、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」（13.3%）と回答した人が多い。

特に女性の70代以上では「パワー・ハラスメント」が多く、男性の40代では「モラル・ハラスメント」が多くなっている。

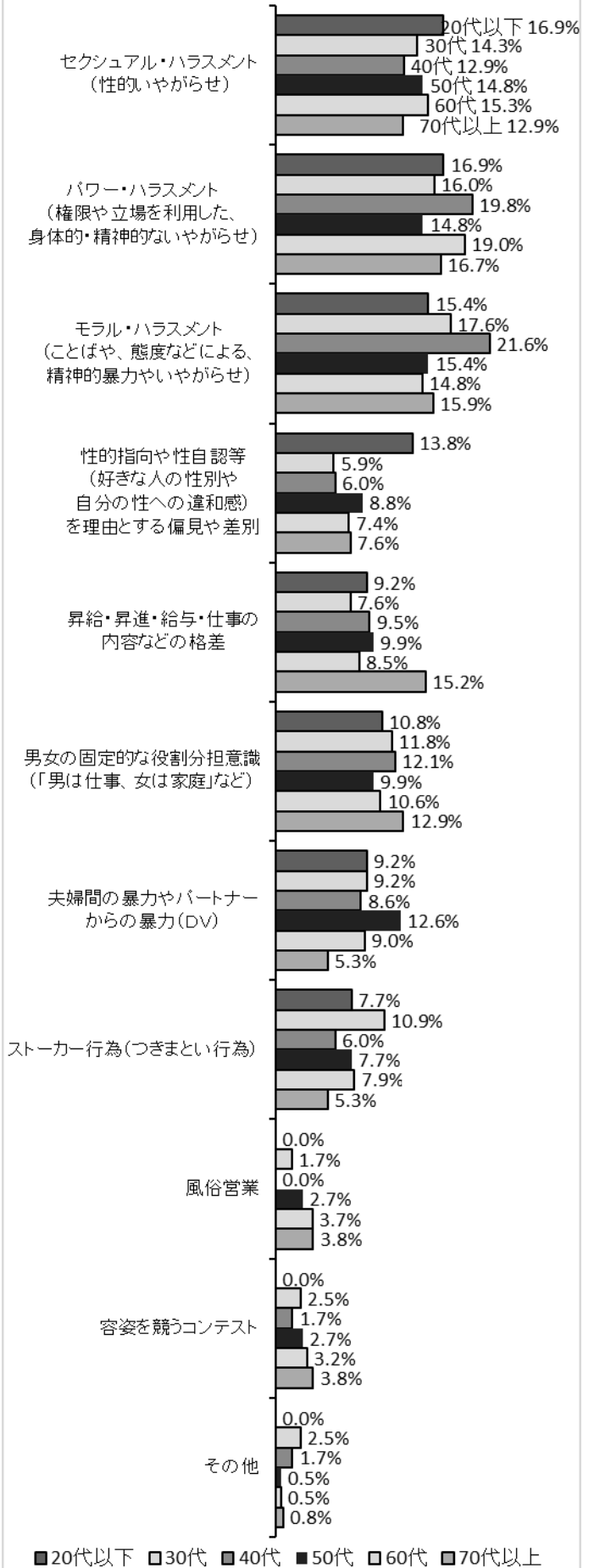
■人権が尊重されていないと感じることはどんなことですか。



【女性】



【男性】

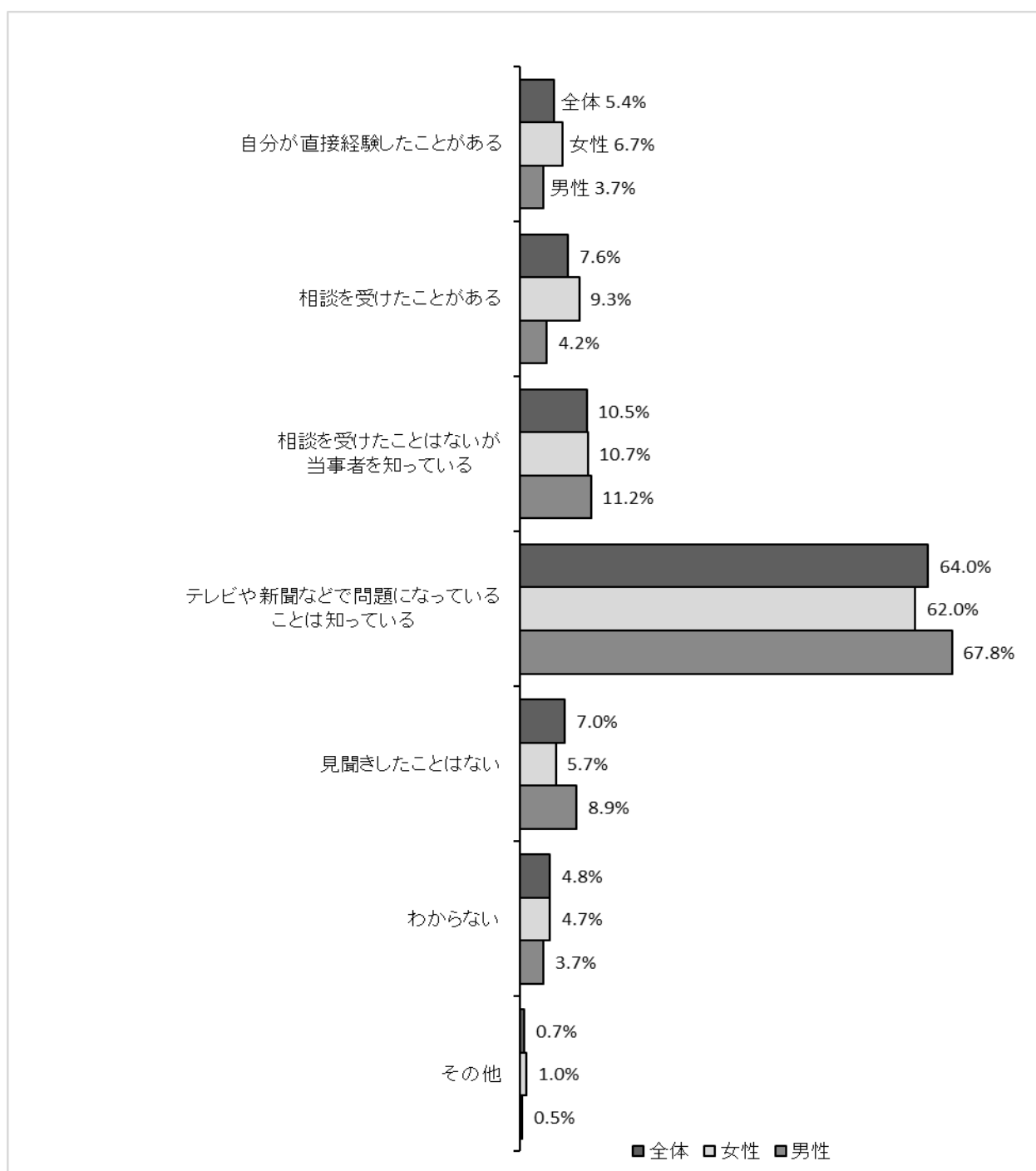


② DVを経験したり、見聞きした経験

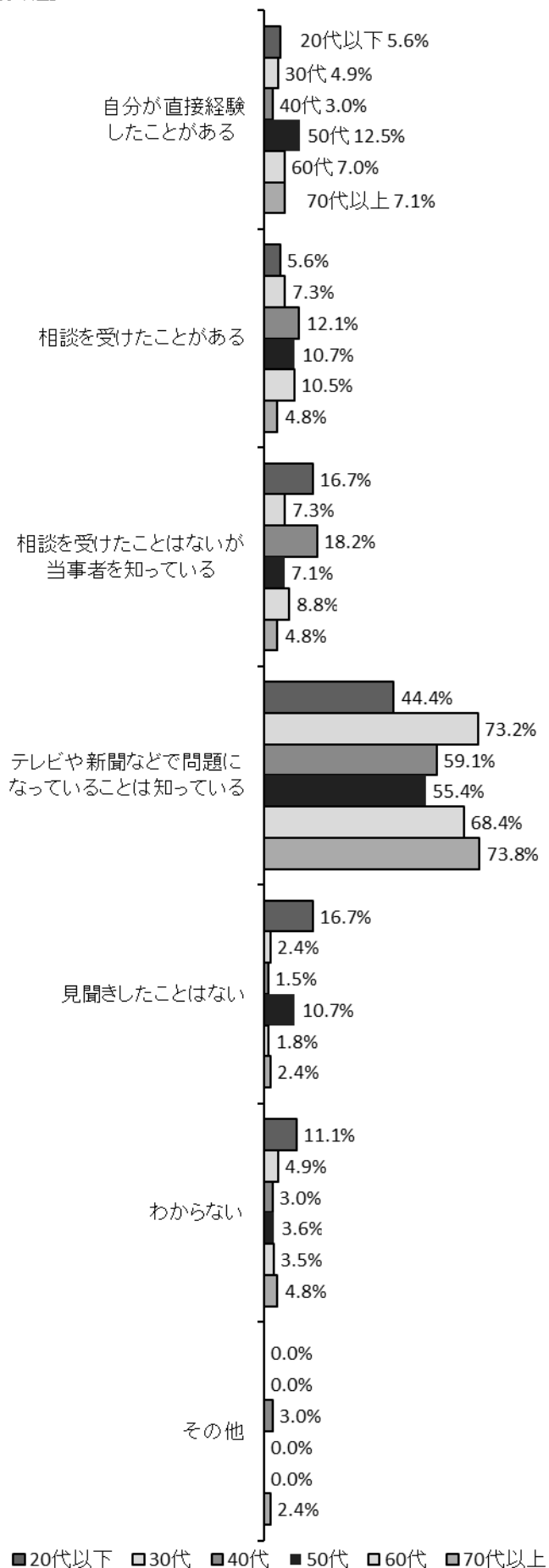
全体では、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」（64.0%）と回答した人が圧倒的に多いが、「見聞きしたことはない」（7.0%）という人もいる。

また、「自分が直接経験したことがある」（5.4%）、「相談を受けたことがある」（7.6%）、「相談を受けたことはないが当事者を知っている」（10.5%）を合わせると、2割以上になる。

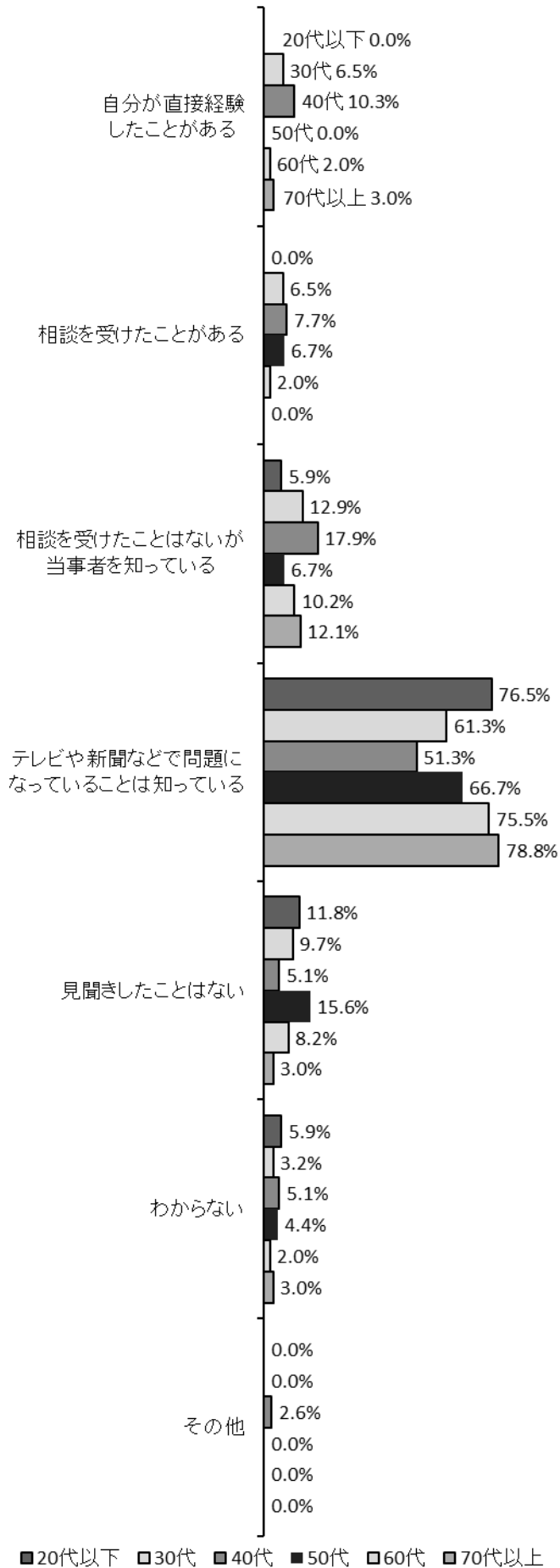
■ドメスティック・バイオレンス（DV）について、経験したり、見聞きしたことはありますか。



【女性】



【男性】

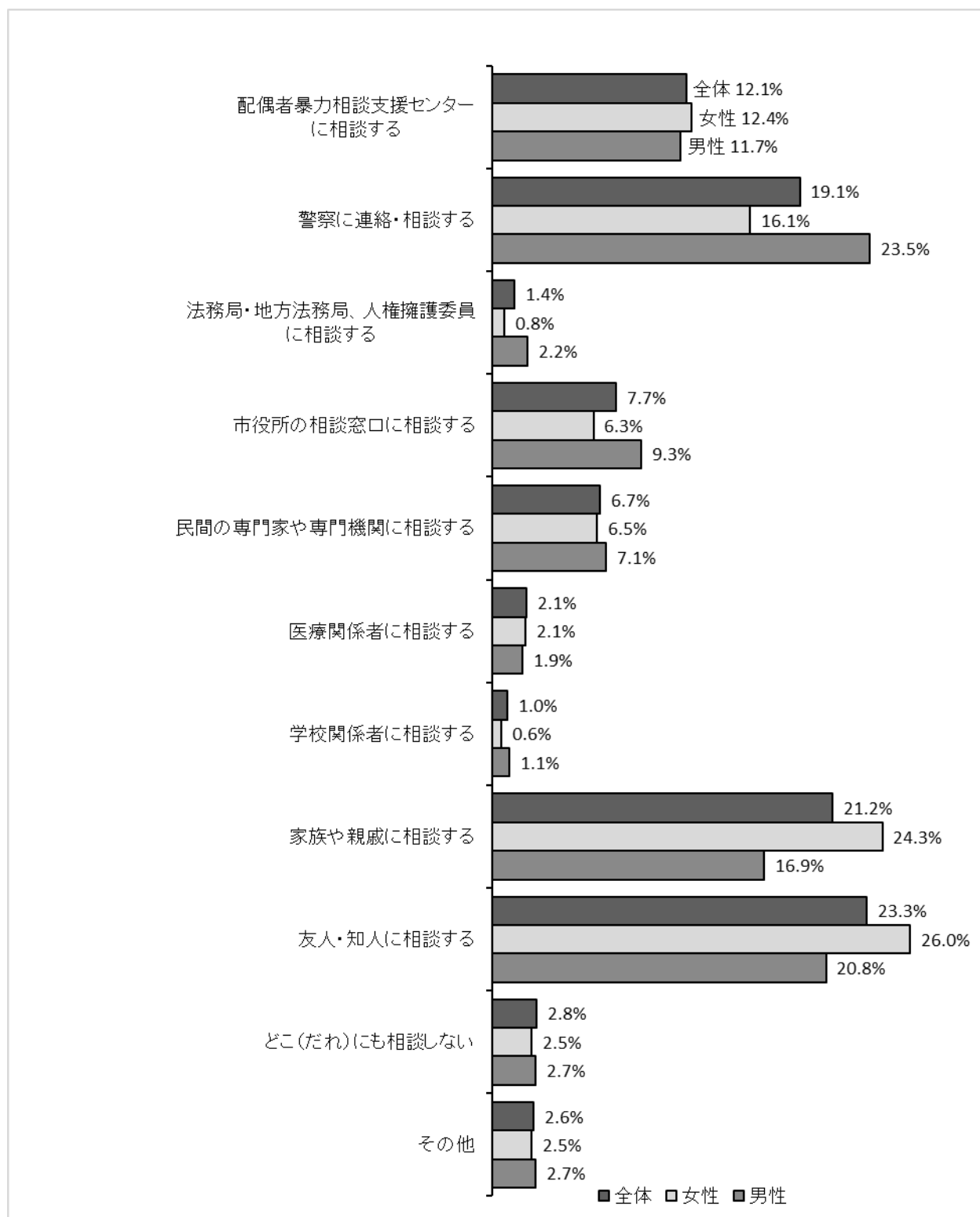


③ DVを受けたときの相談先

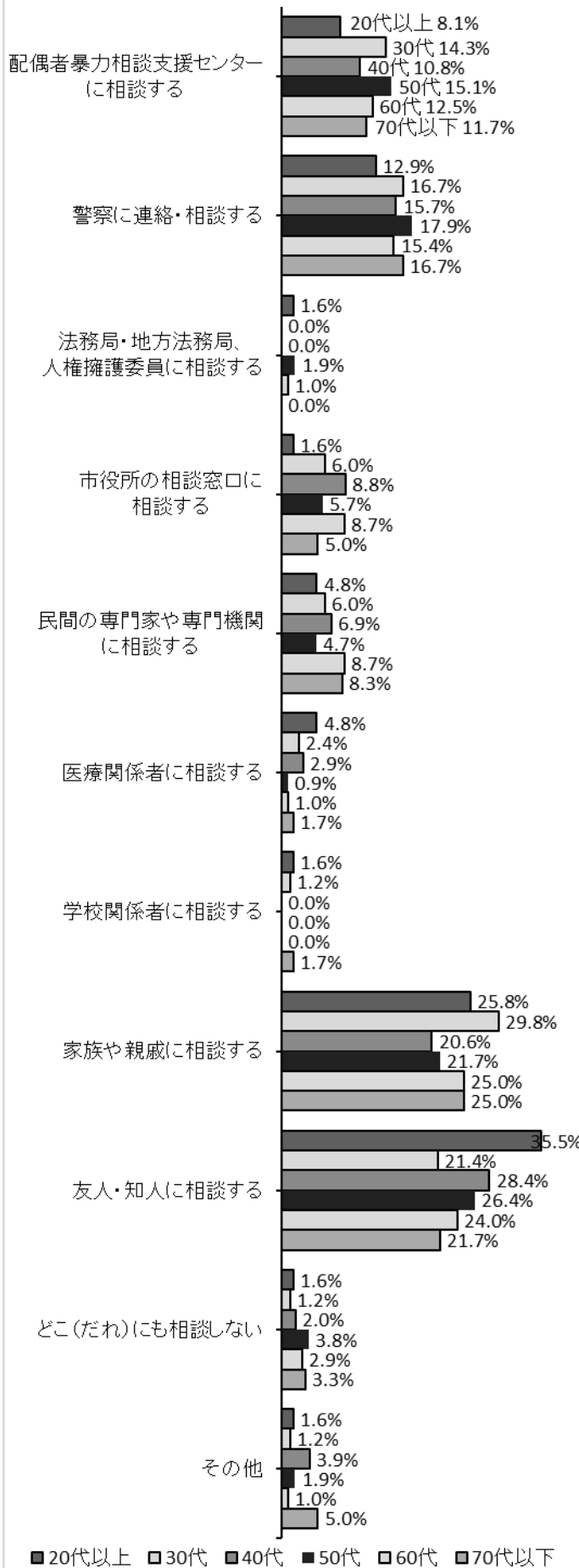
全体では「友人・知人」(23.3%)、「家族や親戚」(21.2%)が多い。次いで、「警察」(19.1%)や「配偶者暴力支援センター」(12.1%)となっている。

「誰にも相談しない」と回答した人が女性で2.5%、男性で2.7%おり、相談できない人も一定数いる状況がうかがわれる。

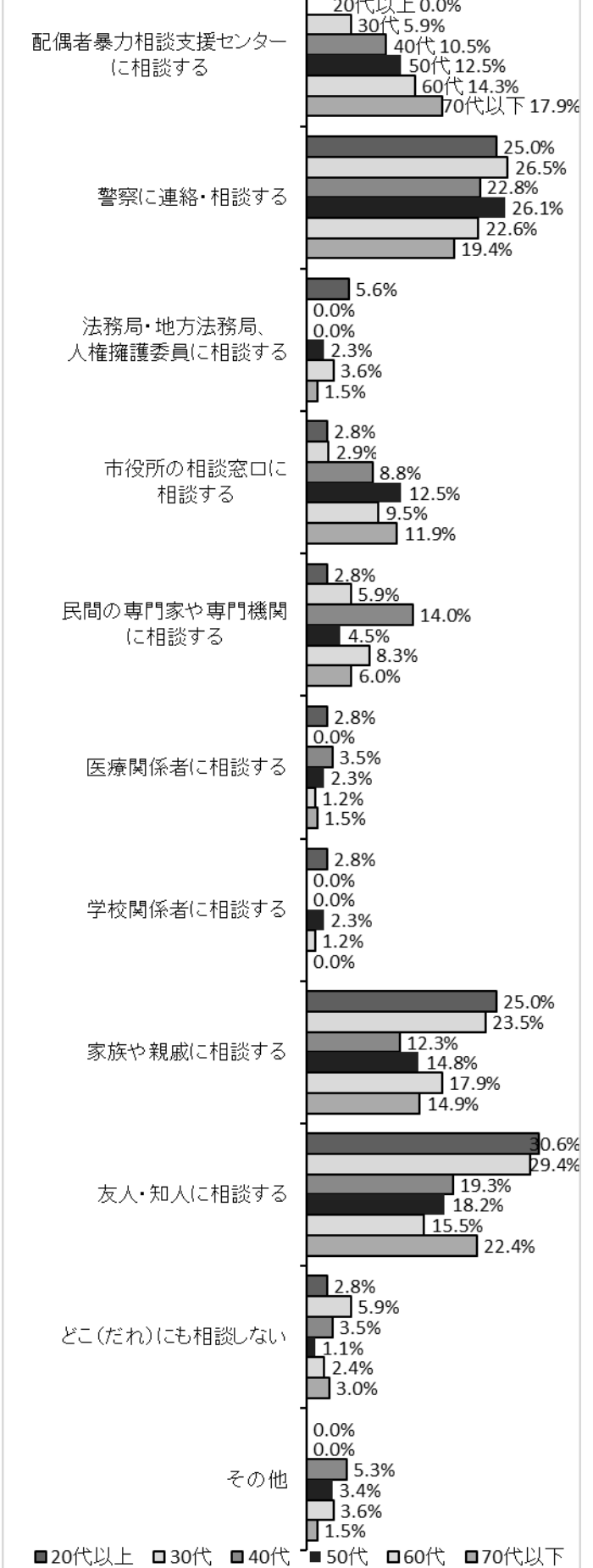
■DVを受けた場合、誰かに打ち明けたり、相談したりしますか



【女性】



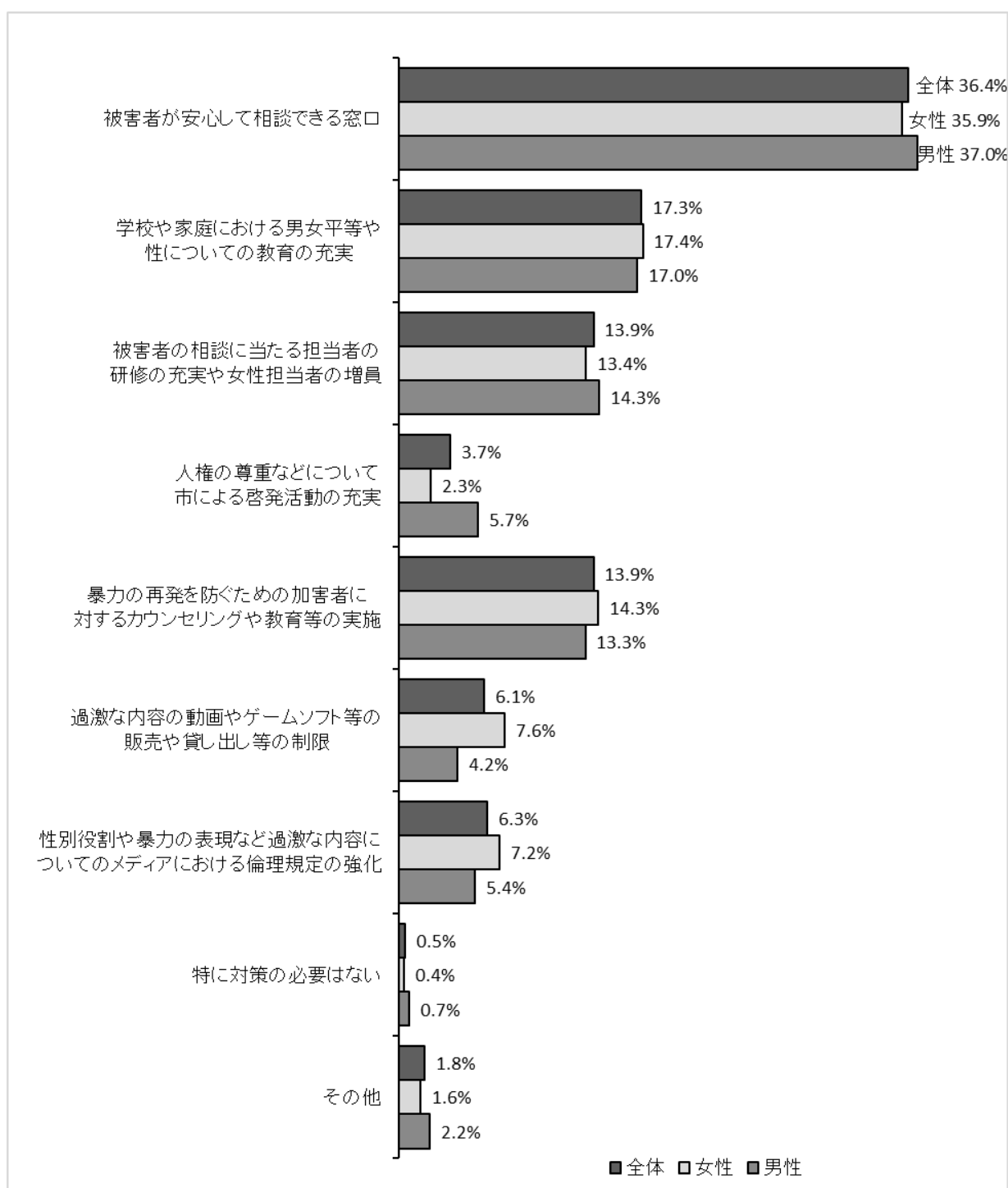
【男性】



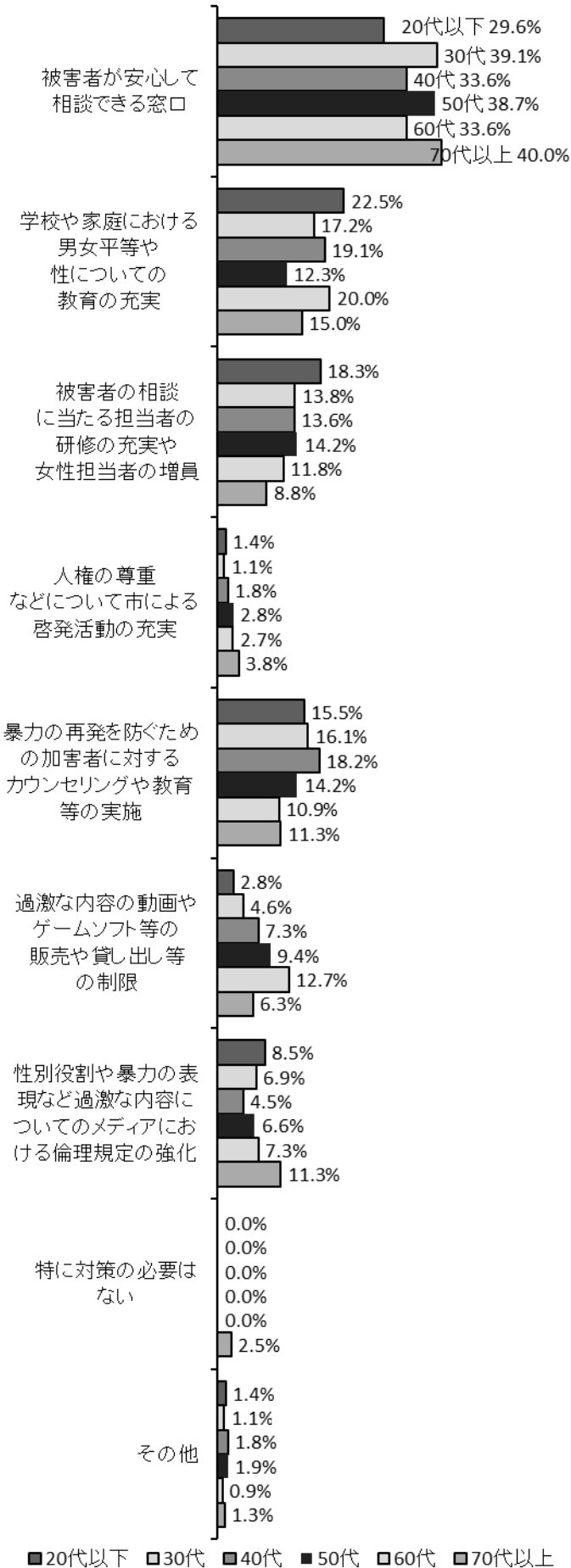
④ 性犯罪・DV・ハラスメント対策

全体では、「被害者が安心して相談できる窓口」(36.4%)と回答した人が多く、男女とも一番多い。次いで「学校や家庭における男女平等や性についての教育の充実」(17.3%)、「被害者の相談に当たる担当者の研修の充実や女性担当者の増員」(13.9%)、「暴力の再発を防ぐための加害者に対するカウンセリングや教育等の実施」(13.9%)が多い。

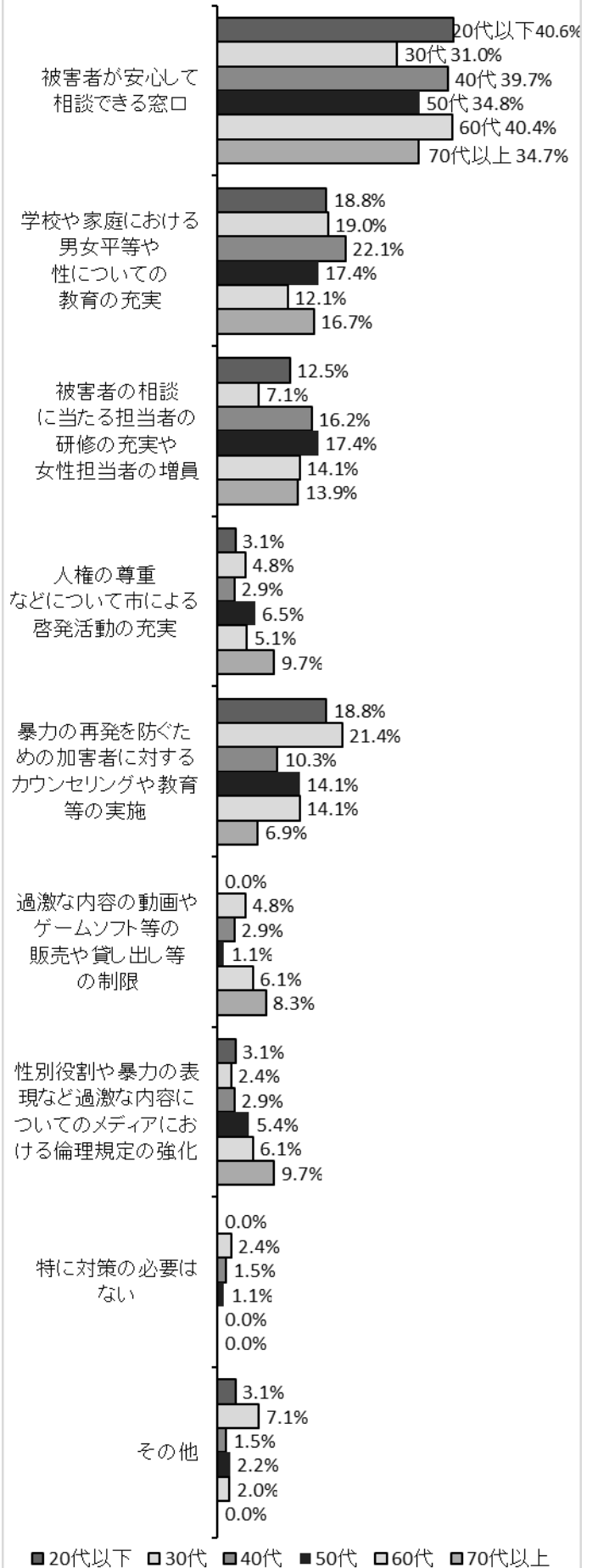
- 性犯罪、DV、セクシャル・ハラスメント（相手を不快にさせる性的言動）、パワー・ハラスメント、モラル・ハラスメント等の暴力への対策としてどのようなことが必要だと思いますか



【女性】



【男性】

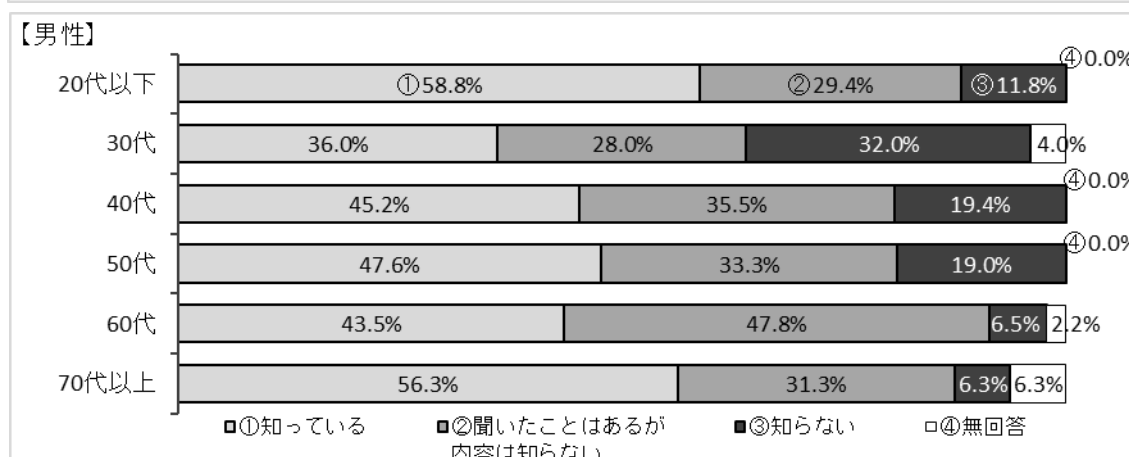
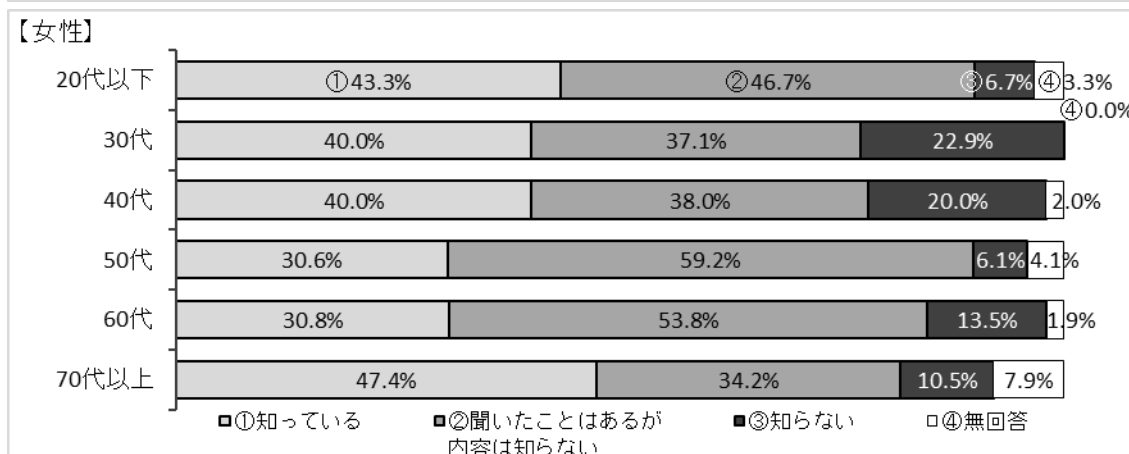
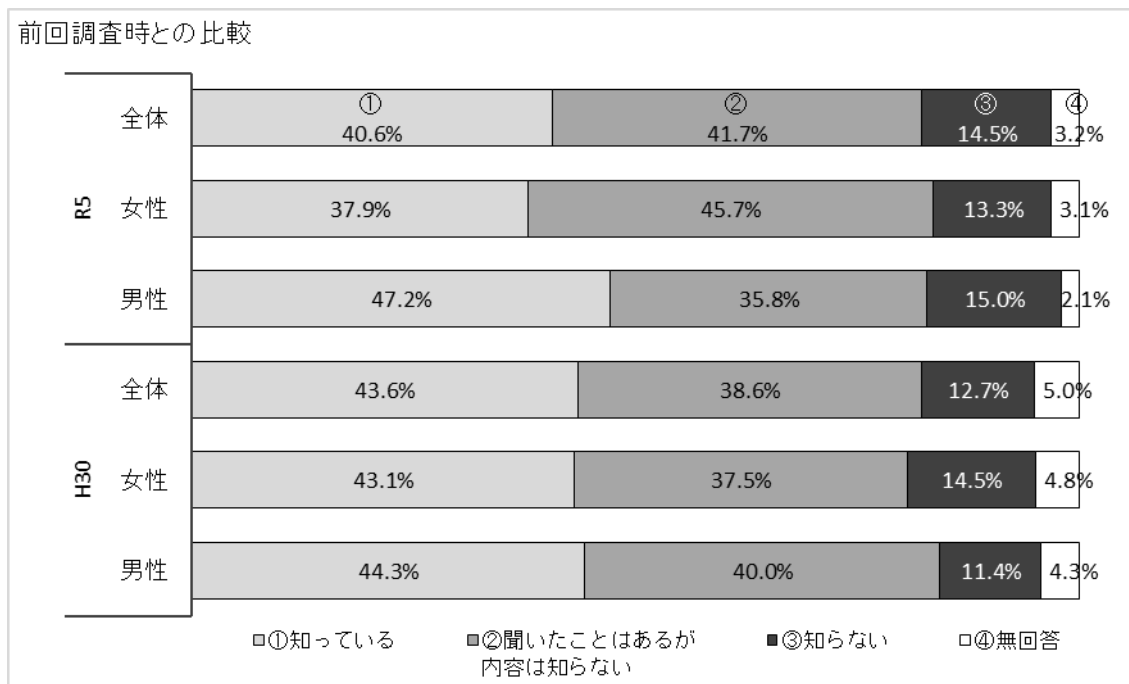


(8) 男女共同参画に関する言葉や法律の認知度

■ 男女共同参画社会

全体では、「知っている」と回答した人は、40.6%であり、前回(43.6%)より3.0ポイント減っている。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した人(41.7%)は3.1ポイント増えた。

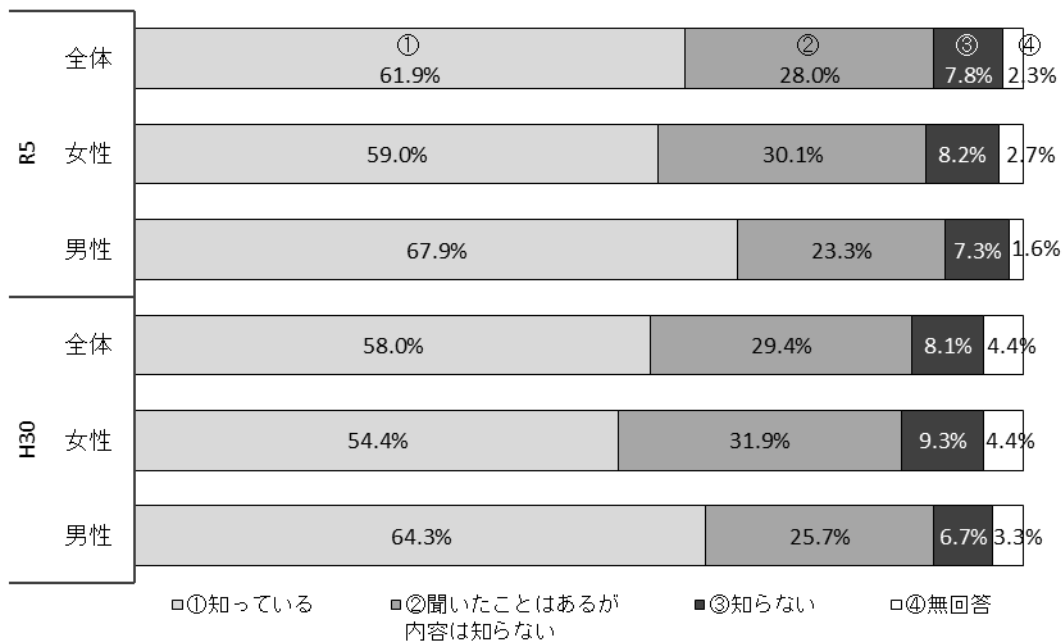
「知らない」と回答した人は、男女とも30代がほかの年代に比べて多い。



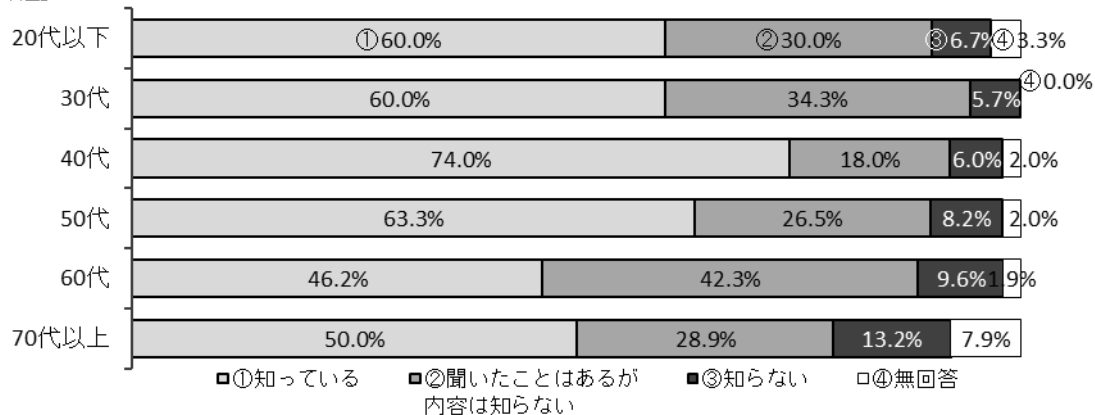
■ 男女雇用機会均等法

全体では、「知っている」と回答した人は、61.9%であり、前回（58.0%）より3.9ポイント増えている。性別で見ると、女性で4.6ポイント、男性で3.6ポイント増えている。年代別では、女性の60代以上で5割以下となっている。一方、「知らない」と回答した人は男性の40代（16.1%）がほかの年代に比べて多い。

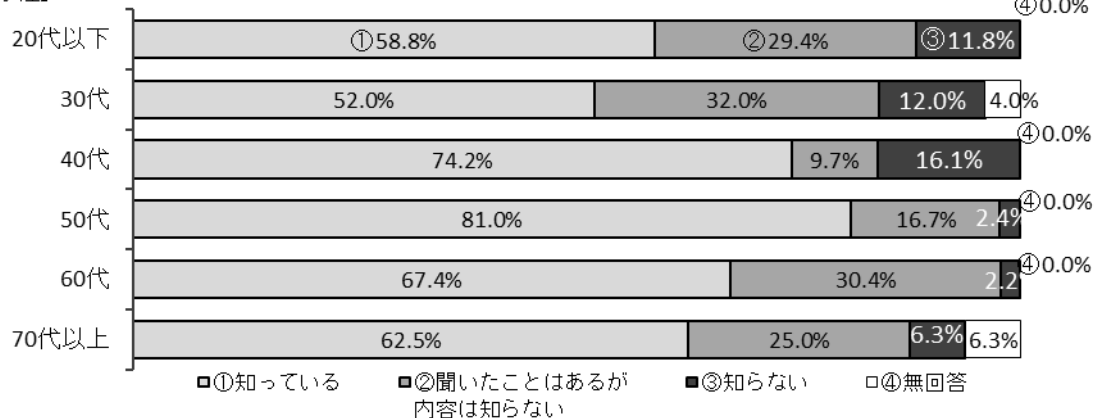
前回調査時との比較



【女性】



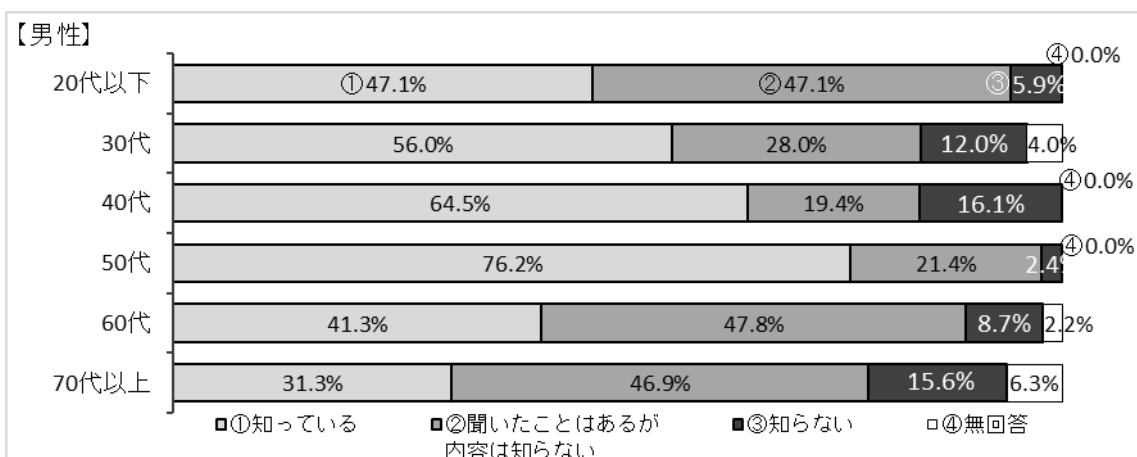
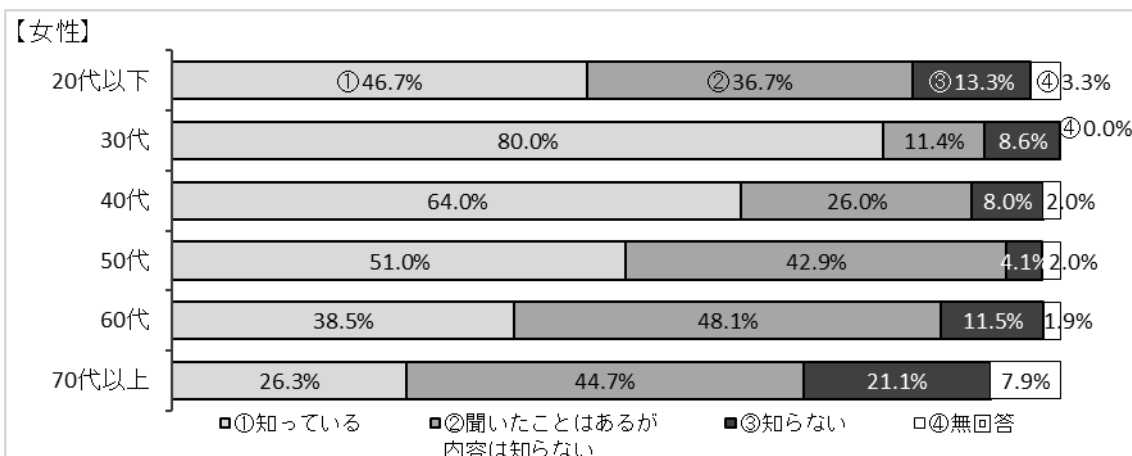
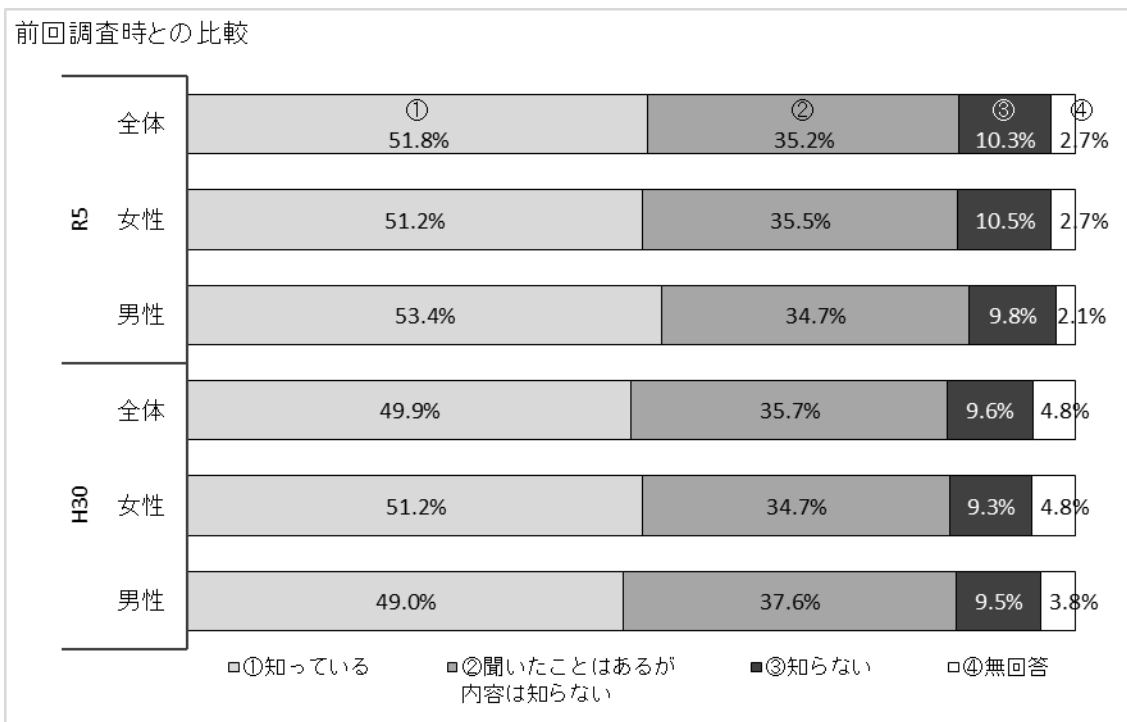
【男性】



■ 育児・介護休業法

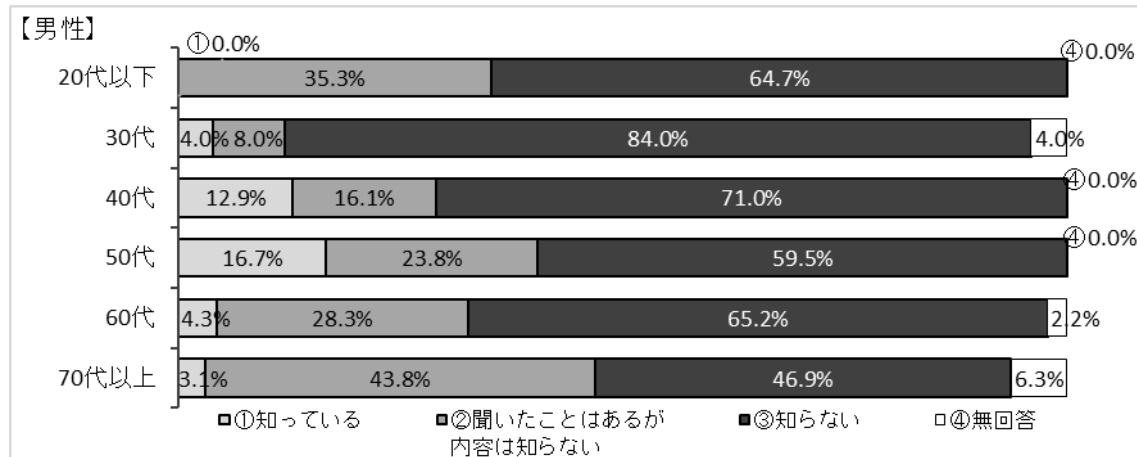
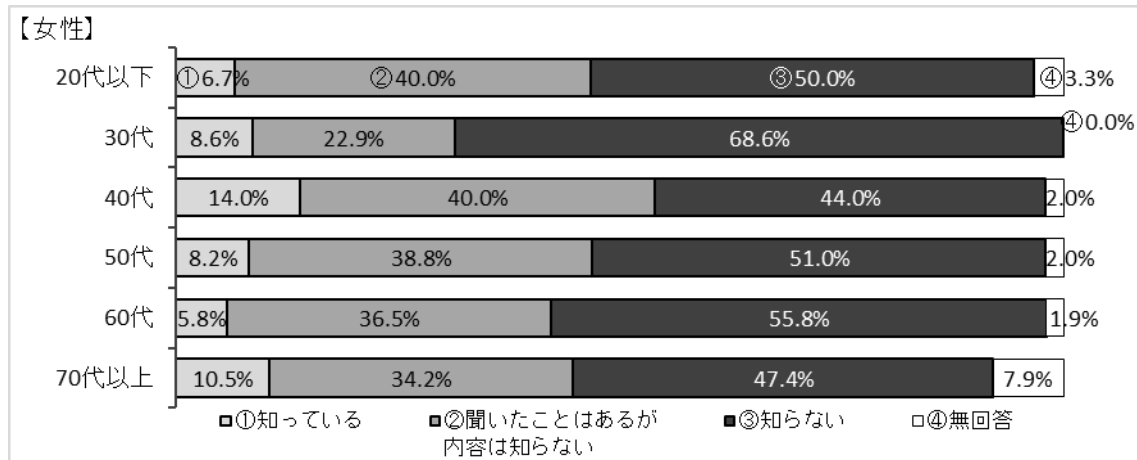
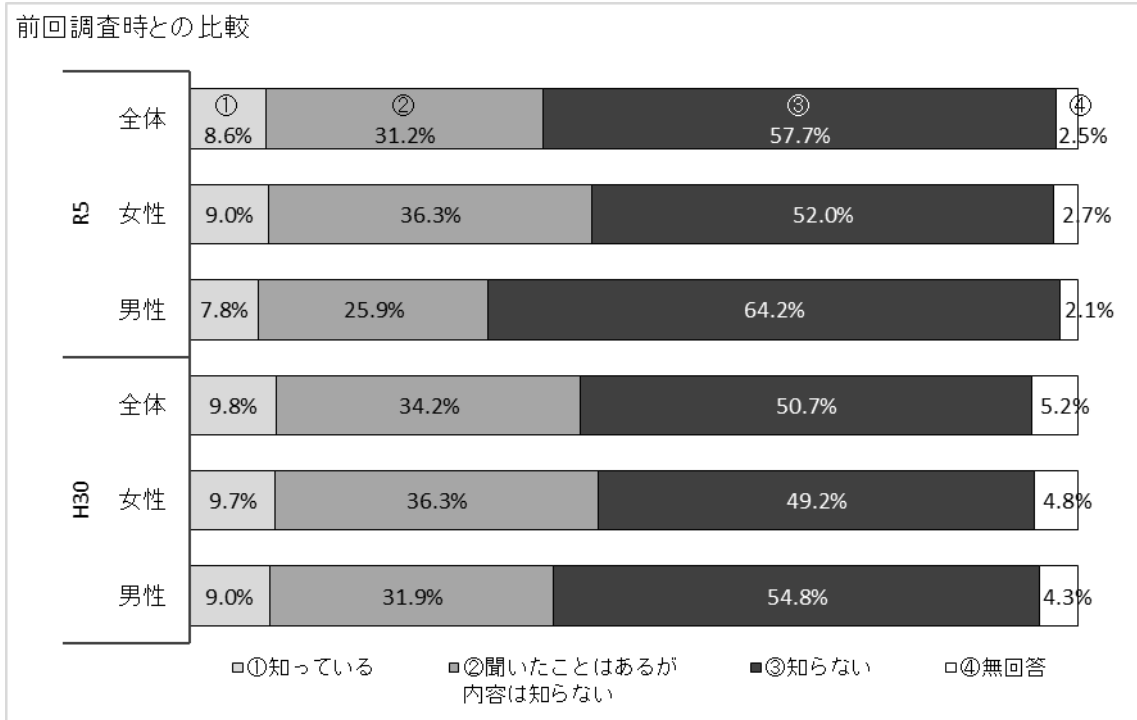
全体では、「知っている」と回答した人は、51.8%であり、前回（49.9%）より1.9ポイント増えている。

育児休業の取得や介護休業の取得の年代にある、30代、40代、50代が「知っている」と回答した人が多く、特に女性では30代、男性では50代が多い。



■ 岡谷市男女共同参画条例（平成 16 年 4 月 1 日施行）

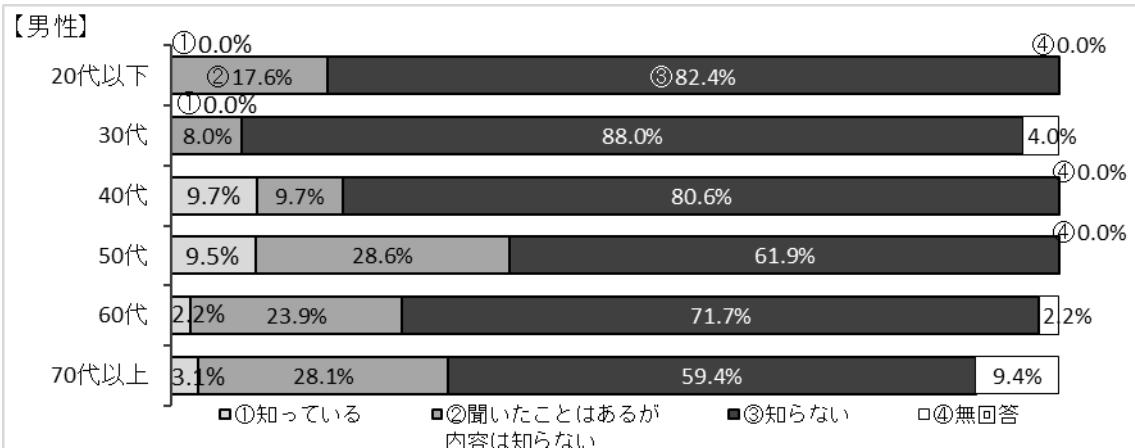
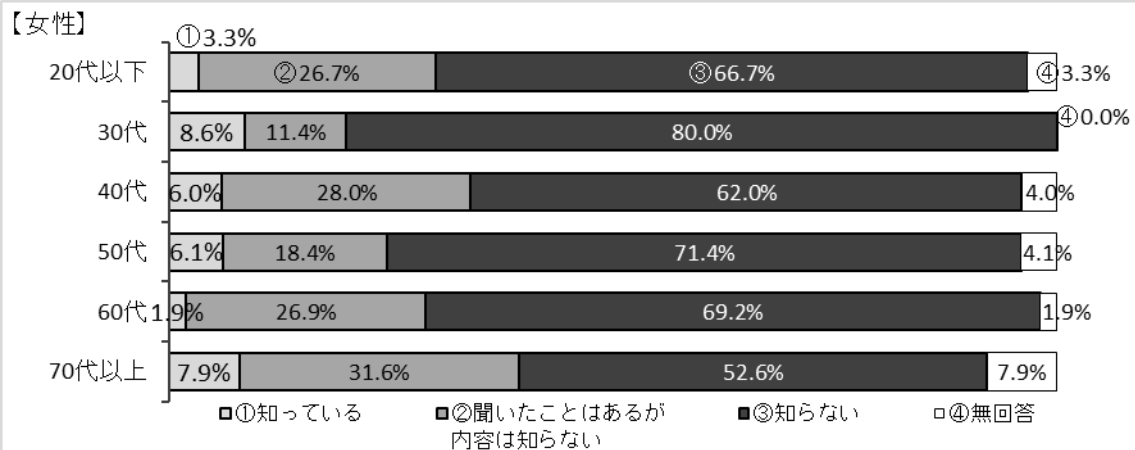
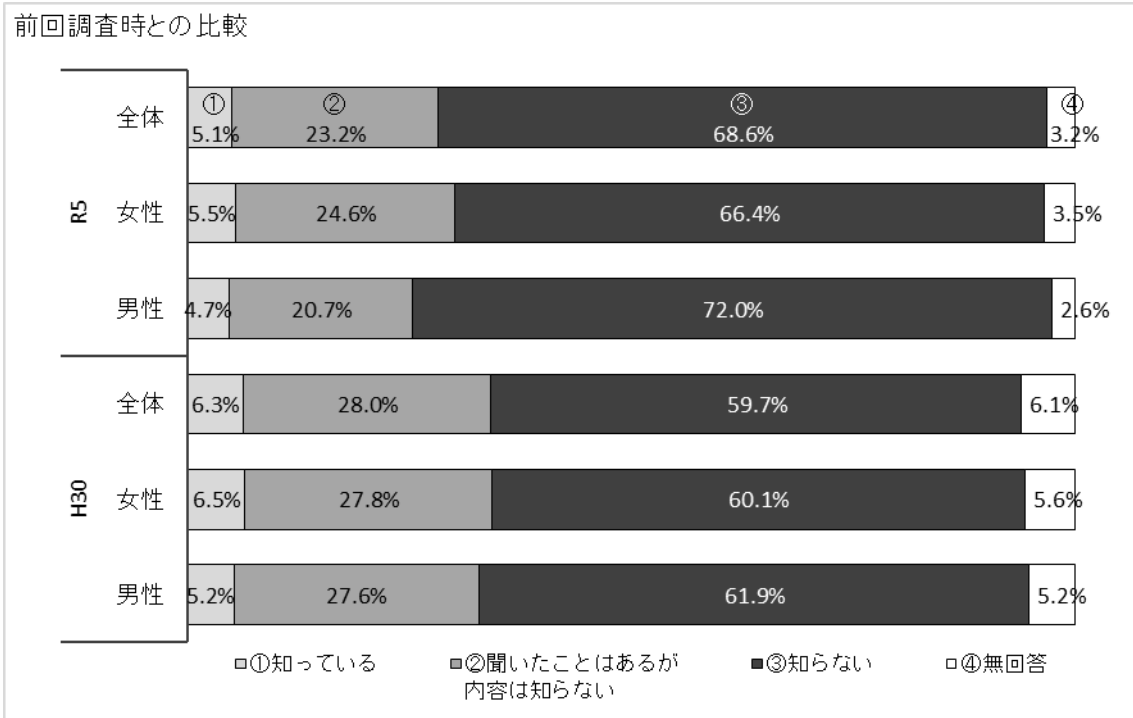
全体では、「わからない」と回答した人は、57.7%であり、認知度の低さがうかがわれる。特に男女とも30代（女性68.6%、男性84.0%）でわからないと回答した人が多い。



■ 男女共同参画おかやプランⅥ（平成31年3月策定）

全体では、「わからない」と回答した人は、68.6%であり、前回（59.7%）よりも8.9ポイント増えている。一方で「知っている」と回答した人は5.1%で前回（6.3%）よりも1.2ポイント減っており、認知度は低い。

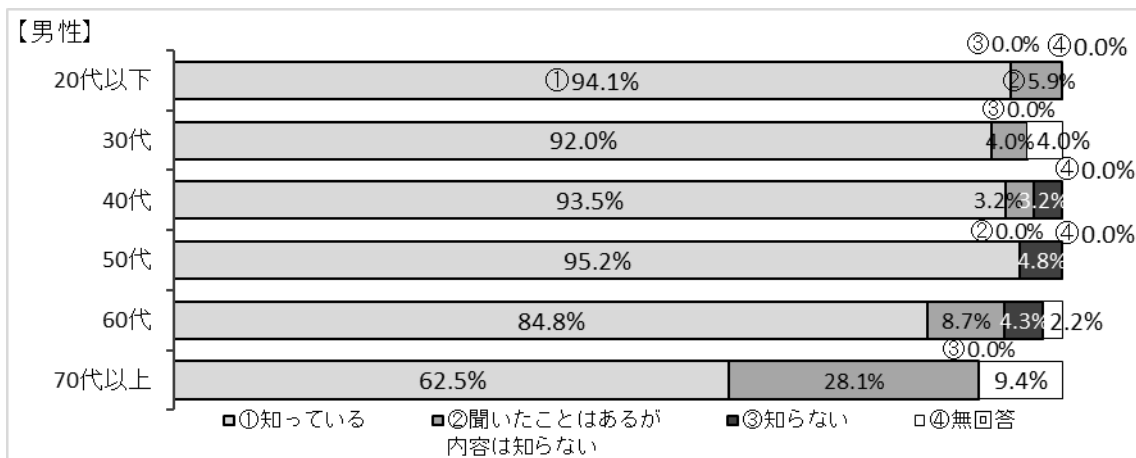
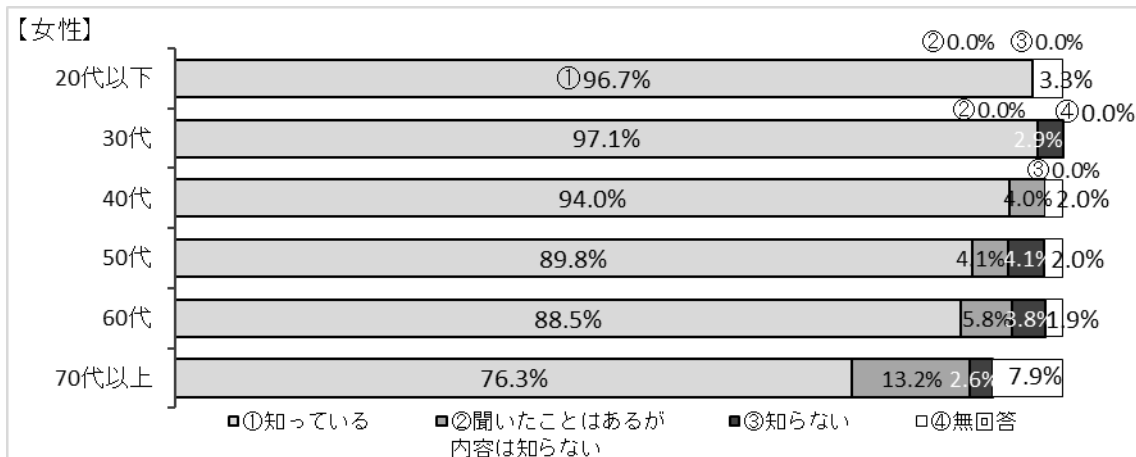
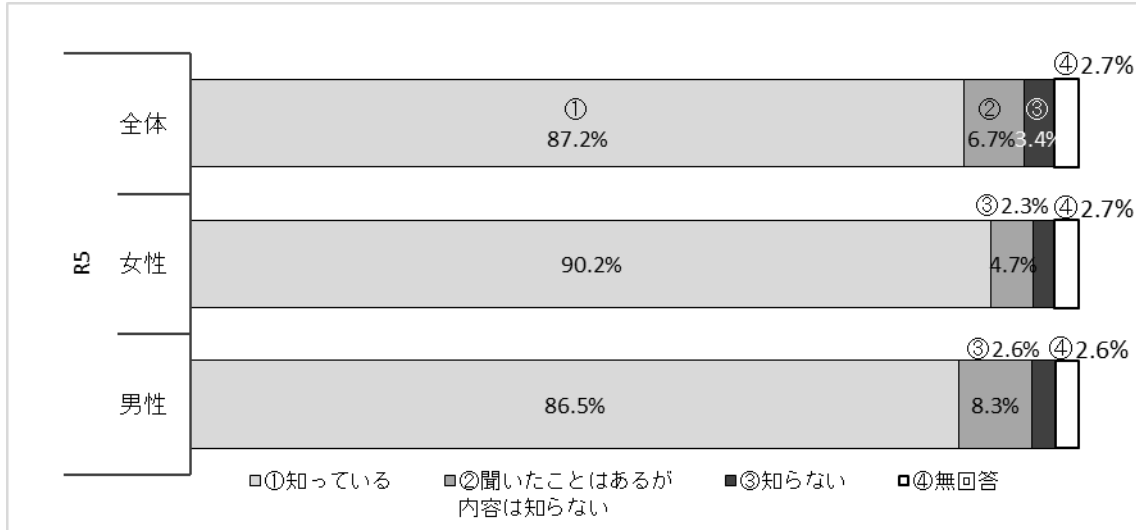
女性の30代、男性の20代、30代、40代で、「わからない」と回答した人が8割以上となっている。



■ DV（配偶者やパートナーなど親密な関係の相手からの暴力）

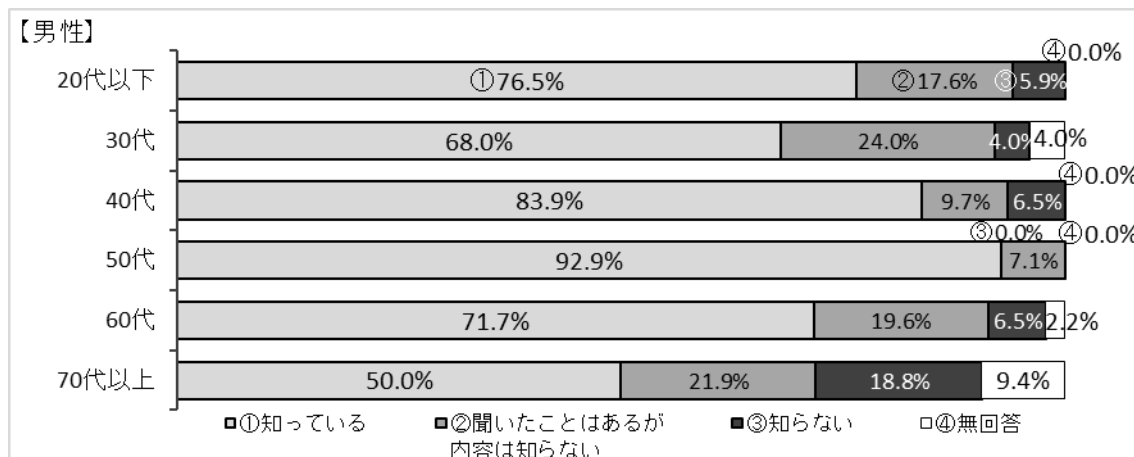
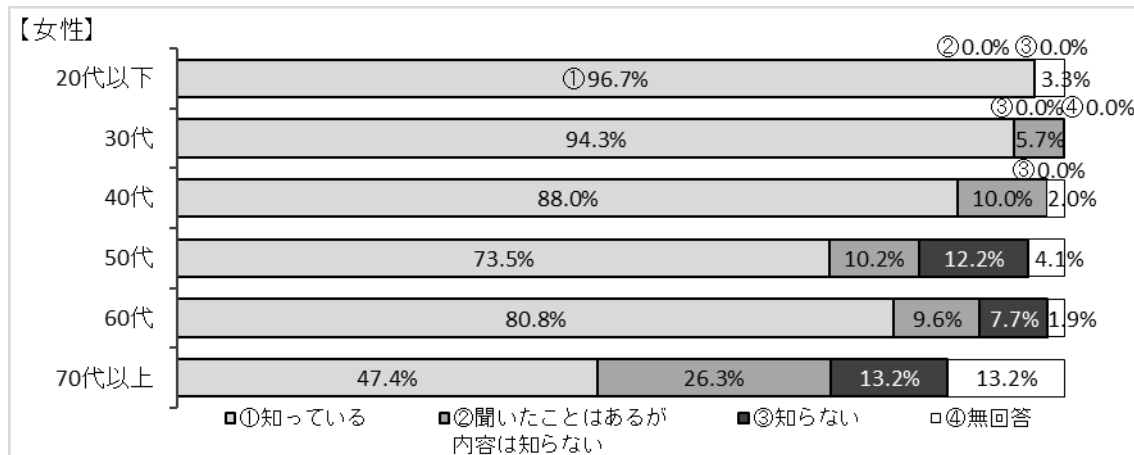
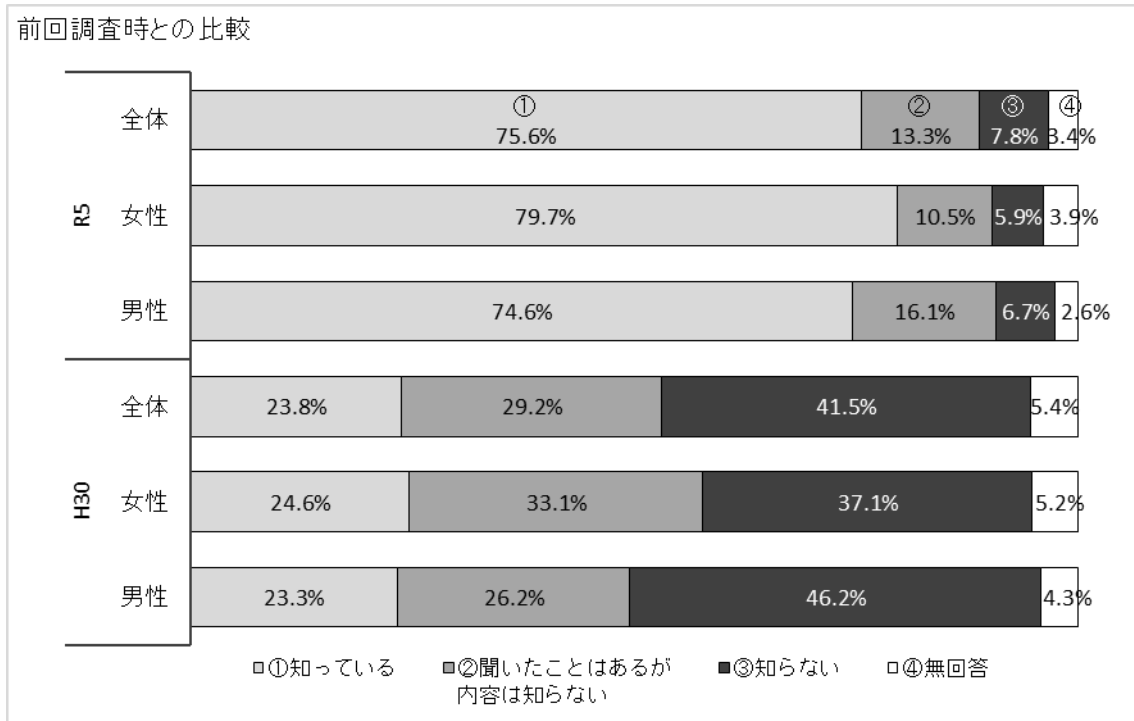
全体では、「知っている」と回答した人は、87.2%であり、大半の人が知っている。
男女とも、20代、30代と若い世代で知っている人が多く、年代が上がるほど認知度が低い傾向にある。

※令和5年度より調査



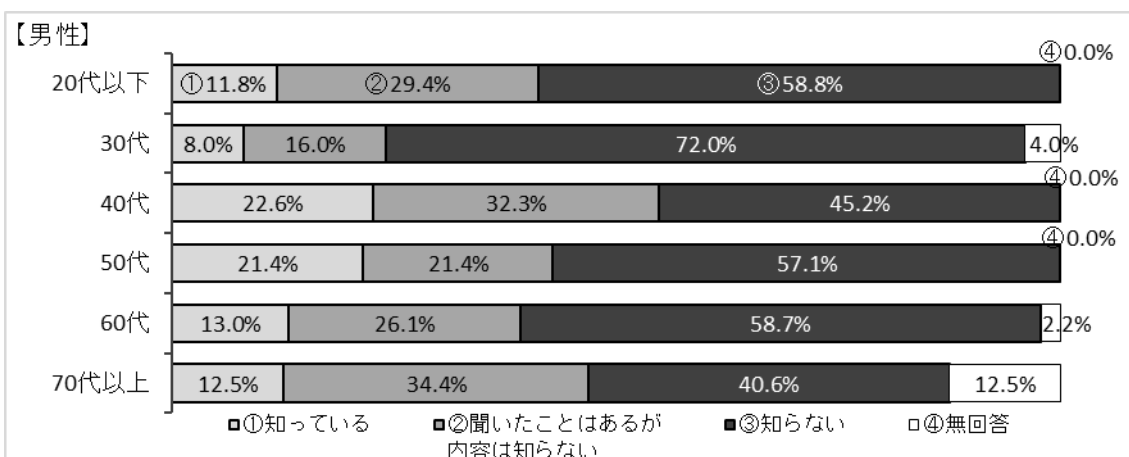
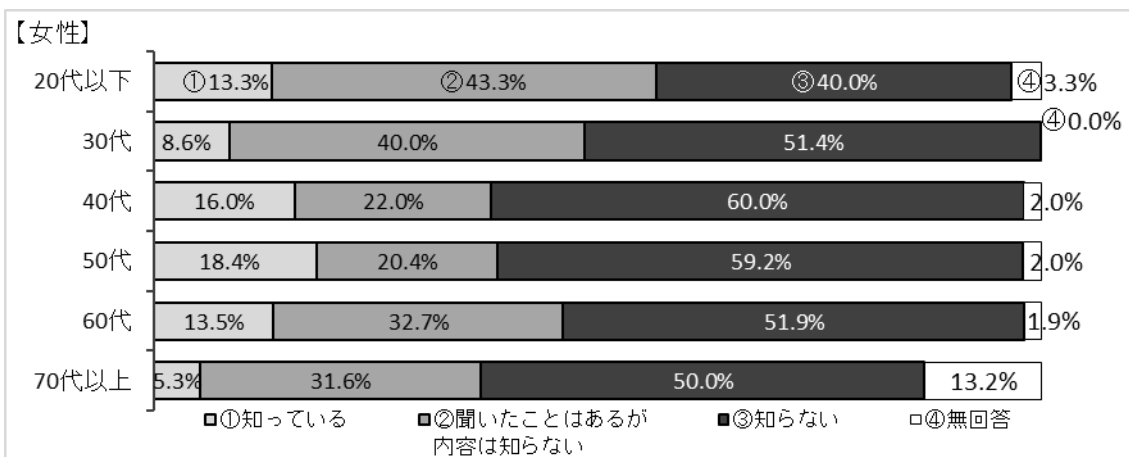
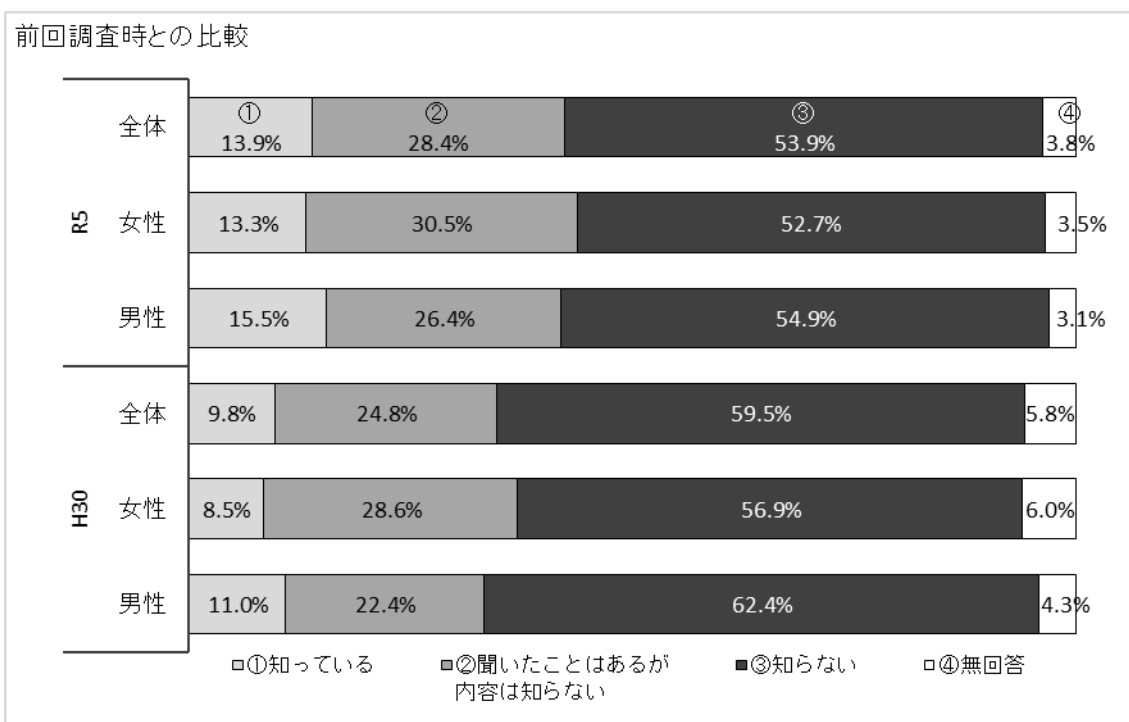
■ ジェンダー（社会的・文化的に作られた性差のこと）

全体では、「知っている」と回答した人は、75.6%であり、前回（23.8%）よりも51.8ポイントと飛躍的に増えている。「聞いたことはある」とする人も入れると9割近い人が、言葉は知っている。一方で、男女とも70代以上での認知度はほかの年代に比べて低い。



■ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

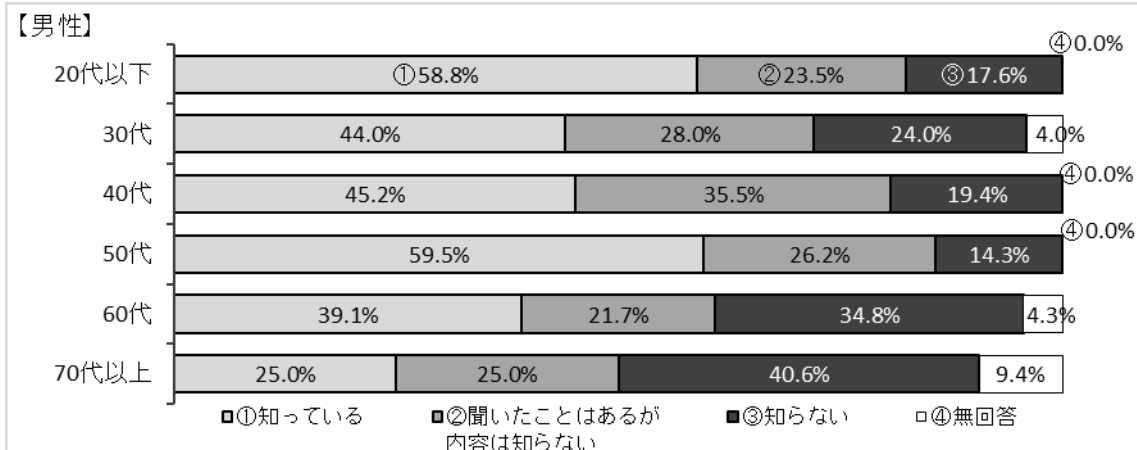
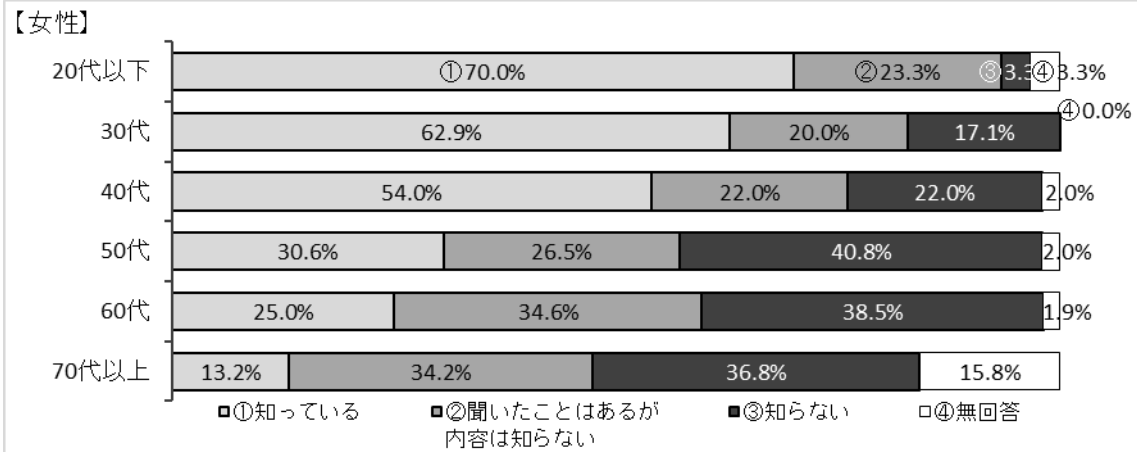
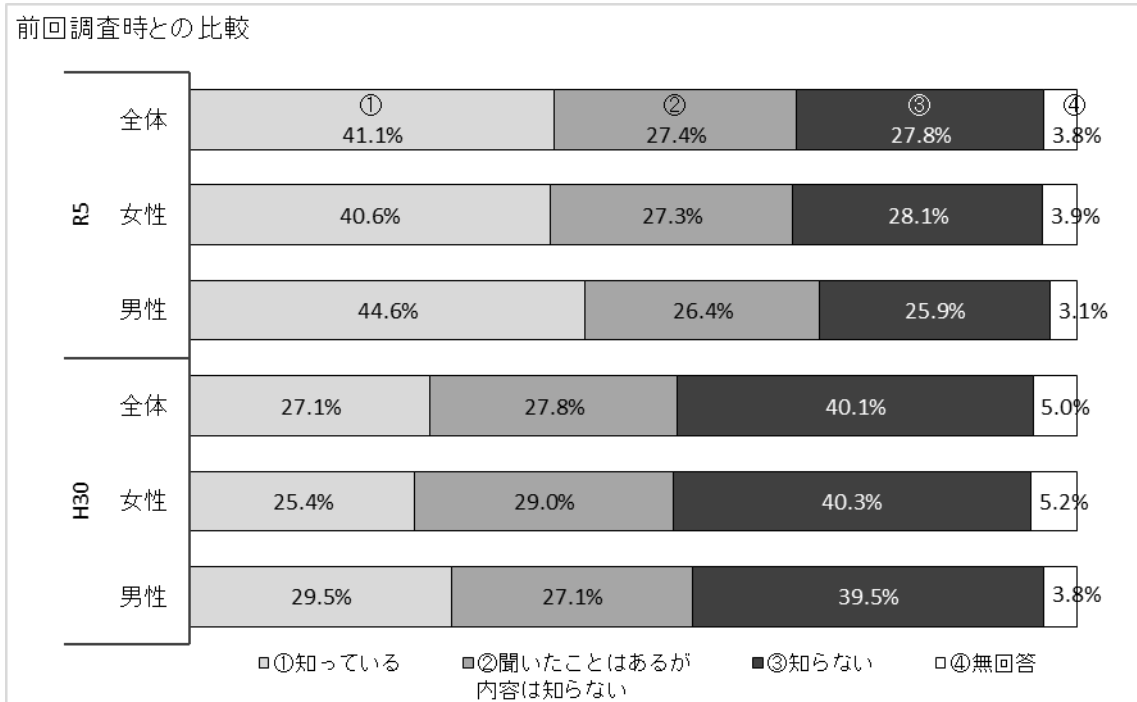
全体では、「知っている」と回答した人は、13.9%であり、認知度は低い。男女とも5割以上が「わからない」と回答している。



■ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

全体では、「知っている」と回答した人は、41.1%であり、前回（27.1%）よりも14.0ポイントと大きく増えている。「知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせると、男女とも6割の人が知っている。

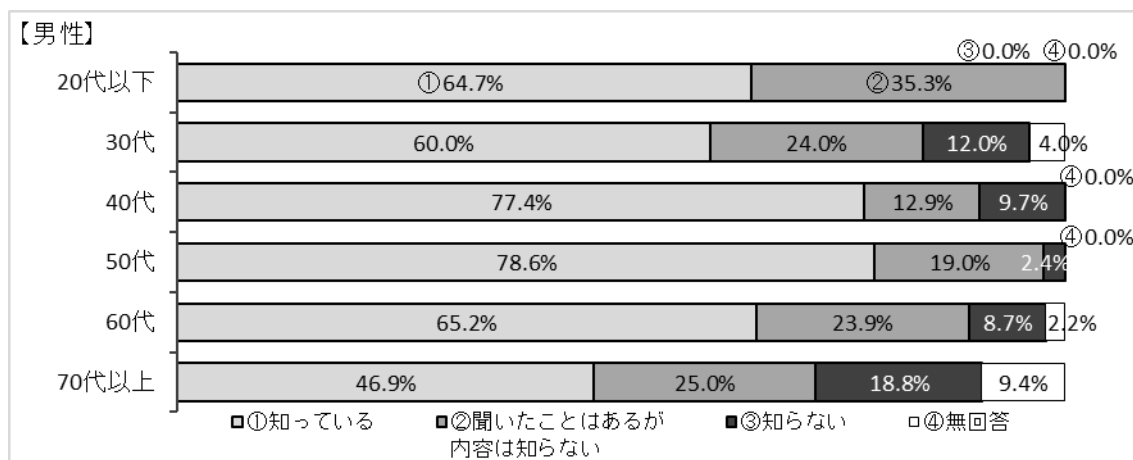
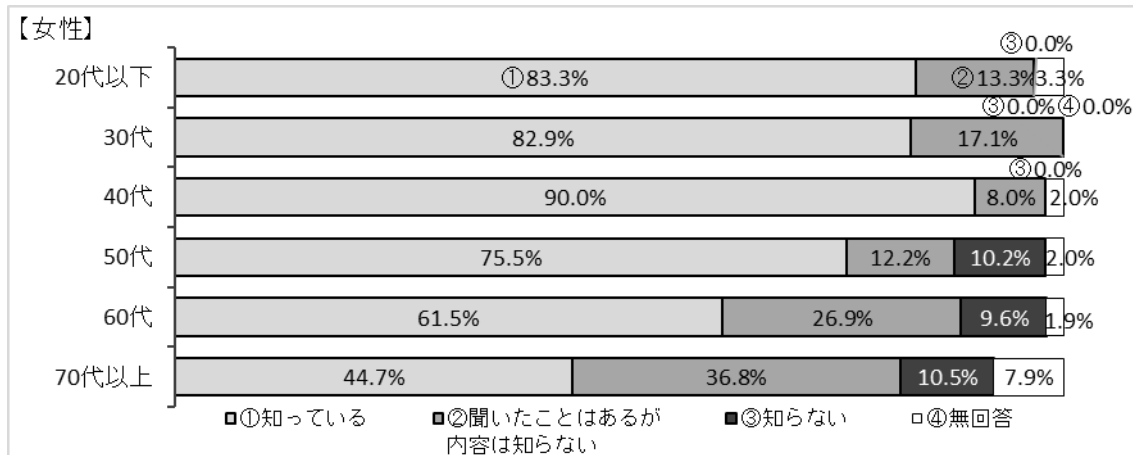
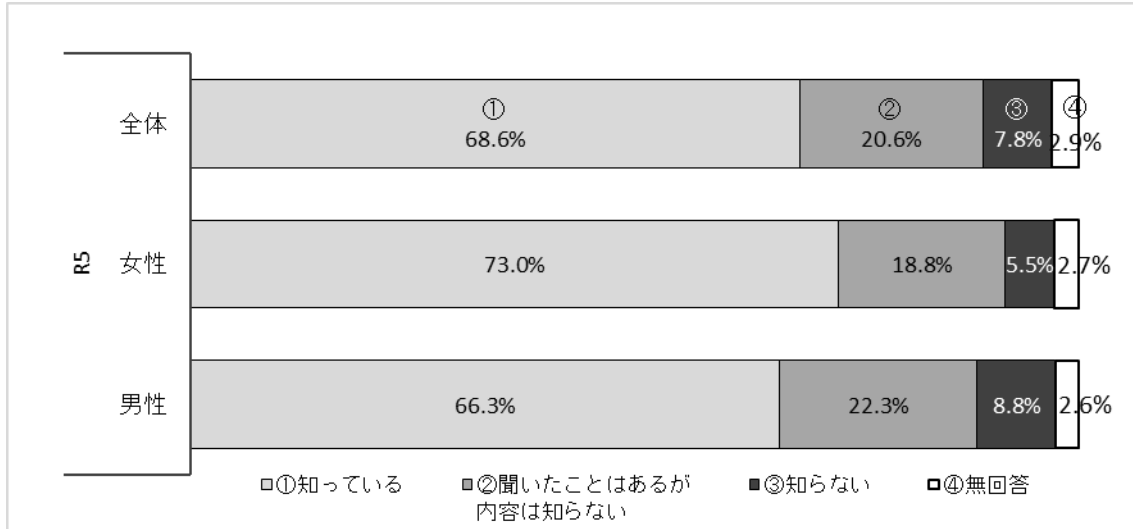
年代別では、男女とも60代、70代以上と年代が上がるほど認知度が低い傾向にある。



■ 性的マイノリティ、LGBTQ

全体では、「知っている」と回答した人は、68.6%であり、認知度は比較的高い。特に女性では、20代、30代、40代で8割を超えている。一方で、年代が上がるほど認知度が低くなる様子が見られる。

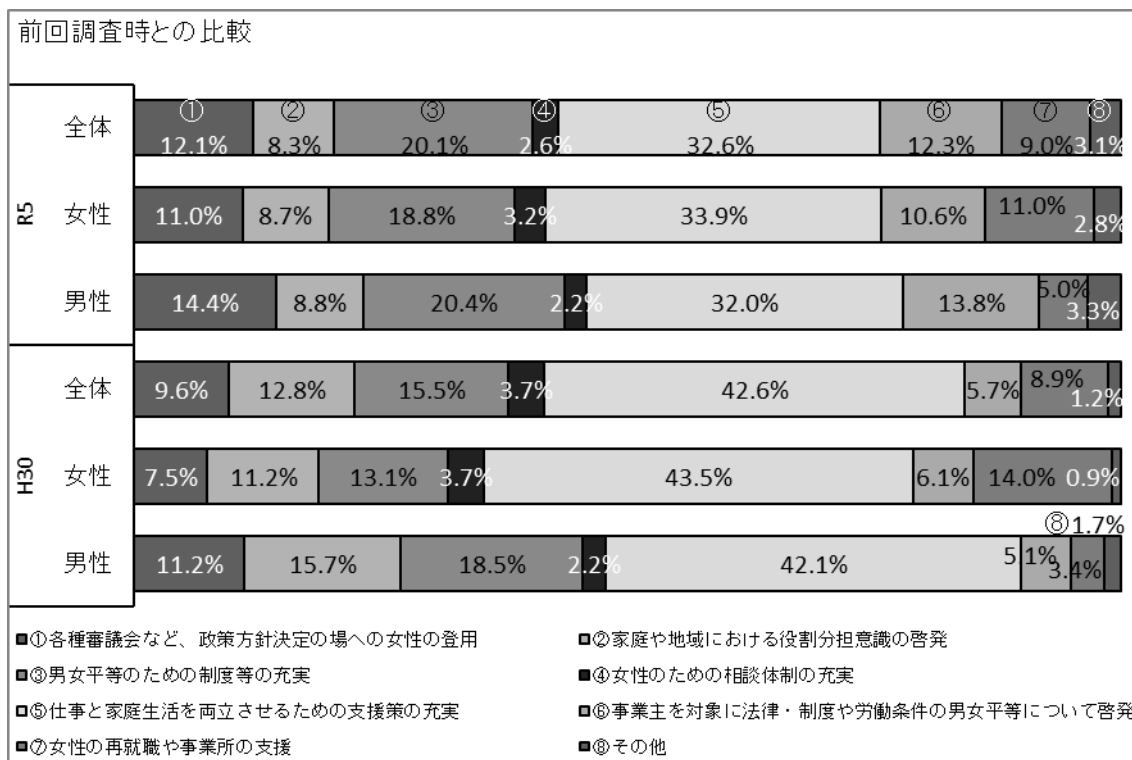
※令和5年度より調査



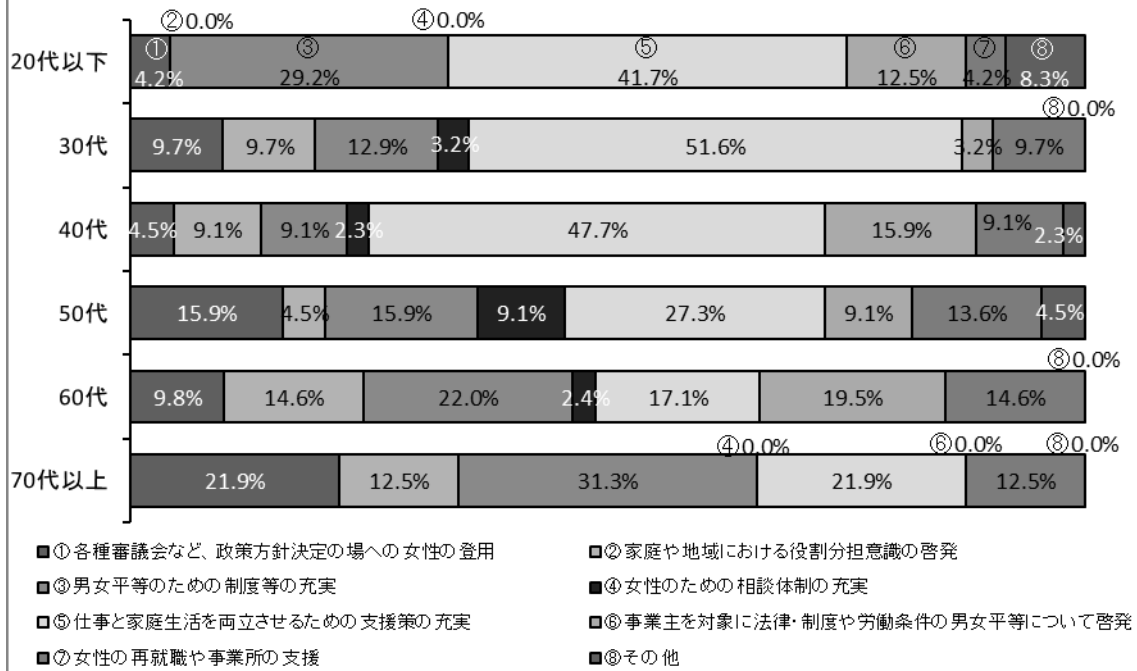
(9) 男女共同参画社会実現のために望むこと

全体では「仕事と家庭生活を両立させるための支援策の充実」(32.6%)を望む声が多い。特に男女とも、20代、30代、40代に多くなっている。次いで「男女平等のための制度等の充実」(20.1%)を望む人が多い。

男女とも年代が上がるほど「各種審議会など、政策方針決定の場への女性の登用」が多くなる傾向にある。なお、女性では、「女性の再就職や事業所の支援」(11.0%)も多い。



【女性】



【男性】

